

大垣女子短期大学

# 紀 要

第 64 号

2 0 2 3

## 目 次

### 原 著

- 歯科衛生士養成短期大学に関する調査……………加藤 智樹・松川 千夏…… ( 1)
- 美術館の造形ワークショップで使われる材料についての調査と考察……立崎 博則…… (13)
- 匿名発言ツール「Slido」の効果的な授業活用について……………茂木 七香…… (21)

### 報 告

- コロナ禍において実施した授業「学生ミニトーク」の報告  
—保育者養成校における学生の話す力を鍛えるために—……………今村 民子…… (31)
- コロナ禍における子育てサロンの取り組みの報告  
—2020 年度から 3 年間の子育てサロン「ぷっぷあ」の活動について—  
……………今村 民子…… (43)
- 2022 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告  
～メンタルヘルス教育の導入と学生相談室イベントの開催～  
……………茂木 七香・松下 智子…… (55)

### 作 品

- Humanity — 未熟 —、意味の輪廻 ……………黒田 皇…… (65)
- 彙報（学外における主な研究・教育並びに社会活動）…………… (67)

# BULLETIN OF OGAKI WOMEN'S COLLEGE

NO.64 (2023)

## CONTENTS

### 【Original Articles】

- Survey of Dental hygienist junior college's associate degree  
..... Tomoki KATO, Chinatsu MATSUKAWA ..... ( 1)
- A research and a consideration for material selected for art  
workshops in museums ..... Hironori TACHIZAKI ..... (13)
- The Effective Usage of Anonymous Comment tool “Slido”  
in College Classes ..... Nanaka MOGI ..... (21)

### 【Reports】

- A Report on the classes of speech training using short  
presentation during the COVID-19 ..... Tamiko IMAMURA ..... (31)
- Report on the efforts of child-rearing salons in the corona disaster  
..... Tamiko IMAMURA ..... (43)
- Activity Report 2022 - Student Counseling Room  
..... Nanaka MOGI, Tomoko MATSUSHITA ..... (55)

### 【Works】

- Humanity — immaturity—, Reincarnation of meaning ..... koh KURODA ..... (65)
- Miscellaneous ..... (67)

OGAKI WOMEN'S COLLEGE

OGAKI, GIFU, JAPAN

May 2023

## 歯科衛生士養成短期大学に関する調査

### Survey of Dental hygienist junior college's associate degree

加藤 智 樹  
Tomoki KATO

松 川 千 夏  
Chinatsu MATSUKAWA

#### 緒言

日本では1948年に歯科衛生士法が制定され歯科衛生士が国家資格となった。これは、第二次世界大戦の影響により悪化した国内の公衆衛生を改善する一環として、歯科・口腔衛生向上に寄与するためであった。当時の修業年限は1年であったが、専門教育の充実のため1983年には修業年限が2年以上に引き上げられた。なお、現存する大学および短期大学歯科衛生士養成課程のうち、1983年時点で既に短期大学として学科が開設されていたのは開設順に、日本女子衛生短大（現・神奈川歯科大学短大部）、鶴見女子短大（現・鶴見大学短大部）、関西女子短大、高知学園短大、大垣女子短大、千葉県立衛生短大（現・千葉県立保健医療大学）の6校である。そして戦後の復興や高度成長期、バブル崩壊、少子高齢化、公的機関の法人化、相次ぐ震災などに見舞われるなか、医療・福祉分野では多種多様な患者への対応、チーム医療の充実がすすめられ、歯科分野においても対応していくべく、2004年に歯科衛生士学校養成所指定規則<sup>1)</sup>が改訂され、教育内容として「基礎分野」「専門基礎分野」「専門分野」「選択必修分野」の4分野に大綱化された（表1）。

また、指定規則の改訂にともない、歯科衛生士学校養成所の3年制移行が始まり、2010年にはすべての学校養成所が修業年限3年以上に完全移行した<sup>1) 2)</sup>。修業年限が延びたことで、専門教育の充実のみならず専攻科の設置の様な4年制大学や大学院との連携

を意識した、各校独自の特色ある教育内容を取り入れることがより可能になった<sup>1)</sup>。

2021年（令和3年）4月1日時点での歯科衛生士学校養成所は179校であり、そのうち大学は12校、短期大学は16校、専門学校が151校となっている<sup>2)</sup>。歯科衛生士学校養成所指定規則改正以降も、専門学校が大多数を占めているが、看護師学校養成所をはじめ他の医療・福祉職学校養成所の近年の動向と同じく、歯科衛生士養成においても大学・短期大学での学科開設が増加傾向にある。

短期大学に着目すると、短期大学は学校教育基本法<sup>3)</sup>において大学制度の枠内に置かれたものであり、学校種としては大学の一類型とされ、「短期大学士（旧・準学士）」の学位が授与される。そのため短期大学は、第八十三条に謳われる大学の目的、つまり深く専門の学芸を教授研究し、知的、道徳的及び応用能力を展開させる」を意識しつつも、後に続く第百八条において「第八十三条第一項に規定する目的に代えて、深く専門の学芸を教授研究し、職業または実生活に必要な能力を育成することを主な目的とすることができる」と定義され実学に重きをおく特徴も備えた興味深い教育研究機関である。

そこで今回筆者らは、短期大学における近年の歯科衛生士養成の特徴をとらえていくため、直近3年間における各校の情報公開内容を調査し比較・解析したのでここに報告する。



## 方法

## 1 対象校の選定と調査

表 1 歯科衛生士学校養成所指定規則 大綱化された 4 分野の教育内容と単位数

分野	教育内容	単位数
基礎分野	科学的思考の基盤（人間と生活）	10
専門基礎分野	人体（歯・口腔を除く）の構造と機能	4
	歯・口腔の構造と機能	5
	疾病の成り立ち及び回復過程の促進	6
	歯・口腔の健康と予防に関わる人間と社会の仕組み	7
専門分野	歯科衛生士概論	2
	臨床歯科医学	8
	歯科予防処置論	8
	歯科保健指導論	7
	歯科診療補助論	9
	臨地実習（臨床実習含む）	20
選択必修分野		7
合計		93

2022 年版歯科保健関係統計資料<sup>2)</sup>に掲載されている歯科衛生士養成短期大学（以下、短期大学）全 16 校を対象とし、各短期大学の公式ホームページ上の「教育情報の公開」を中心に、設立主体、入学資格（女子）の設定の有無、併設大学の有無、併設大学における歯学部の有無、専攻科開設の有無、学費（3 年間の合計、諸経費除く）、入学試験実施回数と試験区分、入学試験選考方法および科目数、卒業要件単位数、卒業研究の有無、卒業研究の単位数と必修設定の有無、国家試験対策科目の設定の有無、国家試験対策科目の単位数についての情報を得て統計解析の因子とした。なお、併設大学の定義は、各大学・短期大学の公開情報より設立経緯や立地情報を調べ、同一法人により設立されキャンパスが短期大学と同一敷地内もしくは隣接しているものとし、かつ、それぞれの施設の共有や学生間の交流が確認される大学とした。

さらに、歯科保健関係統計資料（2018 年～2020 年版）<sup>4)5)6)</sup>より、各短期大学の 3 年間の総入学定員を調べ、歯科衛生士国家試験学校別合格者状況（第 29 回～第 31 回）<sup>7)8)9)</sup>

より、各短期大学の 3 年間の新卒の歯科衛生士国家試験総受験者数および合格者数を得た。これらの情報をもとに、3 年間の総入学定員から新卒 3 年間の歯科衛生士国家試験総受験者数を減じたものが、3 年間の総入学定員に占める割合を算出し、「推定ドロップアウト割合」とした<sup>10)</sup>。

## 2 統計解析

変数間の分析には、Fisher の正確確率検定、カイ二乗検定、Spearman の順位相関係数、Willcoxon の順位和の検定を行った。統計解析ソフトは「JMP 13.0 (SAS Institute Inc, Cary, NC, USA)」を用い、p 値は 5 % 未満を統計学的有意と解釈し検討した。

## 結果

まず、全 16 校（A～P）の調査結果を以下に示す（表 2～表 4）。なお、表中の「○」は「あり」を示している。また、表中の斜字は新設であり卒業生がまだ 3 年間分出ていないため、参考値であることを示している。

表2 各短期大学における入学資格・併設大学および歯学部の有無・専攻科・学費・卒業要件・卒業研究情報の一覧表

短期大学	入学資格 (女子の明記)	併設大学 の有無	歯学部 の有無	専攻科 の設置	学費 (円、諸経費除)	卒業要件 単位数	卒業研究		
							開講の有無	単位数	必修化
A					3,250,000	100	○	2	
B	○	○	○	○	3,650,000	108	○	3	○
C		○	○	○	2,670,000	107	○	2	
D	○	○			4,000,000	103	○	2	
E		○	○		3,560,000	102	○	2	
F		○	○		3,450,000	97	○	2	
G				○	4,166,000	93	○	1	○
H		○	○	○	2,550,000	93	○	2	
I	○				3,343,000	97	○	2	
J		○			1,348,982	102	不明		
K	○	○	○	○	3,845,000	105	○	2	○
L	○	○		○	3,758,200	97	○	4	○
M		○			3,600,000	101	不明		
I		○			3,770,000	106	○	2	
O		○			2,990,000	100	○	1	
P		○	○	○	2,910,000	108	○	2	○

表3 各短期大学における入学試験情報の一覧表

短期大学	入学試験のべ回数と内訳(回)										入学試験科目数と内訳									
	のべ回数	推薦	総合選抜	大学共通テスト	一般	社会人	学生	特待生	留学生	帰国子女	総科目数	書型	面接	小論文	国語	英語	数学	理科	社会	その他
A	11	2	3	2	2	2					6	○	○	○	○	○	○	○		
B	5	1	2		1		1				7	○	○	○	○	○	○			○
C	6	2	2		1	1					5	○	○	○	○	○	○			○
D	12	2	4	2	3	1					7	○	○	○	○	○	○			○
E	10	2	4		1	3					4	○	○	○	○	○	○			
F	20	6	5		1	7		1			6	○	○	○	○	○	○			
G	19	3	6	3	2	6			1		6	○	○	○	○	○	○			
H	7	1	2	1	2	1					8	○	○	○	○	○	○	○		○
I	12	3	5		1	3	3				5	○	○	○	○	○	○			
J	4	1	1	1	1	1					8	○	○	○	○	○	○	○		○
K	7	2	1	1	3						5	○	○	○	○	○	○			
L	24	4	8	2	2	5	5		1	2	5	○	○	○	○	○	○			
M	9	4		2	2	1					6	○	○	○	○	○	○			
I	14	3	3	2	3	1			1	1	6	○	○	○	○	○	○		○	
O	7		2		2	3					4	○	○	○	○	○	○			
P	20	2	8		2	8					5	○	○	○	○	○	○	○		

表4 各短期大学における入学者数・過去3年間の国家試験関連情報・推定ドロップアウト割合・国家試験対策科目情報の一覧表

短期大学	過去3年間の総入学者数と国家試験結果				推定ドロップ アウト割合(%)	国家試験対策科目	
	総入学者数(人)	総受験者数(人)	総合格者数(人)	平均合格率(%)		科目設定の有無	単位数
A	220	182	174	95.6	17.3	○	
B	150	146	146	100.0	2.7	○	4
C	210	201	200	99.5	4.3		
D	60	25	21	84.0	58.3		
E	450	382	351	91.9	15.1	○	4
F	360	241	237	98.3	33.1	○	2
G	240	108	105	97.2	55.0	○	10
H	150	166	166	100.0	-10.7	○	9
I	150	146	135	92.5	2.7	○	3
J	120	122	122	100.0	-1.7		
K	300	305	301	98.7	-1.7	○	4
L	300	319	286	89.7	-6.3	○	
M	210	216	212	98.1	-2.9	○	2
I	0	0	0	0.0	0.0	○	2
O	120	85	79	92.9	29.2		
P	240	181	178	98.3	24.6	○	2

## 1 設立主体

公立の短期大学は1校（6％）、私立は15校（94％）であった。なお、この項目は特定を避けるため表2には掲載していない。

## 2 入学資格の設定（女子）の有無

入学者の性別を「女子」と明記している短期大学は5校（31％）、明記していないのは11校（69％）であった（図1）

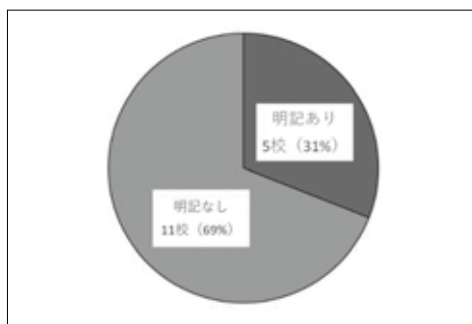


図1 入学資格（女子）の設定

## 3 併設大学の有無

併設大学のある短期大学は13校（81％）、無いのは3校（19％）であった（図2）。

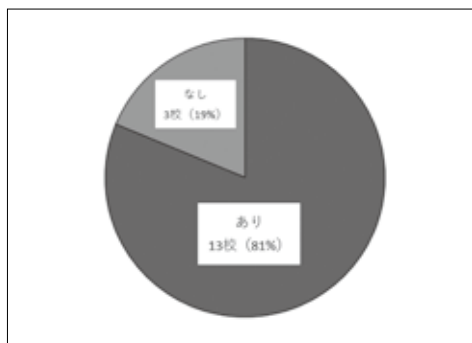


図2 併設大学の有無

## 4 併設大学における歯学部の有無

併設大学に歯学部つまり歯科医師養成課程が設置されているのは7校（44％）、設置されていないのは9校（56％）であった（図3）。

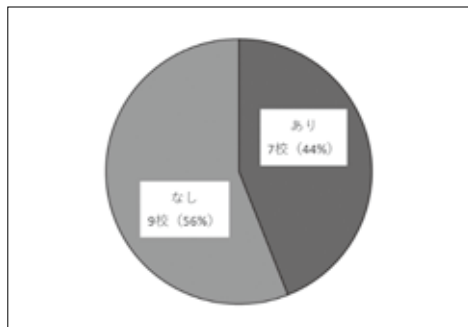


図3 併設大学における歯学部の有無

## 5 専攻科開設の有無

卒業後の歯科衛生関連の専攻科を開設しているのは7校（44％）、していないのは9校（56％）であった（図4）。

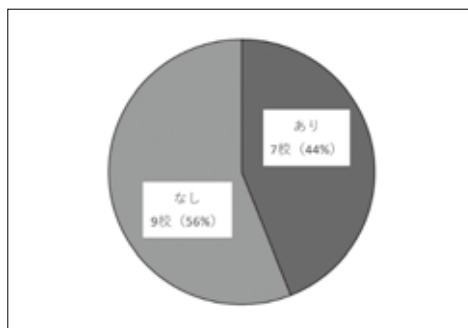


図4 専攻科開設の有無

## 6 学費（3年間合計）

諸経費を除く3年間の学費は1,348,982～4,166,000円（中央値3,505,00円）であった（図5）。

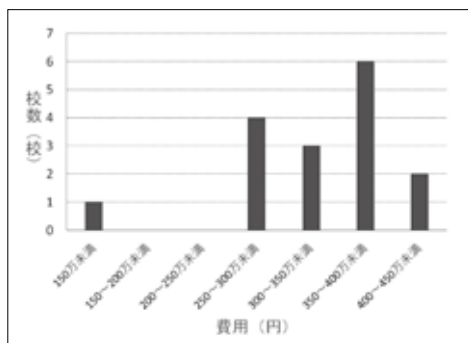


図5 学費（諸経費除く）

## 7 入学試験実施のべ回数

入学試験実施のべ回数は4回～24回(中央値 10.5 回)であった(図6)。

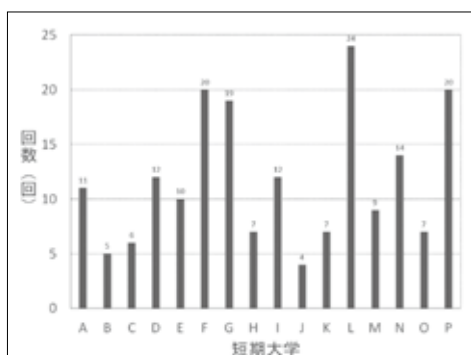


図6 入学試験実施のべ回数

## 8 入学試験の試験区分と採用校数

入学試験区分で最多区分は「一般入試」で、すべての短期大学が実施していた。次いで「推薦入試」と「総合選抜」が15校(94%)、「社会人」が14校(88%)、「共通テスト」が9校(56%)であった(図7)。

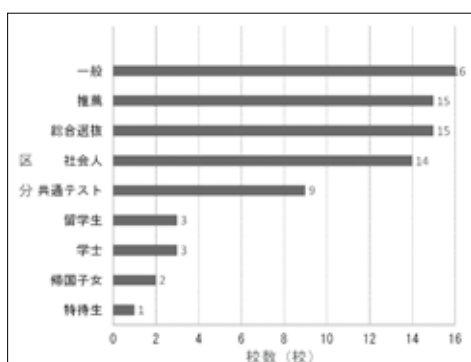


図7 入学試験の区分と採用校数

## 9 入学試験科目(選考方法)

全16校が実施する入学試験(選考方法)の中で最も多かったのは「書類選考」および「面接」で、すべての短期大学が実施していた。次いで「小論文」と「国語」が15校(94%)、「英語」が13校(81%)、「数学」が8校(50%)であった。「社会」の採用は1校のみにとどまった(図8)。

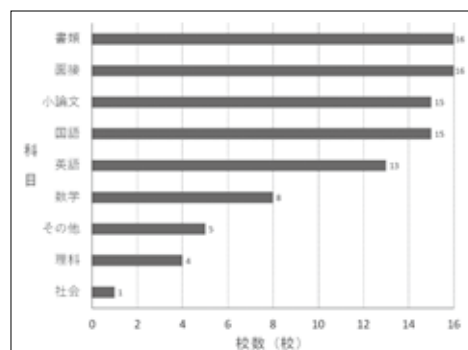


図8 入学試験科目(選考方法)

## 10 入学試験選考科目数

入試における科目数は4～8科目であった。5科目と6科目が最多であった(図9)。

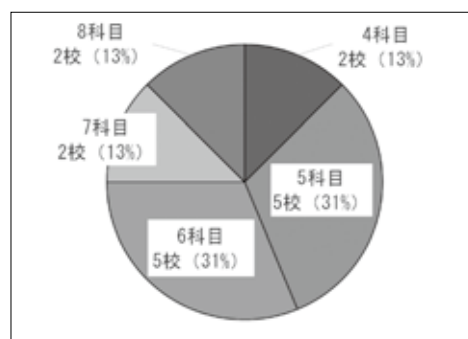


図9 入学試験選考科目数

## 11 卒業要件単位数

各短期大学の卒業要件単位数は93～108単位の範囲(中央値 101.5 単位)であった(図10)。なお、歯科衛生士養成所規則では93単位が要件となっている(表1)。

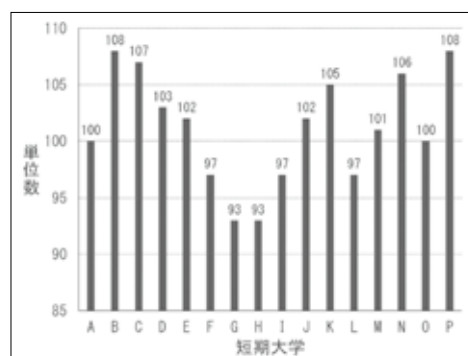


図10 卒業要件単位数

## 12 卒業研究の有無

全 16 校のうち「卒業研究」にあたる科目を設定しているのは 14 校 (88%)、2 校は不明であった。

## 13 卒業研究の単位数と必修設定の有無

「卒業研究」にあたる科目を開講している 14 校において、本科目の単位数は 1 ～ 4 単位の範囲であった。また、必修科目としているのは 5 校であった (図 11)。

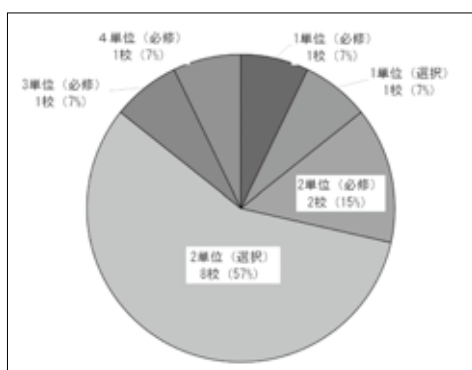


図 11 卒業研究の単位数と必修設定

## 14 国家試験対策科目の設定と単位数

カリキュラム上で「国家試験対策科目」が存在するのは 12 校であった (表 4)。また本科目の単位数は 2 ～ 10 単位 (中央値 3.5 単位) であった。 (図 12)。

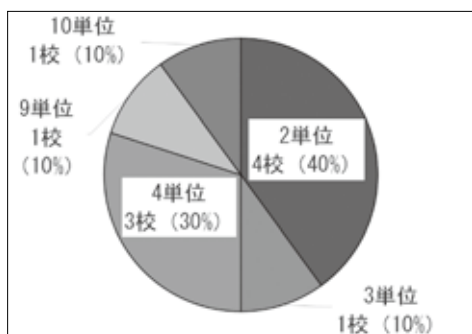


図 12 国家試験対策科目の単位数

## 15 直近 3 年間の国家試験合格率

全 16 校のうち、直近 3 年間に卒業生を

輩出し国家試験を 3 年間とも受験しているのは 14 校で、これら 14 校の直近 3 年間の平均国家試験合格率は 89.7% ～ 100% (中央値 98.2%) であった。 (表 4)

## 16 推定ドロップアウト割合

前述の 14 校の推定ドロップアウト割合は -11% ～ 55% (中央値 3.48) であった。20% を超えた短期大学が 4 校、負の値となったところが 4 校あった。 (表 4)

続いて各因子間で統計解析を行い、相関および有意差の認められたものを以下に示す。

## 17 「併設大学の有無」と「卒業要件単位数」に有意差 (P=0.0281) が認められた。 (図 13)

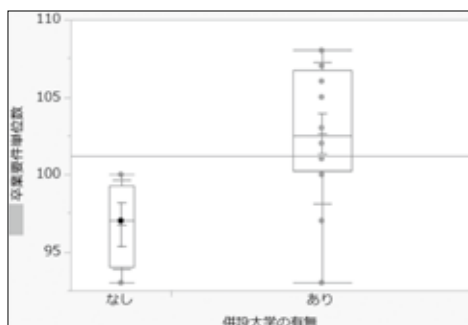


図 13 併設大学の有無と卒業要件単位数

## 18 「専攻科の有無」と「卒業研究の選択方法 (必修か選択か)」に有意差 (P=0.0210) が認められた。 (図 14)

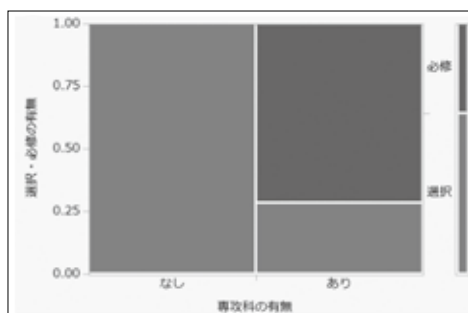


図 14 専攻科の有無と卒業研究選択方法

19 全 16 校のうち、「過去 3 年間の歯科衛生士国家試験平均合格率」と「入学試験の選考科目数の多い短期大学」には、正の相関が認められた ( $P=0.0095$ ) (図 15)

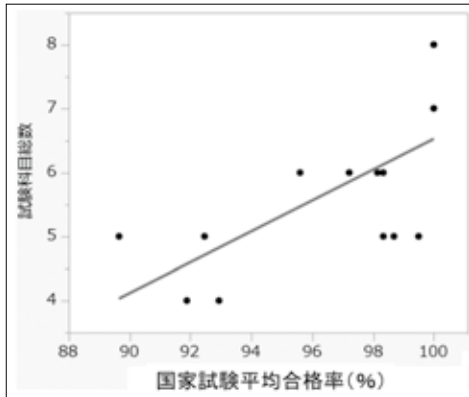


図 15 国家試験平均合格率と入学試験科目

## 考察

### 1 設立主体と入学資格（性別）有無関連

日本における国立の短期大学は 2009 年度をもって消滅し、公立の短期大学も全国で 13 校と少なくなっている。歯科衛生士養成課程をもつ公立短期大学も、かつては関東・関西に存在したが、廃止や改組（4 年制大学化）により、現時点では 1 校を残すのみとなっている。近年の国公立短期大学をとりまく状況を鑑みるといづれ、残りの 1 校も短期大学として存在し続けることは難しいであろうことは想像に難くない。

次に、性別による入学資格の存在についてである。もともと歯科衛生士法には女子に限定するとは明記されていないが、業務の性質上、そして各学校養成所の設立趣意から実質女子限定になっていた経緯がある。2012 年に初の男性歯科衛生士が誕生して約 10 年、男性の歯科衛生士資格取得者は増えつつあるが、未だスローペースであり、大学・短期大学あわせた 30 校のうち 80% 以上の学校で性別による入学制限がないことや、専門学校でも男性の入学を

許可している養成校が出てきていることを考慮すると、業界として男性歯科衛生士養成の活発化も検討すべきと考える。

### 2 併設大学および歯学部の有無関連

日常的に交流・意識することの出来る系列の大学が身近に存在することは、併設大学の有無と後述の卒業要件単位数において有意な差が認められたことから、学生に対し短期大学も大学の流れを組む教育機関であることを自覚させ、教養や専門の学芸をより意識させる理想的な環境と考える。また、歯学部は歯科医師養成機関のため自動的に歯学部附属病院が付随し、歯科衛生士養成課程においても理論と実践の両輪を踏まえた質の高い教育の提供につながる。表には記載しなかったが、歯学部の無い短期大学においても附属の歯科診療所をもつ短期大学が 2 校存在しており、歯学部の無い養成所においても実践的な教育の取り組みのために、今後参考にすべき点であると考ええる。

近年では多種多様な患者対応やチーム医療の実践がより重要視されており、一般開業歯科医院だけでなく市井の病院と連携した医学・歯学教育の必要性が増していると考えられるため、歯科診療施設のない短期大学においても、近隣の大学病院や医歯薬看護・福祉系大学などへ協力を今まで以上に働きかけ、実践的な教育機会の提供を増やしていくことが必要と考えられる。

さらに併設大学や歯学部の存在は、受験者へのアピールとして魅力的で、入学希望者の確保につながりやすいと推察される。

### 3 専攻科関連

歯科衛生士養成課程の修業年限 3 年制移行以来、半数に近い 7 校で専攻科が設置されている。解析によって、専攻科の有無と卒業研究の選択方法（必修・選択）におい

て有意差が認められたことから、専攻科の設置は4年制大学や大学院進学を意識した動きであると考えられる。専攻科を開設している短期大学は進学者数が多い傾向が見受けられ、将来歯科衛生士のリーダーとして高い学識を備え、国民の健康に寄与できる人材の育成を目指した教育カリキュラムを実施していることが考えられる。

また専攻科の設置は、臨床面のみならず学術面・学歴面での歯科衛生士業界のレベルアップにつながり、歯科衛生士という職種をもっと世間に知って頂くために歓迎すべき取り組みであると考ええる。

学校名を伏せるため、表には各校の所在地域を記載しなかったが、現在専攻科をもつ短期大学は関東・甲信越地方に多く、今後は他地域でも設置していくことが望まれる。

#### 4 学費（3年間合計）関連

経済的な負担においては、一般的な私立の歯科衛生士養成専門学校（昼間部）やコ・メディカル分野特に看護師や理学療法士・作業療法士などの3年制専門学校と比較しても、同等もしくは軽くなっており、国家資格取得だけでなく短期大学士という学歴面を考慮すると、歯科衛生士養成短期大学はメリットのある選択であると考ええる。

#### 5 入学試験関連

各校にとって入学試験は、アドミッションポリシーに見合う学生の確保だけでなく、入学定員の充足につながる、運営上重要なものである。入学試験回数の設定は各校にとって悩ましい案件であることは想像に難くないが、適切な入試回数については今後も多方面からの検討が必要と考える。

入学試験の区分においては、「一般入試」が全16校で実施されているものの、昨今の入試事情を鑑みると入学者数の割り当

てのほとんどを、「推薦入試」や「総合選抜」で占めていると推察される。今後、多種多様な患者に対応できる人材の養成がより必要である点や、少子化での学生募集の大変さを鑑みると、現在実施回数の少ない「学士入学枠」や「留学生・帰国子女枠」の充実も検討課題と考える。

歯科分野も医療・福祉業界の重要な一角をなす対人援助職であるため、「書類選考」と「面接」はもちろんのこと、「小論文」や「国語」もしくは「英語」を課し、文章能力やコミュニケーション力の有無を重視している点は納得といえる。一方で「理科」や「社会」を採用している学校が少ないことは、医療業界のみならず他職種・多職種へのアピールや連携という観点から寂しい状況である考える。基本的な科学的知識や思考、地域の歴史や地理などは臨床現場においても教養として重要であると考えられるため、入試においても課すことが理想的なのではないかと考える。

そして「入学試験の総科目数」において、「過去3年間の歯科衛生士国家試験合格率」との相関がみられた点であるが、入学試験で多くの科目数に対応できる、もしくは、対応しようとする能力や精神を備えていることは、目標に向かって継続的に努力する姿勢を生み出し、歯科衛生士国家試験の合格率アップにつながると考えられる。

近年、歯科衛生士の業務範囲の拡大にともない教育年限・教授科目が増加し、歯科衛生士国家試験においても問題数の増加や、問題文の文字数の増加・複雑化が認められる<sup>11)</sup>。このような状況に立ち向かい歯科衛生士教育課程を修め、3年間での国家試験合格を勝ち取る学生を増やすためにも、入学試験では科目数を減らすのではなく、小論文以外の筆記試験を複数科目課すことが良いのではないかと考える。



## 6 卒業要件単位関連

歯科衛生士となるには、最低 93 単位必要である（表 1）が、全 16 校のうち卒業要件を 93 単位以上としているのは 2 校のみで、実に 70%にあたる 11 校が 100 単位以上の取得を必要と設定しており、短期大学が大学に類する組織であることを意識し養成に取り組んでいると考えられ、歓迎すべきことであると考ええる。

## 7 卒業研究関連

歯科衛生士として業務にあたる際には技術力だけでなく思考力や論理力、検索能力、文章能力なども必要である。卒業研究は、一般的な大学において卒業に必要な科目・単位として位置づけられていることが多いが、短期大学においても思考力・論理力などを身につけるためにも必修化が望ましいと考える。また、卒業研究に取り組むことで専攻科や 4 年制大学・大学院への進学につながり、学歴面からの歯科衛生士業界の発展につながると考える。

歯科衛生士は高い技術と専門性を有した国家資格であるが、残念なことに志願者もしくは入学者が定員に満たない養成校の割合が増加<sup>12)</sup>している。このことは、少子化の影響のみならず、歯科衛生士に対する社会的認知度が低いことが原因の一つではないかと推察される。一般的に、学歴と社会的地位や収入は関連しやすく、今後の歯科衛生士の社会的認知度向上のために、学歴という要素はまちがいない必要である。近年は「学士」取得だけでなく大学院にも進学し「修士」もしくは「博士」を取得する歯科衛生士が徐々に増えてきており<sup>13)</sup>、今後も業界の発展のために学位保有者を増やす必要があると考えられる。専攻科をもたない短期大学においても、卒業研究は出来る限り必修科目に設定し、社会人基礎力を培う一助となることが望ましい。

## 8 国家試験対策関連

多くの短期大学で国家試験対策科目を設定しているが、近年の学生の質・価値観の変化や国家試験の難化・複雑化、臨床実習との両立を鑑みると、対策科目を開講することは自然な流れである。単位数として 10 単位設定の学校もあるが、「国家試験対策の単位数」と「過去 3 年間の歯科衛生国家試験平均合格率」とは有意な差が認められなかった（ $P=0.5630$ ）。本結果は、先行研究<sup>10)</sup>である歯科衛生士専門学校の結果と類似しており、国家試験合格を勝ち取るには、いかに受験生本人が主体的に取り組めるかが重要であり、量と質のバランスが大切であることを示唆している。カリキュラム上の国家試験対策科目においては、試験対策の取り組み方を教授し、受験生のモチベーションを保たせるために行うのが効果的であると考ええる。

また、国家試験対策科目の設定は単なる科目ではなく、入学希望者および保護者・ステークホルダーに向けての「国家資格取得にも重点を置いた手厚い教育内容であること」をアピールすることとなり、志願者を増やしより良い学生の入学に繋げるためにも重要であると推察される。

## 9 本調査方法における限界

本調査は、各短期大学の公式ホームページの「教育情報の公開」を中心にデータ収集を行っているため、調査項目の中で公開されていない「不明」というものが存在する。そのため、「ドロップアウト割合」は理想的には、入学者数、留年者数、国家試験出願者数、受験者数を用いて算出すべきところであるが、現時点では日本の歯科衛生士学校養成所に関する上記の情報が十分に公開されていないため、先行研究<sup>10)</sup>を参考に公知の情報を用いてドロップアウト割合の近似値を算出し「推定ドロップアウト



割合」としている。負の値もみうけられるが、負となっている理由として留年生の影響が考えられる。近年の歯科衛生士国家試験は難化・複雑化傾向にあり、普段からの留年だけでなく、難化・複雑化する国家試験を意識した対策科目や卒業試験などによる影響で値が負となった可能性が推察される。この値は推定ではあるが、各校の特徴や変化が反映されるものと考ええる。

なお、この度 2022 年 3 月に「歯科衛生学 教育モデル・コア・カリキュラム」<sup>14)</sup>が作成され、今後この教育カリキュラムに沿って体制の変更を行う短期大学が出てくることが予想される。入学定員の変更、専攻科の設置、4 年制大学化などの変更が随時発生するものと考えられる。歯科業界発展のためにも今後、継続的に各校に対してのアンケート調査やヒアリングを実施することで正確な情報の収集と補完・改訂が必要である。

## 結論

今回、歯科衛生士養成短期大学が公表する教育情報をもとに現状を調査した。多様化する患者の要望に応えると同時に、業界繁栄のためにも臨床面・学術面・学歴面でさらなる底上げが必要であり、専攻科の設置が望ましい。しかし、病院等の臨床設備面でのハードルが高い点を考慮すると、卒業研究の充実(必修化)にまず取り組み、専攻科のある大学・短期大学と連携していく必要がある。特に短期大学は大学に類する組織であるため、4 年制大学や大学院進学を意識した教育を展開しやすく、業界として卒業研究の充実(必修化)を推し進めると同時に入試科目の再検討に取り組み、歯科全体のレベルアップにつなげることが望ましい。

## 参考文献

1) 歯科衛生士のあゆみ：公益財団法人日本

歯科衛生士会、東京、2012、pp34-55.

- 2) 2022 年版歯科保健関係統計資料：一般財団法人口腔保健協会、東京、2022.3、pp200.
- 3) 教育小六法 2014 年版：学陽書房、東京、2014、pp124-129.
- 4) 2020 年版歯科保健関係統計資料：一般財団法人口腔保健協会、東京、2020、pp263-264.
- 5) 2019 年版歯科保健関係統計資料：一般財団法人口腔保健協会、東京、2019、pp263-264.
- 6) 2018 年版歯科保健関係統計資料：一般財団法人口腔保健協会、東京、2018、pp271-272.
- 7) 第 31 回歯科衛生士国家試験の学校別合格者状況 <https://www.ishin.jp/support/kokka/pdf/shika22.pdf>
- 8) 第 30 回歯科衛生士国家試験の学校別合格者状況 <https://shinronavi.com/news/download/470>
- 9) 第 29 回歯科衛生士国家試験の学校別合格者状況 <https://smt.ishin.jp/support/kokka/pdf/shika20.pdf.pdf>
- 10) Chinatsu Matsukawa, Yoshiyuki Sasaki, Naoko Seki, Ikuko Morio: Survey of Professional Training Colleges' Curricula for Dental Hygienist Program in Japan :Journal of Medical and Dental Sciences, 65(4), 2018, pp131-138.
- 11) 小原 勝：過去 10 年間の歯科衛生士国試験問題からみえてくるもの、大垣女子短期大学紀要、63：49-53、2022.
- 12) 歯科衛生士教育に関する現状調査の結果報告 report\_2022.pdf (kokuhoken.or.jp)
- 13) 歯科衛生士の勤務実態調査報告書：公益社団法人日本歯科衛生士会、東京、2022. [https://www.jdha.or.jp/pdf/outline/r2-dh\\_hokoku.pdf](https://www.jdha.or.jp/pdf/outline/r2-dh_hokoku.pdf)

- 14) 歯科衛生学教育モデル・コア・カリキュラム・学士（短期大学士）課程においてコアとなる歯科衛生実践能力の習得を目指した学修目標，一般社団法人全国歯科衛生士教育協議会、東京、2022.



## 美術館の造形ワークショップで使われる材料についての調査と考察

### A research and a consideration for material selected for art workshops in museums.

立 崎 博 則  
Hironori TACHIZAKI

#### 第1章 研究背景と研究の問い

本研究は、筆者が前年度に行った、大垣市の公立保育園・幼保園の先生を対象にして調査した、「造形活動における保育者の素材を選ぶ視点と保育経験の関係の考察」についての研究の前段階の調査としての位置付けとなる。前年度の調査では「予算がないため、園にあるものまたは手に入りやすいものを中心に子どもの表現活動は計画される現状にあることが言える。」と結論付けている。その上で、「安全性の問題や予算の問題で使用しづらいだろう素材や道具が多くある一方、(中略)少しだけ手に入りにくさを感じるが実際には保育現場で使える使わず嫌い素材が多くあるように感じる。」と述べている。つまり、安全性や予算の問題の他に、保育者が使い慣れた、用意しやすい素材が選ばれる状況だと感じる。続けて筆者は前年度の調査で「日々の生活の中にある素材を新しい見方で見ることがアートの視点である。」と述べた。保育者が用意しやすい素材を使うことが仕方がない状況だったとしても、いつもと違う使い方は提案できるのではないかと、思う。以上のことから、本研究では、アート視点での素材選びを考えるにあたり、美術館などで行われる子ども向け造形ワークショップや制作プログラムを調査し、どのような素材が使われているのか、またその素材選びにはどのような要因が影響しているのかを調査し、保育現場での保育者が行う造形遊びや、保育者以外が

行う造形ワークショップのための考え方について考察する。

#### 第2章 研究方法

本研究では、全国都道府県の県立美術館59館を対象に調査した。

〈表1〉県立美術館一覧

No.	美術館名
1	北海道立近代美術館
2	北海道立三岸好太郎美術館
3	北海道立釧路芸術館
4	北海道立函館美術館
5	北海道立旭川美術館
6	北海道立帯広美術
7	青森県立美術館
8	岩手県立美術館
9	宮城県立美術館
10	秋田県立美術館
11	秋田県立近代美術館
12	福島県立美術館
13	茨城県近代美術館
14	つくば美術館(茨城県近代美術館の分館)
15	天心記念五浦美術館(茨城県近代美術館の分館)
16	茨城県陶芸美術館
17	栃木県立美術館
18	群馬県立近代美術館
19	群馬県立館林美術館
20	埼玉県立近代美術館
21	千葉県立美術館
22	東京都現代美術館

No.	美術館名
23	静岡県立美術館
24	愛知県美術館
25	岐阜県美術館
26	岐阜県現代陶芸美術館
27	神奈川県立近代美術館
28	新潟県立近代美術館
29	(分館)新潟県立万代島美術館
30	富山県立近代美術館
31	富山県水墨美術館
32	富山県民会館美術館
33	石川県立美術館
34	福井県立美術館
35	長野県信濃美術館
36	三重県立美術館
37	滋賀県立近代美術館
38	兵庫県立美術館
39	兵庫県立美術館王子分館
40	奈良県立美術館
41	奈良県立万葉文化館
42	和歌山県立近代美術館
43	島根県立美術館
44	島根県立石見美術館
45	岡山県立美術館
46	広島県立美術館
47	山口県立美術館
48	山口県立萩美術館・浦上記念館
49	徳島県立近代美術館
50	香川県立ミュージアム
51	愛媛県美術館
52	高知県立美術館
53	福岡県立美術館
54	佐賀県立美術館
55	長崎県美術館
56	熊本県立美術館
57	大分県立美術館
58	宮崎県立美術館
59	沖縄県沖縄県立博物館・美術館

〈表1〉県立美術館一覧に示した59の県立美術館を対象に、子ども向け造形ワークショップや子ども向け制作プログラムを、各美術館のホームページを検索し、2022年度に行わ

れたワークショップ実施回数（ws 実施回数）を調査した。

〈表2〉子ども向け制作プログラム / ワークショップ実施回数

対象とする美術館	
県立美術館	59
子ども向け制作プログラム/ワークショップ実施回数集計	
WS実施回数	美術館数
0回	10
1～5回	37
6～10回	8
10～回	4
平均(回)	3.85
中央値(回)	3

次に各美術館で2022年に行われた子ども向け制作プログラムまたは造形ワークショップの年間実施回数を数えた。その結果、〈表2〉子ども向け制作プログラム / ワークショップ実施回数に示すように「1～5回」の実施の美術館が多かった。今回数えた制作プログラム / ワークショップは幼児または小学生という表記があるもののみで中学生や高校生、一般を対象としたものは含まない。また、今回調査した結果、中央値は3回となった。しかし対象とした県立美術館59のうち、10館は子ども向け制作プログラム / ワークショップを実施していなかった。HP以外にもfacebookやその他SNSを確認しても子ども向け制作プログラム / ワークショップが見つけられないため、今回の調査では、49館で見つけた制作プログラム / ワークショップ全てを対象とし、タイトル、対象者、時間、費用、企画 / 実施担当者を調査した。さらに、使われている材料については、タイトルや説明文に明記してあるものと説明文から明らかに想像できるものも合わせて挙げ、対象者、時間、費用、企画 / 実施担当で挙げられた項目ごとに集計した。

以上のように、県立美術館とワークショップについて、項目によって差があるかどうか比較しどのような素材が使われているのか、またその素材選びにはどのような要因が影響しているのか検証した。

### 第3章 調査結果

#### 第1節 こども向け制作プログラム/ワークショップの分類

県立美術館を対象にこども向け制作プログラム/ワークショップについて調査した。対象者、制作時間、費用（参加費、材料費）、企画や実施の担当者について、それぞれのワークショップを分類した。また、〈表3～6〉にある「対象としたWS数」は美術館のHP上で確認できたワークショップの数となる。

まずは、「〈表3〉対象者によるワークショップの分類」に示すように対象者から見ていく。

〈表3〉対象者によるワークショップの分類

対象	ws数
幼児対象	20
幼児と小学生対象	26
幼児以上	35
小学生対象	18
小学生以上	44
誰でも	45
対象としたWS数	188

本研究では中学生以上を対象としたワークショップは除外している。その上で、「誰でも」を対象としたワークショップが一番多かった。次いで「小学生以上」を対象としたものとなる。ただし、「小学生対象」は62回実施、「幼児以上」は81回実施となるため、美術館で行われるこども向けワークショップは小学生だけを対象としているのではなく、幼児から対象となるものが多いと言える。

次に、「〈表4〉制作時間によるワークショップの分類」に示すようにワークショップの時間について見ていく。

〈表4〉制作時間によるワークショップの分類

時間	ws数
30分以内	7
31-60分	41
61～90分	56
91分以上	43
時間内のいつでも	25
その他不明など	3
対象としたWS数	175

表に示す通り、「61～90分」が多く、次いで「91分以上」が多くなった。保育現場で計画される活動は30～60分程度が一般的だが、それと比較すると長時間の制作が設定されている。また、「時間内のいつでも」については、短い時間で行われる制作をその時間内のどのタイミングからでも始めることができるワークショップが挙げられる。

次に「〈表5〉費用（参加費・材料費）によるワークショップの分類」をみていきたい。

〈表5〉費用（参加費・材料費）によるワークショップの分類

費用	ws数
無料	101
1～500円	46
501円～1000円	7
1000円以上	6
対象としたWS数	160

参加費・材料費については、対象としたワークショップ160のうち6割以上の101が「無料」と設定されていた。（ただし、展示の入場券が必要な場合は多くあった。）

最後に「〈表6〉企画・実施担当者によるワークショップの分類」を見ていく。

〈表6〉企画・実施担当者によるワークショップの分類

企画担当	ws数
作家	37
美術館スタッフ	110
教育機関	21
その他	9
対象としたWS数	177

企画・実施担当者は、多くが「美術館スタッフ」であった、その中には学芸員も含まれる他、作家として活動している美術館スタッフもあり、今回の調査では「美術館スタッフ」として集計した。また「教育機関」は、大学や高校教員や学生が企画運営するワークショップが挙げられる。「その他」は企業が主催するものがある。

以上のように、調査した美術館のワークショップを、対象者、制作時間、費用、企画

担当で4つに分類し作成した。次に各ワークショップで使われている材料を挙げ、比較検討する。

## 第2節 こども向け制作プログラム/ワークショップで使用される材料の比較

はじめにワークショップで使用される材料を各ワークショップのタイトルや説明から分かるものを抜き出し、「紙」、「シール・テープ」、「段ボール」、「木材」、「身近な素材」、「描画用具」、「自然物」、「道具」、「教材」、「玩具」、「技法など」、「特殊な素材」、「キット」で分類した。「身近な素材」は廃材などに分類される箱やビニール素材などである。また、「教材」は園や学校の図工の授業で使うような粘土や毛糸などが分類される。

最初は、「〈表7〉WSで使用される材料の『対象者』による比較」にあるように対象者による比較から見ていきたい。

〈表7〉WSで使用される材料の「対象者」による比較

材料区分	対象区分				
	幼児対象	幼児と小学生対象	幼児以上	小学生対象	小学生以上
紙	16.7%	37.5%	16.7%	15.4%	6.9%
シール・テープ	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	1.7%
段ボール	3.3%	3.1%	3.7%	0.0%	0.0%
木材	0.0%	0.0%	5.6%	7.7%	5.2%
身近な素材	23.3%	25.0%	18.5%	0.0%	13.8%
描画道具	16.7%	12.5%	11.1%	15.4%	17.2%
自然	6.7%	9.4%	3.7%	15.4%	1.7%
道具	6.7%	0.0%	1.9%	7.7%	0.0%
教材	3.3%	6.3%	20.4%	15.4%	22.4%
玩具	3.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
技法など	13.3%	0.0%	5.6%	0.0%	8.6%
特殊な素材	6.7%	6.3%	7.4%	15.4%	22.4%
キット	0.0%	0.0%	1.9%	7.7%	0.0%
対象となる個数(個)	30	32	54	13	58

幼児に関連する材料区分と小学生以上の材料を比較すると、「教材」や「特殊な素材」が小学生以上になると多くなる。それとは逆に「身近な素材」や「紙」や「段ボール」などが幼児では使用する材料のメインとなっている。幼児向けは素材に触れるなど素材自体

を楽しむような制作活動が多く、小学生以上になると特定の何かを作るような制作活動が多くなる。

次に「〈表8〉WSで使用される材料の『制作時間』による比較」にあるように時間による比較を見ていく。

〈表8〉WSで使用される材料の「制作時間」による比較

材料区分	時間区分				
	30分以内	31-60分	61～90分	91分以上	時間内いつでも
紙	18.2%	18.3%	24.2%	10.9%	16.7%
シール・テープ	0.0%	3.3%	1.1%	0.0%	0.0%
段ボール	0.0%	5.0%	1.1%	0.0%	3.3%
木材	0.0%	3.3%	2.2%	8.7%	3.3%
身近な素材	18.2%	16.7%	19.8%	2.2%	13.3%
描画道具	27.3%	6.7%	17.6%	17.4%	13.3%
自然	0.0%	8.3%	5.5%	4.3%	0.0%
道具	0.0%	5.0%	2.2%	2.2%	0.0%
教材	36.4%	18.3%	7.7%	23.9%	6.7%
玩具	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%
技法など	0.0%	6.7%	6.6%	6.5%	20.0%
特殊な素材	0.0%	8.3%	11.0%	21.7%	3.3%
キット	0.0%	0.0%	0.0%	2.2%	20.0%
対象となる個数 (個)	11	60	91	46	30

「時間内いつでも」ではキットが多い。完成形がわかっている説明図があると小学生以上であれば見て理解して作れる制作体験型の制作プログラムが挙げられる。また、一番実施回数が多かった「61～90分」の時間では、「身近な素材」や「描画道具」が多くなり、じっ

くりできる制作を美術館でのワークショップでは行っているといえる。

次に「〈表9〉WSで使用される材料の『費用（参加費・材料費）』による比較」にあるように費用による比較を見ていく。

〈表9〉WSで使用される材料の「費用（参加費・材料費）」による比較

材料区分	費用区分			
	無料	1～500円	501円～1000円	1001円以上
紙	25.4%	11.8%	0.0%	9.8%
シール・テープ	2.2%	0.0%	0.0%	0.0%
段ボール	0.7%	2.9%	20.0%	3.7%
木材	2.9%	5.9%	0.0%	6.1%
身近な素材	14.5%	14.7%	0.0%	12.2%
描画道具	14.5%	14.7%	0.0%	13.4%
自然	5.1%	5.9%	0.0%	4.9%
道具	2.9%	1.5%	0.0%	2.4%
教材	14.5%	14.7%	40.0%	17.1%
玩具	0.7%	0.0%	0.0%	0.0%
技法など	6.5%	11.8%	20.0%	11.0%
特殊な素材	8.0%	14.7%	20.0%	18.3%
キット	2.2%	1.5%	0.0%	1.2%
対象となる個数 (個)	138	68	5	82



6割以上のワークショップが「無料」であるがその「無料」区分では、「紙」や「身近な素材」、「描画道具」などが多くなる。逆に費用（材料費）が高くなると「教材」や「特殊な素材」が材料として使用できるようになる。

と言える。

最後に、「〈表10〉WSで使用される材料の『企画・実施担当者』による比較」にあるように企画担当者による比較を見る。

〈表10〉WSで使用される材料の「企画・実施担当者」による比較

企画担当				
材料区分	作家	美術館スタッフ	教育機関	その他
紙	8.5%	20.8%	13.3%	6.3%
シール・テープ	0.0%	2.5%	0.0%	0.0%
段ボール	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
木材	2.1%	3.8%	6.7%	6.3%
身近な素材	23.4%	14.5%	26.7%	6.3%
描画道具	23.4%	12.6%	6.7%	25.0%
自然	6.4%	5.7%	0.0%	0.0%
道具	0.0%	2.5%	0.0%	12.5%
教材	12.8%	11.3%	40.0%	18.8%
玩具	0.0%	0.6%	0.0%	0.0%
技法など	10.6%	7.5%	0.0%	12.5%
特殊な素材	12.8%	10.7%	6.7%	12.5%
キット	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
対象となる個数 (個)	47	159	15	16

「作家」や「美術館スタッフ」は「身近な素材」や「描画道具」が多く、さらに、「技法など」や「特殊な素材」も使用している。比較して、「教育機関」は「教材」を多く使用している。このことから保育現場も教材を活用していると想像すると、作家や美術館スタッフと教育機関や保育現場を比較した時に、「教材」など表現教育のための素材を表現のために使うのではなく、作家や美術館スタッフは教育を目的とした素材だけではなく、あらゆる用途の素材の中から、ワークショップで行う表現に合う素材を選択しているのではないかと想像できる。

#### 第4章 考察と今後の展望

本研究は、県立美術館を対象にこども向け制作プログラム/ワークショップについて調

査し、4つの分類（対象者、制作時間、費用、企画担当者）について、それぞれのワークショップを分類し、使用される材料を比較検討した。その結果、対象者を比較した時に、今回調査したワークショップでは、幼児向けでは、「身近な素材」などが多く使われ素材を楽しむ制作活動が多く、小学生以上になると「教材」や技術が必要な「特殊な素材」を使った考えて作るような制作活動が多くなる傾向が見られた。これは保育現場が幼児の発達に沿って材料を選ぶことと同じ理由であると考えられる。次に、制作時間の比較では美術館のワークショップは1時間以上である場合が多く、この時点で保育現場と違いがあると言え、その理由として、美術館のワークショップではじっくりできる制作環境・時間とともに、使用する材料も選択されるのではないかと

と考えられる。

また、費用による比較では、多くのワークショップが「無料」で実施されている点は保育現場と同じく、材料費に限度があることが分かる。ただし、費用（材料費）が高くなると「教材」や「特殊な素材」が材料として使用できるようになり、保育現場や教育現場で子どもたちが普段体験できないような制作活動が行われていると言える。最後に、企画担当者の比較では、「教育機関」や保育現場も同様に、「教材」など表現教育のための素材を表現のために使っていることが多いのではないかと想像できる結果となった。美術作家や学芸員や美術館スタッフは参加する子どもたちが自由に表現するために、日常にある身近な素材や教育を目的とした素材（教材）から普段使わないようなプロフェッショナルな素材などの中から自由に素材を選択しているのではないかと想像できる。

以上のように、美術館で行われる制作プログラム/ワークショップは、保育現場と同じように、発達段階と予算によって材料は選ばれるという共通点が考えられる、そして、制作のための空間やじっくり制作できる時間の用意・確保が保育現場より簡単にできると考えられる。また企画担当者が作家や美術館スタッフであることから表現活動についてより多様な材料から選べるだろうと考えられる。これらのことから、保育現場や子ども向けワークショップの材料選択について、じっくり制作できる環境と時間を確保した上で、普段使う材料を別の視点で使ってみたり、通常使わないような素材を選択してみたりしながら子どもたちと自由な表現のための材料選択を考えていきたい。



## 匿名発言ツール「Slido」の効果的な授業活用について

### The Effective Usage of Anonymous Comment tool “Slido” in College Classes

茂 木 七 香  
Nanaka MOGI

#### 1. はじめに

2020年の春から始まった新型コロナウイルス感染症（以下 COVID-19）感染拡大は大学教育に大きな影響を及ぼし、多くの大学が実施したオンライン授業については、従来からの対面授業と比較してその是非を問う議論がなされてきた<sup>1, 2)</sup>。本学では短期間あるいは一部の演習系授業を除いてこの3年間はほぼ対面で授業を行うことができたものの授業方法は従来とは大きく異なり、感染予防のために学内では常にマスク着用の上で間隔を空けた指定席に学生を座らせ、グループワークやペアワークなどの席の移動を伴う直接対話を極力控えることとなった。

そんな中でも従来から行ってきた授業での学生間交流の場を少しでも保つため、筆者が担当する授業ではインターネット経由の無料ツールである sli.do（スライドウ、以下、文献中に多く用いられている表記の Slido を使用）<sup>3)</sup> を活用してきた。このツールではタブレット端末や携帯電話を用いたテキスト入力や投票の結果が即時に閲覧でき、これまでの授業形式では不可能だった匿名での投票や意見交流が実現できる。匿名発言では発言責任のなさによる誹謗中傷などが危惧されるが、Slido の授業使用に関して匿名・実名での発言の違いや利点・欠点を明らかにした研究<sup>4)</sup>では匿名発言の危険性は示されていない。その理由として誹謗中傷が起こりやすいのは不特定多数による開かれた場であり、面識のあ

る者同士の閉ざされた場である授業での匿名発言とは異なると述べられている。また、学生の授業時の発言抑制（発言をしがないこと）の改善という点から Slido 使用者に匿名発言と実名発言の違いを尋ねた研究<sup>5)</sup>では、発言方法の違いによる利点や欠点を明らかにするとともに匿名だからこそできる意見交流の意義を示し、学生の発言意欲を高める効果を見出すことができた。

これらの知見を基に引き続き授業内の様々な場面で Slido を使用しているが、一つ課題だと感じていたことは毎回の回答者数の少なさである。Slido では投票や入力の際に入力者数が表示されるため、受講者全員が必ずしも毎回入力しているわけではないことがわかる。質問内容や使用場面によっては受講者の3分の1ほどしか回答者がいないこともあった。その一方でほぼ全員が回答する時もあるなど回答者数にはばらつきがあったが、授業を継続しながら Slido 使用場面と回答者数の関連を把握し原因を究明することは不可能であった。また、授業後の学生の感想には、自分自身は回答しなかったが他者の回答を閲覧したことが学びに役立ったという記述もあり、回答者数が多いことだけが効果的な学びに直結しているわけではないことが窺えた。

以上のことから、Slido への回答態度の違いによって学生たちがどの場面でどのような学びを得ているのかを明らかにするため、本研究を実施することとした。

## 2. 方法

### (1) 調査対象

筆者の担当授業（教育相談）で Slido を複数回利用した経験のある幼児教育学科二年次生 58 名を本研究の対象とした（当日欠席者を除いた人数）。同じ条件下で Slido を利用する機会があり、Slido の利用方法や利点、欠点などを熟知していることが前提であったため、この対象を選んだ。

### (2) 調査方法

研究の趣旨説明と参加への同意を促したのちに質問紙を配付し、同意のある場合のみ回答し提出するという方法を取った。質問紙の構成は以下の通りである。

#### 1) Slido 利用に関する質問項目

「Slido への選択式の投票を求めた時の回答頻度」「Slido へのテキストによるコメント入力を求めた時の回答頻度」をそれぞれ「毎回・80%位・50%位・20%位・ほとんど回答しなかった」の5段階で尋ねた。

#### 2) Slido 使用の3つの場面についての意見を問う項目

授業では Slido を「問いに対する各自の意見交流」「同じ教材を視聴した後の気づきの交流」「授業内容の理解度の確認」の3つの場面で用いた。それぞれの場面への考えを、以下の①～⑥の項目について「そう思う・どちらかというと思う・あまりそう思わない・そう思わない」の4件法で尋ねた。

- ① 自分自身の意見を回答することが学びになる。
- ② 他の人の意見に触れることが学びになる。
- ③ 自らの学びを深めるのに役に立つ。
- ④ 自らの学びを広げるのに役に立つ。
- ⑤ 回答しにくいと思う。
- ⑥ 授業への参加意欲が高まる。

これらの項目内容は、これまでに Slido を用いた授業への感想の中で学生たちから寄せられた意見を参考にして作成した。また、場面ごとにそれぞれの回答理由の具体的な説明を記入する自由記述欄を設けた。

### 3) Slido 活用のためのアイディア

Slido を授業でもっと活用するためのアイディアを記入する自由記述欄を設けた。

### (3) 調査期間

2022 年 12 月 15 日の「教育相談」授業の終盤、通常行う授業感想の記入に併せて質問紙を配付し実施した。

### (4) 倫理的配慮

該当授業の単位認定権者である筆者が研究実施者であったため、研究参加の有無が学生の成績に影響したり不利益を生じさせたりすることがない旨を質問紙冒頭に記載し、口頭でも説明した。また、質問紙への回答の有無が外部から認識されることがないように回答しない場合も白紙のまま提出するよう指示し、研究実施者の目の届かない教室外の回収箱に提出することとした。調査は匿名で実施し、質問紙には氏名や学籍番号など本人を特定できる情報の記入欄は設けていない。なお、本研究は大垣女子短期大学研究委員会にて倫理基準等を審査・承認された（承認番号 R4-5）。

## 3. 結果

回答者は 45 名、回答率は 77.6%であった。

### (1) 毎回の授業での Slido 参加について

授業で Slido を利用したときの回答状況についての結果を図 1・図 2 に示す。授業時の Slido 入力に 80%以上回答していた者は投票では 82%（図 1）、コメント入力では 49%であり（図 2）、Slido の機能により回答頻度が異なることが明らかとなった。

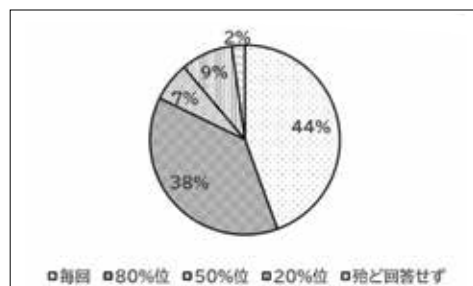


図 1 Slido 投票機能への回答頻度

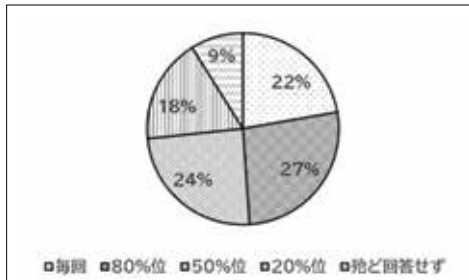


図2 Slido コメント入力機能への回答頻度

## (2) Slido への回答頻度によるグループを用いた分析

本研究の目的は、Slido への回答頻度による学びの違いを明らかにすることであるため、参加頻度によって全体のグループ分けを行い、グループ間の各項目への回答傾向の違いを比較することとした。グループ分けには参加頻度について尋ねた「毎回・80%位・50%位・20%位・ほとんど回答しなかった」の5段階への回答を用い、投票への回答が「毎回・80%位」だったものを投票高頻度群（以下、投票 H 群）、「20%位・ほとんど回答しなかった」だったものを投票低頻度群（以下、投票 L 群）とした。同様に、コメント入力への回答も入力高頻度群（以下、入力 H 群）と入力低頻度群（以下、入力 L 群）とした。両群の特徴を際立たせるため、50%位と回答した者は分析対象から除外した。各群の人数の内訳を表 1 に示す。

表 1 Slido への回答頻度によるグループの内訳

	投票	コメント入力
高頻度群	37	22
低頻度群	5	12
分析から除外した 中頻度群	3	11
	表中の数字は人数	

次に、Slido の機能毎に回答頻度群間の質問項目への回答を Slido 使用場面で比較した。

### 1) 投票への回答頻度群間の比較

まずは、投票 H 群と投票 L 群間での比較を行った。

#### ① 問いへの意見交流

授業で投げかけられた問いへの各自の意見を交流する場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 2 に示す。分析には対応のない t 検定を用いた（以下、表 7 まで同様の分析）。「授業への参加意欲が高まる」の数値が、投票 L 群 2.60、投票 H 群 3.16 と投票 H 群において高く、有意傾向があった。

#### ② 動画視聴時の気づきの交流

授業時に全員で同じ動画を視聴し、各自が気付いた点をテキスト入力で投稿し交流する場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 3 に示す。「回答しにくいと思う」の数値が、投票 L 群（1.40）より投票 H 群（2.05）で高く、有意傾向があった。これは実際の投票への回答頻度とは異なる結果である。また、統計的有意差はないが、「自らの学びを深めるのに役立つ」の数値が投票 H 群（3.54）より投票 L 群（3.60）で高く、他の項目の傾向と逆であった。

#### ③ 授業の理解度確認

授業で説明した内容の確認問題への解答場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 4 に示す。統計的に有意差・有意傾向のある項目はなかった。「他の人の意見に触れることが学びとなる」で投票 H 群（3.59）より投票 L 群（3.60）の数値が高く、「自らの学びを深めるのに役に立つ」でも同様に（投票 L 群 3.60、投票 H 群 3.59）、他の項目の傾向と逆であった。

### 2) コメント入力への回答頻度群間の比較

次に、入力 H 群と入力 L 群間での比較を行った。

#### ① 問いへの意見交流

授業で投げかけられた問いへの各自の意見を交流する場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 5 に示す。「自分自身の意見を回答することが学びにつながる」

表2 問いへの意見交流についての投票頻度群別比較

質問項目	投票低頻度群		投票高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	3.00	1.00	3.16	0.55	0.36	
他の人の意見に触れることが学びになる	3.60	0.55	3.94	0.23	1.40	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.60	0.55	3.64	0.48	0.21	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.40	0.89	3.78	0.42	0.95	
回答しにくいと思う	1.40	0.55	1.95	0.70	1.66	
授業への参加意欲が高まる	2.60	0.89	3.16	0.55	1.98	†
					† p<.10	

表3 動画視聴時の気づきの交流についての投票頻度群別比較

質問項目	投票低頻度群		投票高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	3.00	1.00	3.22	0.63	0.67	
他の人の意見に触れることが学びになる	3.60	0.55	3.86	0.35	1.50	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.60	0.55	3.54	0.65	-0.19	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.40	0.89	3.54	0.65	0.44	
回答しにくいと思う	1.40	0.55	2.05	0.78	1.81	†
授業への参加意欲が高まる	3.20	0.84	3.35	0.59	0.51	
					† p<.10	

表4 授業の理解度確認についての投票頻度群別比較

質問項目	投票低頻度群		投票高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	3.00	1.00	3.43	0.69	1.25	
他の人の意見に触れることが学びになる	3.60	0.55	3.59	0.64	-0.02	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.60	0.55	3.59	0.60	-0.02	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.40	0.89	3.62	0.59	0.74	
回答しにくいと思う	1.60	0.55	1.92	0.92	0.75	
授業への参加意欲が高まる	3.20	0.84	3.32	0.78	0.33	

表5 問いへの意見交流についてのコメント入力頻度群別比較

質問項目	入力低頻度群		入力高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	2.75	0.75	3.27	0.46	2.19	*
他の人の意見に触れることが学びになる	3.75	0.45	3.91	0.29	1.10	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.67	0.49	3.59	0.50	-0.88	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.58	0.67	3.82	0.39	1.12	
回答しにくいと思う	1.67	0.65	1.86	0.77	0.73	
授業への参加意欲が高まる	2.83	0.72	3.09	0.61	0.25	
					* p<.05	

表6 動画視聴時の気づきの交流についてのコメント入力頻度群別比較

質問項目	入力低頻度群		入力高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	2.83	0.83	3.32	0.57	0.95	
他の人の意見に触れることが学びになる	3.75	0.45	3.86	0.35	0.34	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.33	0.77	3.55	0.60	0.97	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.80	0.78	3.55	0.60	-0.96	
回答しにくいと思う	1.92	0.79	2.00	0.87	1.01	
授業への参加意欲が高まる	3.17	0.58	3.32	0.65	-0.96	

表7 授業の理解度確認についてのコメント入力頻度群別比較

質問項目	入力低頻度群		入力高頻度群		t値	
	M	SD	M	SD		
自分自身の意見を回答することが学びになる	3.08	0.90	3.45	0.67	1.37	
他の人の意見に触れることが学びになる	3.42	0.79	3.59	0.59	0.73	
自らの学びを深めるのに役に立つ	3.42	0.79	3.59	0.50	0.69	
自らの学びを広げるのに役に立つ	3.33	0.89	3.73	0.46	1.44	
回答しにくいと思う	1.50	0.67	2.09	1.06	1.74	†
授業への参加意欲が高まる	3.08	1.00	3.32	0.72	0.79	
					† p<.10	



で有意差があり、入力 H 群の方が入力 L 群より高い数値であった（入力 L 群 2.75、入力 H 群 3.27）。また、有意差はないが、「自らの学びを深めるのに役に立つ」の数値が入力 H 群（3.59）より入力 L 群（3.67）において高く、他の項目の傾向と逆であった。

#### ② 動画視聴時の気づきの交流

授業時に全員で同じ動画を視聴し、各自が気付いた点をテキスト入力で投稿し交流する場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 6 に示す。統計的に有意差・有意傾向のある項目はなかった。「自らの学びを広げるのに役に立つ」の数値が入力 H 群（3.55）より入力 L 群（3.80）において高く、他の項目の傾向と逆であった。

#### ③ 授業の理解度確認

授業で説明した内容の確認問題への回答場面での、Slido 利用への意見を群間で比較した結果を表 7 に示す。「回答しにくいと思う」の数値が、入力 L 群（1.50）より入力 H 群（2.09）で高く、有意傾向があった。これは実際の入力への回答頻度とは異なる結果である。

#### (3) 自由記述内容の分析

自由記述に記載のあった者は 19 名、投票への回答頻度群はすべて投票 H 群であった。コメント入力への回答頻度群は L 群 4 名、H 群 15 名であった。これらの意見を Slido の利用場面別に以下にまとめる。

問いへの意見交流場面では「答えにくい場合（答えのないもの・難しいもの）」「回答への反応（怖い・嬉しい）」「他者の意見に触れる意味（自らの考えの整理や学び・自らの考えの価値や独自性のなさの確認）」などが挙げられた。動画視聴時の気づきへの交流場面では「別の視点への気づき」が利点として多く挙がっていた。理解度の確認場面では「匿名でも間違っているかが不安で回答しにくい」という意見二つのみだった。

## 4. 考察

### (1) 調査の回答率について

筆者がこれまでに行った Slido 利用に関する研究<sup>4, 5)</sup>では質問紙調査への回答率が 57.5 %、52.5 % と低かったが、今回の調査では 77.6 % と大幅に高くなった。この理由について、研究の趣旨説明を行った際に Slido の効果的活用のために回答頻度の低い人からも意見を聞きたい旨を伝えたことが影響したのではないかと考えられる。Slido 利用の調査と伝えただけの場合、普段あまり回答していない学生は自分の意見の重要性が見出せず消極的になり回答を控えてしまっていたのではないだろうか。学生たちが置かれている発達段階である青年期には自己価値の探求が大きなテーマの一つとなっており<sup>6, 7)</sup>、劣等感や自信のなさに悩み自尊感情や自己肯定感を求める姿がある<sup>8)</sup>。研究説明時の筆者の一言が回答頻度の低い学生たちにとって自らの回答が価値のあるものと認識され、回答行動へ繋がった結果、回答頻度は高いという回答ばかりだった先の調査とは異なり、回答頻度の違いによる傾向の違いを分析することが可能となったのだと思われる。

### (2) 回答頻度の違いについて

今回の調査の冒頭で尋ねた投票・コメント入力それぞれへの回答頻度から（表 1）、投票は取り組みやすく参加者も多いが、コメント入力は取り組みにばらつきがあり、あまり回答していない者もあったようである。授業では Slido への回答が推奨されており回答することが「望ましい態度」であるため回答していないとは答えにくいであろうことも考えると、実際に回答頻度の低い学生はこの数字よりも多かったのではないと思われる。また、今回は調査結果から回答頻度の違いを H 群 L 群の二つに分けて以下の分析を行ったため、群間の人数に差ができてしまった（投票は L 群 5 名 H 群 37 名、コメント入力は L 群 12 名 H 群 22 名）。これは本研究の趣旨か

ら致し方ないことではあるが、この人数差は二群間の偏りとなり以降の分析結果に影響を与えてしまったことも考えられる。今後、調査対象人数を増やすことによりこの点は改善できるであろう。

### (3) 投票への回答頻度群別比較について

表2～4の結果から、投票への回答頻度が高い学生の方が多くの項目で頻度の低い学生よりも高い数値を示しており、学びを得たり参加意欲を高めたりしていることがわかった。しかしながら、有意差はないものの一部の項目では参加頻度の低い学生の数値の方が高いものもあり、Slidoへの回答頻度が低くても他者の意見から学んだり、自らの学びの深まりや広がりにつながっていることが窺える。ここには、SNSの特徴のひとつである「感情の可視化」<sup>9)</sup>が影響しているのではないと思われる。Slidoへの回答は投稿者によって熟考されたのちに入力され可視化されたものである。回答は教室前のスクリーンに映し出されると同時に学生個々で見ることのできるため、授業時には手元の携帯画面をスクロールさせて回答に見入る姿も目にする。身近な他者の感情の込められた意見を客観的な立場からじっくり読むことが、間接的に回答しない学生の学びを深めることに役立っているのである。

### (4) コメント入力への回答頻度群別比較について

回答頻度群別で有意差があったのは問いへの意見交流の場面での「自分自身の意見を回答することが学びになる」という項目であり、回答頻度の高い学生の数値が有意に高かった(表5、入力L群2.75、入力H群3.27)。それ以外の項目では、一部に入力L群の方で数値が高いものもあり(表5、表6)、直接的に回答すること以外にもSlidoの利用自体が学生たちの学修向上に役立っていることが示された。

### (5) 自由記述の内容について

自由記述の回答の中で興味深かったのは、他者の意見に触れる意味についての二つの考えである。「他者の考えに触れることで自分の考えを整理できる」という回答は、先に述べた間接的な学びであり、授業時の問いに対する答えがすぐには浮かばず回答できなかった学生にとってSlidoが有効に働いていることがわかる。一方で「自らの考えの価値や独自性のなさ」とした回答は具体的には「他の子の意見をみて、すごい!と思うものばかりだったり、同意見だったりすると、もう回答しなくていいか、と思う」と書かれていた。このように他の学生の意見を自分の意見と比較しその優劣を判断することは自己価値の喪失や劣等感に繋がるものであり、学生の授業での発言抑制の原因ともいわれている<sup>10, 11)</sup>。Slidoでは全員が他者の意見を閲覧できる状態であるため、他に比べて自分の回答が劣っていると感じた場合には回答を控えてしまうのである。

学生たちのような10代前半～25歳くらいの世代は「Z世代」と呼ばれて注目を集めているが、その特徴のひとつとして自己承認欲求や同調圧力が挙げられている<sup>12)</sup>。先の学生の回答に「(他者と)同意見ならば回答しなくても良いのではないか」とあったのも、他者とは異なる独特な回答をして認められたいという自己承認欲求が根底にあり、それが満たせないなら「回答しない」という行動に繋がったのだとも考えられる。同調圧力に関してもSlido利用時に一つ目の回答が投稿されないとなかなか発言が始まらないことが多々あり、皆の動きを見てそれに合わせて行動したいという思いを感じる。同調することと承認されることを同時に成立させるのは難しく、目立ちたい、でも目立ちたくない、といった学生たちの揺れ動く心理状態が窺える。Slidoの利用により、匿名という立場に守られ皆に同調して回答する・しないを選べる一方で、目立ったコメントを入力すれば教員か

らの反応があるため人知れず自己承認欲求を満たすことも可能になる。

しかしながら、匿名であっても明確に評価を前提とした場面では入力を躊躇するようであり、授業の理解度に関する問題への回答場面では「間違っているか不安で回答しにくい」という記述があった。これは入力結果がスクリーンに映し出されるため、自分だけが間違っていることが（自分だけにではあるが）分かってしまうからであろう。授業の理解度を尋ねる本来の目的は学生が自分自身の理解度を把握することであるため、Slidoの投票機能の使用は適切ではなかったと思われる。Google フォームで作成したテスト問題に回答させて自分だけに採点結果がわかるようにするなどの工夫で不回答を回避するなど、今後改善方法を考える必要がある。

#### (6) 今後の ICT 活用について

平成生まれの学生たちは SNS が発展した時代を生きており、様々な SNS ツールを日常的に使いこなしている。天野は著書「SNS 変遷史」の中で「SNS では自分で何かを発信しなくてもいい。その場において、周りを見ているだけでもいい。そのような「場」があり、そこで「つながりを維持」できることがより重視される。」と述べている<sup>13)</sup>。授業以外の世界で既にこのような場に慣れ親しんでいる学生たちが、Slido を始めとして SNS の世界でどのような自己を表現し、何を求めているのかを知るには、今回のような質問紙調査に加えて学生から直接話を聞くインタビュー調査や、Z 世代の置かれている世界を社会的にとらえる視点が必要であると感じる。また、コロナ禍での遠隔化の広がりに伴って Slido 以外にも教材として使える ICT ツールが数多く活用され始め、新しいものも開発されてきているため、今後も学生たちの学びの質を高めることができる方法を探して積極的に取り入れていきたい。

#### 引用文献

- 1) 中央公論特集：これでいいのか？日本の大学、中央公論、1647 号第 135 巻第 2 号：20-120、2021.
- 2) 大学教育学会課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ：コロナ禍で学生はどう学んでいたのか、ジヤース大学教育新社、東京、2021.
- 3) <https://www.slido.com/jp> 2023.1.6
- 4) 茂木七香：大学の授業における匿名発言の有用性について ～「slido」の利用を通して～、大垣女子短期大学紀要、62：51-60、2021.
- 5) 茂木七香：学生の演習授業時の発言抑制と発言の匿名性との関連、大垣女子短期大学紀要、63：69-76、2022.
- 6) 遠藤由美：青年の心理 ゆれ動く時代を生きる、サイエンス社、東京、2000、90-104.
- 7) 白井利明、都筑学、森陽子：やさしい青年心理学、有斐閣アルマ、東京、2002、19-36.
- 8) 大野久、小塩真司、佐藤有耕、白井利明、平石賢二、溝上真一、他：君の悩みに答えよう 青年心理学者とか投げる 10 代・20 代のための生きるヒント、福村出版、東京、2017、121-136.
- 9) 宮下由多加、中澤佑一：SNS 炎上なんてしないと思っている人が読むべき本、ジャムハウス、東京、2022、14-15.
- 10) 清兼渚、鈴木友美、五十嵐哲也：青年期における自己受容・他者受容のバランスと発言抑制、愛知教育大学教育臨床総合センター紀要、4：25-32、2013.
- 11) 上瀧惇子、重橋のぞみ：演習場面における大学生理想自己・現実自己の差と発言行動の関連 ―評価懸念という視点取り入れて―、臨床心理学：福岡女学院大学大学院紀要、13：25-2、2016.
- 12) 原田曜平：Z 世代 若者はなぜインス

タ・TikTok にハマるのか？、光文社新書、  
2020、47-92.

- 13) 天野彬：SNS 変遷史 「いいね！」でつ  
ながる社会のゆくえ、イースト・プレス、  
東京、5、2019.



# コロナ禍において実施した授業「学生ミニトーク」の報告 —保育者養成校における学生の話す力を鍛えるために—

## A Report on the classes of speech training using short presentation during the COVID-19

今 村 民 子  
Tamiko IMAMURA

### 1 研究の目的

本稿の目的は、新型コロナウイルス感染症拡大（以下「コロナ禍」と表す）の中で考案した授業「学生ミニトーク」の実践を報告することである。

2020（令和2）年4月3日に予定されていた令和2年度大垣女子短期大学入学式は、感染症拡大防止のため中止となった。これは教職員、学生共に今まで経験したことのない衝撃的な出来事であった。日常の生活がそれまでと同じことは全く通用なくなり、前期シラバスの授業内容は実施不可能になった。幼児教育学科は保育者養成を担っている短期大学である。教育課程は実学重視で、演習授業が多くを占めている。今回報告する授業「学生ミニトーク」は、コロナ禍でできないという状況の中にいて、学生の学びとなる内容は何か、と考えながら授業を進め、1回ごとに省察しながら実施した授業である。これはいつもどおりの「計画（シラバス）→実践→省察」の形で検証するのではない。非常時に何が起きていたかということを記録に残し、学生に今必要だと感じたことを、教員の感覚で進めて作り上げた授業実践の成果について、振り返り考察することに本稿の意味を見出すことができる。

まず、岐阜県下における新型コロナ感染症による状況を確認する。次に、その影響を受けて変化していった大垣女子短期大学（以下

「本学」と表す）の学業の状況について言及する。さらに、「学生ミニトーク」と名付けた授業実践の詳細を報告して成果を考察する。最後に、まとめと今後の課題を示すことにする。

### 2 コロナ禍における岐阜県の状況と本学の状況

#### 1) 岐阜県下の感染拡大に伴う状況をめぐって

ここでは、主要な感染症拡大に関する出来事を取りあげながら、岐阜県の状況を記録しておく。表1では中日新聞記事、中日新聞Web<sup>1)</sup>や岐阜県HP知事メッセージ<sup>2)</sup>をもとにして時系列に出来事を列挙した。

感染症の情報が世間に流れ始めたのはいつ頃からかと思えば、2020（令和2）年1月、中国武漢市で多数の肺炎患者が発生、新型コロナウイルスが原因であると発表された時が最初であった。2月、クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」内に感染者が発生、船上隔離を開始した。この頃はまだテレビの中の情報だけで身近に感じることはなかった。2020（令和2）年2月26日岐阜県内で初感染者1名が本学所在地大垣市から出た。ついに地元でという緊張感があったが、まだ切迫した気持ちではなかったように思う。3月末で岐阜県感染者は26名、クラスター（感染者集団）という聞きなれない言葉が飛び交い、県内にもいくつか発生した。日本国内の感染者

表1 新型コロナウイルスをめぐる主な出来事と岐阜県の状況について

日付	出来事
1月16日	国内で初感染者確認（武漢への渡航歴のある30代男性）
2月5日	クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」横浜港で船上隔離開始
2月26日	岐阜県初の感染者1名、大垣市50代男性。続いて同居女性。
2月27日	安倍首相が全国の小中高・特別支援学校に3/2からは春休みまでの休校を要請
3月17日	岐阜市初感染者1名、男性、海外渡航歴有。
3月26日	可児市の合唱団で感染者。クラスター発生。
3月31日	岐阜市ナイトクラブシャルムから感染者。クラスター発生。
4月4日	岐阜県感染者初の死亡1名。 「ストップ新型コロナ2週間作戦」16日まで。 不要不急の外出を自粛。三密（密閉、密集、密接）の回避。
4月5日	岐阜県教委、県立高校、特支校の臨時休校を19日まで延期。自治体も小中学校の休校延期を決定。
4月7日	7都道府県（東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡）を対象に緊急事態宣言を発出。→16日には全国に拡大。 岐阜市料理店潜龍でクラスター（感染者集団）発生。岐阜市会社でクラスター発生。
4月10日	岐阜県独自に「岐阜県非常事態宣言」を発して県民に行動の自粛を訴える。県立高校、特支校、小中学校の休校措置を5月6日まで延長。
4月17日	岐阜市と周辺10市町、5月末まで休校を延長。
4月24日	県立高校、特支校も5月31日まで休校延長。小中学校も同様の措置。県立高校ではオンライン授業を導入。
4月28日	「愛知・岐阜・三重3県知事共同メッセージ」で県境を越える移動の自粛とさらなるリスク回避の行動を訴える。
5月2日	「『大型在宅連休』スタート!」として注意喚起を促す広報掲載。
5月8日	学校、6月から再開へ、5月25日から分散登校開始。
5月14日	岐阜県（同時に愛知・三重など39府県）は「緊急事態宣言解除」→25日に全国一斉解除。
7月21日	新型コロナウイルス感染症の再拡大について（知事メッセージ） 「新しい生活様式」の徹底、感染リスクを避けて慎重な行動、自らの行動に責任を。
7月31日	「県内感染再拡大～大学等高等教育機関の皆様へ」感染防止策の徹底、体温チェックの徹底、サークル活動の感染防止、県をまたぐ不要不急の外出注意、コンパ、ゼミ等懇親会への注意。
8月7日	「第2波非常事態」「オール岐阜」での取り組み（緊急対策） 愛知県との往来は慎重に。若者の感染リスクを回避。
9月1日	「第2波非常事態」いったん解除。引き続きの警戒を呼びかける。

数も急激に増えていった。年度が替わって2020（令和2）年4月7日、国は「緊急事態宣言」を7都道府県（東京、神奈川、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡）に出し、16日には対象を全国に拡大した。岐阜県では4月4日、4月10日、4月28日と次々に知事からのメッセージが出された。新学期が始まるはずの4月は、今までにない変化と緊張の毎日だった。筆者は定時の出勤退勤を心がけ、生活リズムを正して毎日をすごした。「不要不急」の外出とはどのようなことか、三密（密接・密集・密着）の回避はこれで大丈夫かと心配ばかりしていたし、手洗い、うがいの励行には神経質になりすぎるほどになっていた。5月の大型連休が空けても授業は始まらず、状況の変化はなかった。この期間に筆者は1冊の写真集「倉橋惣三を旅する 小さな太陽」<sup>3)</sup>に出会う。外出を控えなければならぬ毎日の中で写真集を見ると、自然の中で生き生きと遊んでいる子どもの表情と抽出して添えられた倉橋の深い言葉があって心が癒された。そしてふと倉橋惣三も戦時下に幼稚園の現場にいたのではと思い、「お茶の水付属幼稚園創立140周年記念誌」を手にとってみると、今に通じる非常事態の記述を見つけた。「戦時下の幼稚園生活」には、休園中の幼児に対して発送した「保育証書」（修了証書）に同封された倉橋の言葉「幼稚園の保育終了式を挙げて皆さんとお会ひするのを楽しみにしていましたが情勢に鑑み集合を見合わせました。同封の『保育証』後日の記念にお送りいたします。昭和20年3月22日」<sup>4)</sup>とか、「戦時下最後に作成されたとみられる昭和19（1944）年3月の卒業アルバムに寄せられた倉橋主事のまえがき」に「皆さんの二年間の幼稚園は、いつもの幼稚園ではありませんでした。通園の途もらくではありませんでした。お母さま方のお心づかいも容易ではありませんでした。（略）一わたくしたちが大きくなる日には、日本ももつと大きくなつ

ています。みなさんの、あの歌に、いつばいに声をあわせながら。（原文のまま掲載）」<sup>5)</sup>とあった。非常時の今こそ歴史から学ぶ姿勢を持つこと、先人たちがそうであったように苦境を乗り越えていかなければと思えた。

5月14日の「非常事態宣言解除」を受けて、本学は5月15日付でHPに掲載し、5月25日から分散登校を行い、6月1日から対面授業を再開することになった。

## 2) 本学の学業状況について

岐阜県下の状況をみながら、本学の学業の状況を再び振り返ることにしよう。2020（令和2）年1月19日（日）には、第16回「こども祭」が例年通り開催された。幼児教育学科の成果発表を中心にした会場に、地域の方、卒業生、保護者など1,000人以上の参加者があり大盛況だった。2月3日～17日には保育実習Ⅰa（1年）、幼稚園教育実習Ⅱ（2年）を実施した。この時、情勢をいち早く捉えた実習担当教員が「教育実習Ⅱ・保育実習Ⅰaにおける新型コロナウイルスへの対応について」の文書を急遽作成し、実習訪問する全教員が実習園と学生に手渡しした。今振り返るとその時は大げさな心配では、と思いながら「そんなことにはならないだろうけれど、注意だけはしよう」と学生に言葉をかけて渡していたと思う。

感染拡大の中ではあったが、2020（令和2）年3月15日（日）令和元年度卒業式が挙行された。参加は卒業生のみ、来賓出席はなく、簡素化して時間を半分に短縮、席は間隔をあけて指定席とし、マスク着用で感染症対策を施した。厳しい状況の中、短時間ではあったが、節目の行事を行って卒業学生と笑顔で言葉を交わすことができた。挙行を決断された大垣学園法人幹部の方々に感謝したい。

2020（令和2）年4月1日、幼児教育学科は退職者に替わって2名の新教員を迎えた。新年度の始まりは異常であった。まず、学生と「会う」ことがなくなってしまった。4月



1日、2日に健康診断のみ実施となり、3学年を分けて登校させ、三密を避けて行動する、会話をしない、速やかに終了して下校するよう指導した。例年1週間かけて行うオリエンテーションは中止になった。第1回学科会議(4月8日)では授業開始予定が4月20日とされたが、授業開始がさらに延期となり開始について先の見通せない日が続いた。一つ一つがいままでとは全く違うことが起こっていった。この異常な期間、何をしていたかを思い出すと、深く残っていることは学生への電話連絡である。IT時代にアナログな方法だが、電話で声を聞くことが今必要だと思えた。一斉メールで情報を送ることはできたが、学生の様子は見えてこない。必要がなければ学生から連絡が来ることはない。まずはアカデミックアドバイザー(担任)から学生一人一人に電話をかけ、声を交わして状況を把握することになった。筆者は2年1組担任で22名の学生に電話連絡をした。学年が変わりまだ慣れない担任と話すのは、心を許せないこともあっただろう。微妙な空気を感じながら一人15分程度、2日がかりであった。学生の声を聞いて安心しているのは教員の方だったのかもしれない。しかし、朝遅く起きたこと、昼ごはんは自分で作って食べていること、中高生の兄弟も自宅待機でいっしょにいるので世話が大変なこと、バイトに入れなくなったことなど、なにげない生活の話の中から学生の状況や気持ちが声で伝わってくるのが、たまらうれしかった。そして、案外しっかりやっていると確認できたことで元気が出た。

4月14日付「大垣女子短期大学 教育活動における新型コロナウイルス感染症への対応に関するガイドライン」<sup>6)</sup>、4月16日付「新型コロナウイルス感染症への対応について」<sup>7)</sup>が示され続いて、4月28日付「大垣女子短期大学 令和2年度前期授業に関する基本方針及び実施要項」<sup>8)</sup>が示された。これら文書にある前期授業の概要をわかる程度の内容で

抜粋する。

#### ＜基本方針及び実施要項＞

##### 1 授業期間

原則として5月11日(月)から8月28日(金)までとし、これに基づいて学年歴を作成する。

##### 2 授業回数

授業回数は15回、定期試験週は1回とする。

##### 3 授業方法

(1) 原則すべて「遠隔授業」とする。

(2) 遠隔授業の手立て

①リアルタイム型授業(同時双方向型: オンライン会議システムを用いた方式、例 ZOOM、Meetings など)

②オンデマンド型授業

③印刷教材による授業(テキスト資料)

④これらを適切に組み合わせた授業

##### 4 教員への準備と実施

FD研修等の実施: 5月1日実施

「遠隔授業のために Zoom の研修

実習・演習授業の実施に関することは各学科に一任された。幼児教育学科では、3年保育実習Ib(施設実習)が6月29日から7月14日、2年保育実習1aが8月3日から8月18日の実施予定であった。予定通り実施できるのか見通しは持てなかったが、準備は怠らないようにしていた。また演習授業では、地域の親子に向けて毎週1回実施していた子育てサロンの開催が2月から中止されており、子育て支援を学ぶ場がなくなっていた。5月11日から第1週授業が開始となったが、遠隔授業で、学生が目の前にいない授業だった。6月1日から対面授業が始まり、最初2週間は時間短縮日課、その後通常日課となった。

### 3 授業「学生ミニトーク」の実践について

#### 1) 「学生ミニトーク」授業実践への経過

この実践は幼児教育学科2年前期授業「子ども基礎研究I」の時間を使って行ったも

のである。本来の授業は子育てサロンに関わりながら子育て支援について学ぶ内容で、学科の特徴を特に示す授業であった。ところが感染状況拡大の影響を受けて、一般の参加者を受け入れるサロンは開催中止の事態となり、やむを得ず授業内容を変更しなければならなかった。学生が未就園児の親子と関わる体験をする、貴重な演習授業ができなくなってしまった。その状況を乗り切るために何ができるのか、学生の学びになる内容は何だろうと考えた。6月第1週から対面授業が始まった。気をつけなければならないことがたくさんあり、学生へ感染予防対策の注意喚起を絶えず行わなければならなかった。この時ただ訓示のように伝えるのではなく、ともに今の事態を受け止めて考え、自ら前を向くため思考する者になってほしいと願った。そのためにまず今を知ることから始めなければと考え、時事問題を示し、読んで感じたことをただ教員が語るという「教員ミニトーク」を行った。事後感想を書かせたりせずただそれだけをした。これは、幼児教育学科教育目標「社会的な課題への問題意識をもち、その解決のために努力する保育者の育成」<sup>9)</sup>に合致している。

この「教員ミニトーク」から「学生ミニトーク」授業に繋がっていく。授業延期があって、開始後も制限下にある中で、それでも学生に向けて直接顔を見て語ることを繰り返していくうちに、学生自身が今何を考えているのか聞きたくなった。つまり学生が話題を見つけて語ることへ展開してみようと考えた。これは、保育者養成において人前で話をする＝「語る」技術につながり、保育者として身に着けるべき技術であるからだ。次に授業の詳細を示す。

## 2) 授業内容の詳細

授業対象者は令和2年度幼児教育学科2年次生40名である。内、実習に備えるための自宅待機者1名は対面授業ができず、資料送付の遠隔授業を行い、ビデオ撮影による課

題提出となった。授業回数は全11回で、第1回～第7回が「教員ミニトーク」、第8回～第11回「学生ミニトーク」の時間とした。子ども基礎研究Ⅰ15回のうち、第1～4講は遠隔授業で実施された。第1回と記したのは対面実施からの回数で、実際では第1回は第5講である。

### ①「教員ミニトーク」の実施

対面授業第1回から、最初20分ほどの時間を「教員ミニトーク」と称して時事問題を示して読み語った。この時、筆者はコロナ禍以前と違って、直接顔を見て話すことができる良さ、というよりもありがたさを深く噛みしめいた。以下に「教員ミニトーク」のタイトルと概要を示す。

#### 第1回

##### <タイトル>

「自分の足で立ってみる」(2020/5/17 中日新聞朝刊社説)<sup>10)</sup>

##### <概要>

引用されている五味太郎「じょうぶな頭とかしこい体」は保育者に求められているもの。自分の行動は自分で考えて決めて動く。ひとの立場になって気持ちを想像することは「人に寄り添う」こと。情報に惑わされず、自分たちの考えを持って行動しようと語る。

#### 第2回

##### <タイトル>

a. ネット中傷 許されぬ「匿名の暴力」(2020/5/30 京都新聞デジタル社説を使った資料から) 他

##### <概要>

SNSの誹謗中傷を受けて自殺した事件から情報モラルの大切さを語る。

#### 第3回

##### <タイトル>

a. 夏至の話(「二十四節気のえほん」<sup>11)</sup>)

b. 「UDフォント利用ひろがる 高齢化、視障害増に対応」(中日新聞朝刊2020/5/22)<sup>12)</sup>

##### <概要>

a. 6月21日夏至であることから二十四節気による日本の季節感を語る。

b. 多くの人に読みやすいよう工夫されたUDフォントの利用が広がっていることを語る。

第4回

<タイトル>

a. 「普通とは何だろう」(2020/6/18 毎日新聞朝刊 20面)<sup>13)</sup>

<概要>

米国で話題になっている人種差別撤廃を訴える国際的な運動をとりあげ、「子どもの権利条約」人権問題について語る。最後に野球選手オコエ瑠偉選手が差別を乗り越えて今がある記事を紹介する。

第5回

<タイトル>

a. 「児童虐待過去最多」<sup>14)</sup> b. 「子育て家庭孤立感深める」<sup>15)</sup> c. 「女性の4割『コロナで太った』」<sup>16)</sup> (2020/6/25 中日新聞朝刊)

<概要>

児童虐待対応件数の前年統計数が出たことを知らせると同時に、今年度のコロナ惨禍で孤立する家庭や子育てで不安が大きくなる心配があることを語る。コロナ自粛の影響で体を動かす時間が減ったことで体重が増えたと感じていると回答した女性が多かった調査を知らせ、対面授業後の生活態度について語る。

第6回

<タイトル>

a. 池江璃花子、10月レース復帰を目指す「メンタルはメチャクチャ強くなっている」(2020/7/3 スポニチ)<sup>17)</sup> b. 小学生が大人になつたらなりたいもののランキング(第一生命調べ)<sup>18)</sup> c. 中学生になりたい職業ランキング(ソニー生命調べ)<sup>19)</sup> d. 高校生「将来になりたい職業ランキング」(ソニー生命調べ)<sup>20)</sup>

<概要>

2019年2月に白血病を公表し治療、緊急事態宣言解除後から徐々にトレーニングを再開。目標を持って進むことは強くなることを

語る。就職に向けて保育の仕事は小中高校生のあるがれの職業であるから、資格取得の目標に向かってほしいと語る。

第7回

<タイトル>

不安なときに 宮地尚子文(母の友 2020 9月号特集「不安とむきあう」から)<sup>21)</sup>

<概要>

コロナ感染拡大で日々の暮らしは大きく変わり、不安が長引く中知っておくといいいことは、大切なものがあるから不安なことを知る、適度な不安は健康的なものだ、不安は体にあられるので、姿勢を変えてみたり、動いてみたりして、自律神経を整えることに心がけるとよいことを語る。

予定通りの授業ができない状況の中、手探りしながら、筆者は学生の前に立っていた。語ることで、自分にも頼れる何かが欲しかったのかもしれない。身近にある新聞社説や記事、ネットニュースなどを印刷して手渡し、読み聞かせをした。その時に気になっている出来事や事件など客観的な事実を示し、学生に向けて教員の主観的な意見を伝えた。

次はこの教員ミニトークをモデルにして、学生自らが語り手になる「学生ミニトーク」と題した授業を学生に提案した。

## ②「学生ミニトーク」授業(8回～11回)

第1回:「学生ミニトーク」の提案をする。

第2回: トークの内容を考えてテーマを決める。

内容に関わる資料集めをする。

第3回:「ミニトーク」で話す原稿を作成する。

話題の根拠となる記事や記録を基にして話すため準備をする。

第4回:「ミニトーク」会。語って交流する。

初回は準備として以下のように、学生が主体的に決めるように促した。

テーマ 「最近、発見したこと」

- ・一つ的话题を決めましょう。
- ・話題について、資料を用意します。例えば新聞記事、歌の歌詞や曲、写真や絵なんでもいいです。自分の思いを伝えるのに役立つと思うもの。実習に関することならば、実習記録のコピーなどでもいいし、子どもとの出来事のエピソードメモでもいいです。
- ・だいたい3分くらいで話ができるようにします。1分間で300字話すと考えると、だいたい900字くらいは考えておくといひので、目安の用紙880字を用意しました。話しことばで、かいてみましょう。

第2回では、話題からトークテーマを決めた。学生からは「何を話題にしてよいかわからない」という声が聞かれた。教員が一人一人と言葉を交わしながら、今、話してみたいことは何か、感じたことや伝えたいことはあるかと質問していった。

第3回で原稿を作成する時間では、資料を基にして880字の用紙を渡して下書きにし、3分間のトーク原稿を各自が作成した。

第4回では、語って交流するグループワークを行った。4人程度のグループ交流をするアクティブ・ラーニングの手法を使うことでより主体的な学びができると考えた。まず、小グループで全員が語りに参加してトーク交流をした。その後、グループメンバーの半数つまりクラス全員数の半分を選び、全員の前でトークをした。

授業を実施した時期は学生にとって緊張が続く極めて厳しい時期であった。なぜなら13講で授業を中断して保育実習Ⅱを2週間行い、続いて終盤の授業が2週間行われ、さらに続いて幼稚園教育実習Ⅰへというハードなスケジュールをこなさなければならなかった。これもコロナ禍の影響でやむを得ないことだった。「学生トーク」は実習前に1回、2回、実習後に3回、4回の実施となった。例年なら、このように実習期間をまたいで授業を行

うことはない。だが、今年度は授業開始時期が遅れたことで、この期間にも授業が入った。それだけでなく、感染症拡大の恐れから施設側の都合で保育実習が3月に延期されてしまい、この時期に実習に行けなかった学生が11名いた。こうした厳しい状況は、学生のトーク内容に影響していた。

### 3) 授業の評価

「学生ミニトーク」を行った時期は、保育実習後の新鮮な感動を持った学生、実習に行けずに自宅ですごさなければならなかった学生などさまざまな状況が学生の中に起こっていた。そのような状況の中で学生が興味、関心のある話題を見つけることができるのか心配はあったが、対面して担当教員と学生が話の中で前向きな姿勢ができていき、学生全員が真剣に取りくむ姿があった。「学生ミニトーク」の成果について、以下の3点にまとめる。

#### ① 学生自身が課題（テーマ）を持ち思考することができた

まず学生一人一人が、身近な話題をみつけることができたことが一つ目の成果である。

最初は、提案内容に学生が戸惑い、どのようにアプローチをしてよいかわからないという質問が多く出た。そこで「教員ミニトーク」を参考にして、今、気になっていることや身近にある話題を取り上げながら皆に伝えたいことを見つけるよう指導した。丁寧に時間を使いながら教員と学生が、また学生同士が対話する時間を持って、トークテーマを決めていった。気づき始めた学生達から出た話題は、実習で子どもがかわいかった姿や出来事、部分実習での失敗やその時先生から指導を受けた内容などであった。自然に話が続き、好きなものの話、気になることなど、各自が話す話題がたくさんあることを自覚できるようになっていった。

テーマは大きく分けると2つで、生活の話題と保育実習の話題であった。特に生活の話題に注目すると、社会の現状に目を向けてい

ることがわかる。バイトが少なくなった状況やライブ開催など感染症による生活の変化を話題にする学生など、その時の社会の問題を敏感に捉えていた。また、季節の話題を取り上げる学生もいて、こうした状況下でも五感を使って生活している姿をみることができた。保育者養成校の学生らしい話題である。

一方保育実習の話題では、うまくいった保育教材や遊びを紹介する成功体験を話題にする学生がただでなく、失敗談の事例を具体的に話す学生もいた。2週間現場を体験する実習は教室の15回の講義より何倍もの学びがあり、学生の成長に目を見張ることがある。失敗を話題にして語ることができたことは、昇華して次の段階へ進む力の表れであろう。これらのことから、それぞれに学生が身の回りの出来事や生活での出来事、子どもの生活や保育についての課題に気づき、自分の意見を持つことができたということがわかる。これは、コロナ禍においても社会や保育の課題に気づき、思考することができたといえる。以下に学生の「ミニトークテーマ」を示す。

#### ＜ミニトークテーマ＞

##### 生活の話題（21名）

- ・私の元気が出る曲やがんばろうと思える人と言葉
- ・バイトの変化
- ・24時間テレビ「愛は地球を救う」
- ・星の王子さま
- ・ファミリーマートの入店音
- ・知られざるおどろきの「水の力」
- ・「火垂るの墓」の「火垂る」の意味
- ・滑舌について
- ・ピーズリング
- ・おすすめのデザート
- ・やっぱり夏が好き
- ・手紙のよさ
- ・芸能人の自殺について
- ・コンビニのマイバック使用
- ・果物について

- ・親知らずについて
- ・コロナによってバイトが続けられない
- ・ライブの開催方法
- ・朝顔
- ・最近読んだ漫画
- ・バイトをして思ったこと

##### 保育実習の話題（19名）

- ・実習での出来事から
- ・部分実習の失敗談（2名）
- ・実習について（2名）
- ・実習で学んだこと
- ・部分実習「じゃんけん列車」
- ・子どもに好かれる保育士とは
- ・異年齢保育の中で学んだこと
- ・暗闇シアターについて
- ・マスク着用をしていると子どもの発達が遅い
- ・保育者の動き
- ・「人数あわせ」のゲームをした時の年齢児での反応の違い
- ・子どもの気持ちを汲み取ること
- ・園でのコロナ対策
- ・ホワイトボードシアターは楽しい
- ・保育の大変さ
- ・子どもの好きなもののパワー
- ・部分実習を通して学んだこと

#### ② 「話す」楽しさを味わうことができた

二つ目の成果として、各自が「話す」楽しさを味わうことができたことである。第4回前半は、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れて、3～5人のグループ人数で、メンバーは学生の主体性に任せ、気の置けない仲間同士で交流できるようにした。準備した記事や記録など持ち寄り、原稿を見ながら、グループ内で話す時間を持った。安心できるメンバーの中で「ミニトーク」として話すことは、おしゃべりのような感覚でむしろ楽しんでいたようである。約20分間ほどであるが、様子を観察していると、話す者も聞く側の者も集中している。しかも、表情もよく、話が

終わると拍手したり、自然に話題についての意見が交わされていた。「聞く者」が気の置けない仲間で構成されたグループであることは「話す」体験を設定する要件となろう。また、あらかじめ用意した話題について作成した原稿、話し言葉で書いたメモ程度の原稿をもとにして話をする事で「話す」ことの自信につながったと考えられる。このように「話す」ための準備を細かく段階を追ってすること、気軽に話すことができるメンバー構成、さらに話をするための原稿を用意することが、「話す」楽しさの体験につながり、ひいては「語る力」をつけることにつながっていくといえる。

### ③ 全員の前で「語る」体験ができた

3つ目の成果として、全員の前で「語る」体験ができたことを挙げておきたい。第4回後半の時間は、一人が40人全員の前に立ち3分間の「学生ミニトーク」の時間とした。全員の前で、テーマを決めて資料を示しながら話す形をとったので、これを一つ価値を高めて「語る」としたい。「人前に立つ」ことは緊張を伴うものだが、将来保育者となる学生にはそうした場面に慣れる必要がある。ただし実施時間の調整のためほぼ半数の者しかできなかったことは残念だった。しかしながら、全員に体験させたいと思うほど充実した時間を過ごすことができた。

話をする学生の様子を振り返ってみると次のようなことに気づくことができた。まず前に立つ時に、原稿を見ながら話す姿が見られた。これは、事前のグループ交流で一度予行演習しているため、全員の前でも同様にテーマをまとめた原稿が重要になっていたようだった。中にはお気に入りの本や植物の写真を見せながら話す学生もいて内容をより深めていた。また、マイクを使用したことで、声が全体に伝わりやすかった。さらに話す態度は全員が堂々としていた。このように「前に立って話す体験」つまり「語る」体験を重ねることで自分に自信を持つことは、学生の

「話す力」「語る力」をつけることになり、さらにコミュニケーション能力が育つことになると考える。

## 4 まとめと今後の課題

2020（令和2）年度前期は、上述のように状況が一変して、幼児教育学科カリキュラムにおける特徴ある授業の一つ、子育てサロンへ参加して実践現場で学ぶ授業内容を変更しなければならなかった。そこで考案しながら実施した授業が「学生ミニトーク」であった。

その第一の成果は、学生の主体性が向上した点である。コロナ禍で自宅で過ごす4月、5月の2カ月間の異常な状況下で、生活時間が逆転する、朝食を食べないなどの状況があったことが、学生達への聞き取りからわかった。6月から対面授業が始まっても、人と離れて、食事は一人で黙ってなどの制限が多く、本来の学生らしい生活が保障されていなかった。そうした時間を過ごしていた学生が、授業を行う中で、自らの課題（テーマ）を持って思考することができたことは価値がある。またその要素として、教員と学生との緻密な相互交流が行われたことを挙げることができる。交流の一つは、先の見えない状況下で教員から学生達に気持ちをぶつけて語る「教員ミニトーク」を数回繰り返したことである。教員から学生への一方向への「語り」であるが、モデルとして効果的に示すことができていた。教員が真剣に向き合った「語り」は学生に影響を与えていたと感ずることができ、さらに交流の二つ目として、学生と教員との丁寧な会話の交流である。学生各自のそれぞれの気づきを学生同士が話し合う自由な形の会話に、言葉を添えて教員が援助したことを忘れてはならない。このことは、コロナ以前には当たり前だった対面して会話することの大切さを、あらためて確認することができたことでもある。マスクはしていても顔を見て、同じ空気を感じながら話すことは、

相手の気持ちを察し伺うことができる。話す人の温度を感じながら、お互いの考えを口にするすると自らの考えがまとまってくるのだ。これこそ対面授業の良さであることを実感した。

婦人之友社編集「コロナと向き合う 私たちはどう生きるか」では先の見えない今の不安に15人がメッセージを寄せている。その中で湯浅誠は「考えたってわからないとあきらめることを『思考停止』といいます。あえて言えば、私にとって『思考停止はコロナより怖いもの』です。だから疑問は消さない。わからないからこそ、自分の中にキープしておく。それには頑丈な心と頭が要ります」<sup>22)</sup>と言っている。感染症対策などの緊張感と、前を見通せない不安な状況の中で、各自が課題を持ち考える時間を持って話をまとめることができたことは、未来の保育者となる学生が前を向いて生きる主体性が育ったと確信する。

第二の成果として「話す」体験が何と楽しいことかと、改めて実感できたことである。コロナ禍以前は当たり前だったたわいもないおしゃべりが、いかに楽しく大切なものであったか、顔を見て同じ空間で相手の声を聴いてしゃべり合うという当たり前のことが、未曾有の体験をした今だからこそ気づいた価値であることを、成果としたい。

第三の成果として、全員の前で「語る」体験で自信をつけることができたことをあげておく。保育技術の一つである『おはなし』は『ストーリーテリング』とか『すばなし』と呼ばれることもあり(略)言葉だけで語られ<sup>23)</sup>るものである。浅木尚実は「お話(ストーリーテリング)の授業において「話す力」の養成には、「練習の必要性への気づき、人前で話すための自信が必要であること、そしてその自信を深めるためには、練習だけでなく、繰り返し慣れていくこと」<sup>24)</sup>としている。

「おはなし」は物語を覚えて言葉だけで話す児童文化財であるが、「話す」ことはそれに限らず保育現場で日常茶飯事行われてい

る。子ども全員を前にして話す場面、例えば朝の会で季節の話題を話す、今日の予定を話す、帰りの会で明日につながる例え話をするなど、場面はたくさんある。学生たちは、保育実習で子どもの前に一人立って話す機会が必ずある。人前で話す力を鍛えるには、まず課題を持って「話す」機会を設けることが大切である。その際には、気心の知れた小グループを構成して「聞く」環境を整えて、話して楽しかった体験をすることが必要である。さらに大勢へ向けての「語り」では、話すための準備である「原稿」、これは文章として整えるより話し言葉のメモ程度であればよく、さらに示したりする資料を用意するとなおよいことがわかった。齋藤孝は「思考力を鍛える」で、学生の思考する力をつけるためにスピーチする経験の必要を挙げていて、「みんなの前でプレゼンする、スピーチをする、アイデアを発表するといった機会を積極的に作ってどんどん取り組む。するとしだいに慣れてきて、考えたことをきちんと言葉にできるようになる」<sup>25)</sup>と述べている。身近なテーマを見つけて「話す」体験を何度もして慣れることが「話す」自信につながるはずである。

「学生ミニトーク」は、コロナ禍の中で、目の前のことだけを考えながら進めていった授業であった。実践の成果として3点、1. 学生が自らのテーマを持って思考する主体性が育ったこと、2. 「話す」体験の楽しさを改めて実感したこと、3. クラス全員の前で「語る」体験により学生が自信をつけることができたこと、を上げておく。振り返ってみれば、学生達に前を向こうと話しかけて励ましていたつもりが、実は学生の話す力からエネルギーをもらっていた。先の不透明な時だからこそ自分たちのアンテナを持ってあらゆる情報をとらえ人と話しながら次へ進む、そうした努力を惜しんではならないということを今回の授業で知ることができた。

今後の課題として、実施した授業をさらに

省察して計画的な授業を構成して実施することと、事後感想による学生の言葉からの成果を見届けることとしたい。

## 謝辞

大垣女子短期大学幼児教育学科准教授垣添忠厚先生、准教授大橋淳子先生には、「子ども基礎研究Ⅰ」の授業共同担当者としてご協力とご助言をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

## 参考・引用文献

- 1) 中日新聞 Web：新型コロナ（ニュース）、chunichi.co.jp、2020.12.6.
- 2) 岐阜県公式ホームページ：知事からのメッセージ - 岐阜県 新型コロナウイルス感染症に関する情報、www.pref.gifu.lg.jp/site/covid19、2020.12.6.
- 3) 倉橋惣三・言葉 小西貴士・写真 大豆生田啓友・選：倉橋惣三を旅する 小さな太陽、フレーベル館、東京都、2017.
- 4) 国立大学法人お茶の水女子大学附属幼稚園：お茶の水附属幼稚園創立 140 周年記念誌、47、2016.
- 5) 前掲書 4
- 6) 大垣女子短期大学：「大垣女子短期大学教育活動における新型コロナウイルス感染症への対応に関するガイドライン」、http://www.ogaki-tandai.ac.jp、2020.10.3.
- 7) 大垣女子短期大学：「新型コロナウイルス感染症への対応について」、http://www.ogaki-tandai.ac.jp、2020.10.3.
- 8) 大垣女子短期大学：「大垣女子短期大学令和 2 年度前期授業に関する基本方針及び実施要項」、http://www.ogaki-tandai.ac.jp、2020.10.3.
- 9) 大垣女子短期大学：令和 2 年度学生要覧、大垣女子短期大学「教育に関する基本方針」（抜粋）、29、2020.
- 10) 中日新聞：自分の足で立てみる、2020 年 5 月 17 日朝刊社説、5、2020.
- 11) 文 / 西田めい 絵 / 羽尻利門：二十四節気のえほん、PHP 研究所、東京都、2014.
- 12) 中日新聞：UD フォント 高齢化、視覚障害増に対応、2020 年 5 月 22 日朝刊、17、2020.
- 13) 毎日新聞：普通とは何だろう、2020 年 6 月 18 日朝刊、20、2020.
- 14) 中日新聞：児童虐待過去最多、2020 年 6 月 25 日朝刊、17、2020.
- 15) 中日新聞：子育て家庭孤立を深める、2020 年 6 月 25 日朝刊、16、2020.
- 16) 中日新聞：女性の 4 割「コロナで太った」、2020 年 6 月 25 日朝刊、8、2020.
- 17) スポニチ：池江璃花子、10 月レース目指す「メンタルはメチャクチャ強くなっている」、2020 年 7 月 3 日スポーツ、https://www.sponichi.co.jp/sports/news/2020/07/03/kiji、2020.7.3.
- 18) 第一生命：小学生が大人になったらやりたいもののランキング、https://event.dai-ichi-life.co.jp/、2020.7.10.
- 19) ソニー生命：中学生になりたい職業ランキング、https://www.sonylife.co.jp、2020.7.10.
- 20) ソニー生命：高校生将来になりたい職業ランキング、https://www.sonylife.co.jp、2020.7.10.
- 21) 宮地尚子：不安なときに、母の友、no.808：32-34、2020.
- 22) 婦人之友社編集部：コロナと向き合う 私たちはどう生きるか、婦人之友社、東京都、2020、pp45.
- 23) 編者川端泰介・浅岡靖央・生駒幸子：ことばと表現力を育む児童文化、萌文書林、東京都、2018、pp106.
- 24) 浅木尚実：ストーリーテリング（お話）と国語教育「話す力」「聞く力」養成～教員志望学生のコミュニケーション力向上



- に関する考察～、淑徳短期大学研究紀要、  
第 53 号：53-67、2014.
- 25) 齋藤孝：思考中毒になる！、東京都、幻  
冬舎、2020、pp81.
- 26) 和田竜太：＜報告＞－学生相談カウンセ  
ラーから見た新型コロナウイルス感染拡  
大をめぐる動向について－国内外の動き  
と本学・カウンセリングルームの対応を  
振り返って－、京都大学学生総合支援セ  
ンター紀要、49：73－83、2020.

# コロナ禍における子育てサロンの取り組みの報告 —2020 年度から 3 年間の子育てサロン「ぷっぷあ」の活動について—

## Report on the efforts of child-rearing salons in the corona disaster

今 村 民 子  
Tamiko IMAMURA

### 1 はじめに

2020（令和 2）年度から始まった新型コロナウイルス感染症拡大の影響（以下「コロナ禍」と表す）は 3 年たっても落ち着く様子はみられず、現在（2022.12.12）は第八波拡大を警戒した岐阜県医療ひっ迫宣言が出され、感染者数の増大が続いている<sup>1)</sup>。

この 3 年間には各地の保育者養成校に併設された子育て支援施設において、関係者は苦労をしながら工夫を重ねて活動を展開し、学生の子育て支援、保護者支援の学びを保障してきたことが報告されている。

一例を挙げれば、まず瀬々倉他は京都女子大学親子支援ひろば「ぴっばらん」でコロナ禍 2 年間（2020 年度～2021 年度）のオンラインによる活動プログラムを実施して利点があったことを示し、今後は「対面型とオンラインを融合させたハイブリッド型プログラムへ進化」することを提案している<sup>2)</sup>。また、和田他は京都光華女子大学「光華こどもひろば」で、2020 年度オンラインによる子育て支援活動をあらゆる方法で実施した後、2021 年度は「限定した定員で対面開催」に向けて新しい実施方法を検討し模索しながら、今後できる限り対面に戻す努力をしていることが報告されている<sup>3)</sup>。さらに、岡田他は武庫川女子大学子育てひろばで、変化していく時期に応じながら対面型を進めるための感染症対策と保護者への支援の取り組みを紹介してい

る<sup>4)</sup>。これら三つの事例のように、コロナ禍における子育て支援活動の報告はやっと今になって散見される。だが、まだ研究や検証は途中で今後さらに進んでいくと考えられる。

さて、大垣女子短期大学（以下本学と表す）子育てサロン「ぷっぷあ」（以下「ぷっぷあ」と表す）は、地域子育て支援の場であるとともに、幼児教育学科学生が実践的な子育て支援の学びの場として 2008（平成 20）年 6 月 12 日に開設された。前年に大垣市と本学の間に連携協定が調印され、大学の機能を地域に活かし、地域の子育て支援（子育て親育ち支援）や、地域につながりより地域に愛される大学づくりがすすめられたためである<sup>5)</sup>。

2012（平成 23）年度までは月 2 回、それ以降は月 3 回、夏休みの 8 月を除く毎月開催し、2019（令和元）年 12 月までおよそ 11 年間継続して実施してきた。しかしコロナ禍によって 2020（令和 2）年 1 月からは従来のような活動が難しくなり、2020（令和 2）年度前期（4 月～9 月）は開催中止となってしまった。その間も学生の学びを止めてはならないとの意思をもって再開に向けての準備を怠らないよう努力を続けた。だが、今までの開催方法や内容を大きく変更して活動を再検討せねばならず、さらに感染対策などについては全く手探りの状態であった。コロナ禍によって大学における学生の学びは ICT 化が急激に進んだが、本学は実学重視の学科が多

いことから全学的にできる限り対面授業の実施を目ざしたので、「ぶっぶぁ」開催についても対面実施で再開すること以外想定されていなかった。

ここで「ぶっぶぁ」の存在意義を二つ確認しておこう。一つ目は、地域子育て支援の場として子育ての不安等を軽減するために教員や子育て支援コーディネーターが存在する場所を学内に提供することである。二つ目は、保育者養成校において子育て支援の実践を体験的に学ぶ場として学生が参加協力することである。それらはどちらもコロナ禍以前には一定の効果を上げていた。しかし、コロナ禍以降、2020（令和2）年度後期10月から再開できたとはいえ状況が一変したため、運営の意義を改めて問われる事態となった。

本稿の目的は、まずはコロナ禍までの本学子育てサロン「ぶっぶぁ」の運営状況を顧みてまとめることである。それを通じて活動の成果と学生の学びを確認した後、2020（令和2）年度から2022（令和4）年度までの3年間、コロナ禍の影響を受け揺れ動いた「ぶっぶぁ」の実践について、その時に行った変更点と、それに伴う判断や具体的な実施内容を記録して省察したい。さらに、本学幼児教育学科で作上げてきた保育学生に向けた子育て支援の学びの成果について考察し、今後の発展への一助にしたい。

## 2 方法

最初に2019（令和元）年度までの活動の概要を示す。次に2020（令和2）年度に一時中断した状況下で再開に向けての感染症対策について、また実施する活動内容の変更についてまとめ、実際に行った活動状況を報告する。その上で学生の子育て支援の学びを保障する視点からの検証を試みる。

## 3 コロナ禍以前の「ぶっぶぁ」の活動の概要

期間を開設期、充実期の2期に分けて紹介

する。

### (1) 第Ⅰ期 2008（平成20）年度～2012（平成24）年度－開設期

大学が夏休みの8月を除いた毎月2回実施した。

開設日時：第2、第4木曜日 10:00～13:00

開設場所：本学H号館1階（H102、H103）

運営事務：2009（平成21）年度から各学科委員からなる「子育てサロン運営委員会」が担当。年3回程度の会議にて、年度計画、運営方法、実施報告等を行った。

管理：本学事務局総務課。

運営メンバー：コーディネーター2名、地域ボランティア3名、幼児教育科教員2～5名。授業の一環として2年次生、3年次生の学生が関わる。（2015年度、幼児教育科から幼児教育学科に名称変更）

### (2) 第Ⅱ期 2013（平成25）年度～2019（令和元）年度－充実期

「ぶっぶぁ」の実施日を増やして月3回にした。第3週を「おねえさんといっしょの日」と名付けて、学生が主体になって運営する日にした<sup>6)</sup>。さらに2014（平成26）年度から大垣市連携事業「子育てママ大学」が5、6、7、10、11、12月の6回、第1週木曜日に実施されることになった。これにより毎週木曜には子育て支援事業が行われ、未就園児親子の姿が学内で見られるようになった。

表1に参加者に配布していた2015（平成27）年度「ぶっぶぁ」年間開催日予定表を示す。充実期は年間ほぼ30回実施し、毎回20組ほどの親子参加があった。（図1）



（図1 充実期のおたのしみ会）

表 1 平成 27 年度子育てサロンぷっぷあ開催日  
(予定)

	第1木曜 ママ大学	第2木曜 サロン	第3木曜 ☆	第4木曜 サロン
4月		9日	☆ 16日	◇ 23日
5月		14日	☆ 21日	◇ 28日
6月	* 4日	11日	☆ 18日	◇ 25日
7月	* 2日	9日	☆ 16日	◇ 23日
8月	おやすみ			
9月		10日		◇ 24日
10月	* 1日	8日	☆ 15日	◇ 22日
11月	* 5日	12日	☆ 19日	◇ 26日
12月	* 3日	10日	☆ 17日	◇ 24日
1月		14日	☆ 21日	◇ 28日
2月				◇ 25日
3月		10日		◇ 24日

◎第1 木曜日\*印の日は、大垣市連携講座・子育てママ大学です。受講には、大垣 市子育て総合支援センターへのお申し込みが必要です。詳細は支援センターから ご案内します。

◎第3 木曜日☆印の日は、『おねえさんといっしょの日』です。学生主体の運営になります

◎第4 木曜日◇印の日は、お誕生会があります。

◎いずれも 10 時～ 12 時 45 分まで利用していただくことができます。

◎昼食は、お弁当をお持ちいただくか、学内のカフェテリア、パンの販売等をご利用ください。

### ① 活動の流れの紹介

ここで、コロナ禍以前に行われていた充実期の活動内容を紹介する。

表 2 充実期の活動内容

時間	活動内容
9:00	開催準備 ・床など部屋の掃除・おもちゃや遊具の消毒 ・ミーティング（スタッフ全員の顔合わせ、今日の予定の確認）
10:00	受付開始 ・学生とボランティアが担当。参加費（保険料として）親子一組 100円徴収。 ・新規受付時には登録カードを記入してもらい、内容説明、案内をする。
10:20	朝の会

	・あいさつ、体操、手遊び、連絡。第4週は誕生会
10:30	自由遊び ・親子が自由に遊び、学生、ボランティアが相手をする。自由参加の制作遊びコーナーの設置。学生の手遊びコーナー、読み聞かせコーナーなどを実施。
11:20	お楽しみ会 ・おもちゃを片付けて全体会の形になる。学生企画の手遊び、歌遊び、大型絵本の読み聞かせ、身体遊びなどをする。
11:40	帰りの会 ・最後の手遊びとあいさつ
11:50	食事時間 提供した場所やカフェテリアで昼食を自由にとる。
12:45	終了

### ② 運営メンバーについて

運営メンバーとして学科担当教員 3 名とそれに加えて 4 名の担当者がいた。1 名は子育て支援コーディネーターで学生指導ができる非常勤職員である。3 名は有償ボランティアで子育てを終えた地域の先輩ママにお願いしていた。なお、運営管理は総務課、事務及び年間計画等は本学全学科委員による「子育てサロン委員会」が担当していた。

### ③ 学生参加の状況について

参加することをカリキュラムに位置づけ、授業として活動した。前期は幼児教育学科 2 年次生が「子ども基礎研究Ⅰ」として、後期は 3 年次生が「子育て支援演習」として参加。これにより全員が子育てサロンを体験する。事前学修として、おたのしみ会の計画と練習、当日は開催準備から終了片付けまでを担当し、事後記録を作成して提出する。授業目標としては、子育て支援の方法や配慮について理解し、子どもの年齢や発達に応じた支援ができることとしていた。この参加状況は

2022（令和4）年度までずっと同様である。

#### ④ 充実期の活動の特徴

一つ目は参加親子の自由度が高いことである。日本国内で、2000年ごろから急速に全国的に広まったひろば型の地域子育て支援拠点は、子育ての孤立防止、育児方法を学ぶ、情報交換の場、仲間同士の支え合いを目的として、ノンプログラム、自由参加を主な内容として全国各地に展開されている<sup>7)</sup>。本学の「ぶっぶあ」もこのようなひろば型の支援場所と言える。開始時間の午前10時から、いつ来てもいつ帰ってもよい自由度があった。活動が終わると昼食をとる場所を「ぶっぶあ」内で提供し、学内カフェ（学食）や図書館などの施設の利用もできた。

二つ目に学生参加による保育技術の発表の場であることである。最後に設定された20分間の時間（おたのしみ会）で、手遊び、絵本の読み聞かせや紙芝居を演じること、歌遊びや身体遊びなどの構成を考えて保育技術を披露する場所になっていた。

三つ目に子育て支援を学ぶ場所として、コーディネーターやボランティアの存在があったことである。子育て中の保護者と接する機会が「ぶっぶあ」では保障されている。そこで子育ての先輩経験者であるボランティアやコーディネーターが、実際に保護者の話し相手になっている場面を直接見たり聞いたりする体験は、子育て支援の貴重な学びの場になっていた。

まとめると、充実期の活動の特徴は、参加親子の自由度が高い中で、学生が保育技術を発表する場が保障され、さらに保護者と関わり方をみて学ぶ場所として、つまり保護者支援を学ぶ場として効果を発揮していたということが言える。

#### 4 コロナ禍 2020（令和2）年度の「ぶっぶあ」の活動状況

2020（令和2）年度当初は別報「コロナ

禍において実施した授業『学生ミニトーク』の報告」に示したように、本学の状況は未経験のことばかりであった。前期、やむを得ない中断期間を経て、「ぶっぶあ」が再開できたのは2020（令和2）年度後期の10月からだった。

##### （1）再開に向けての模索

「ぶっぶあ」開設期当初は、大垣市運営の地域子育てサロンの物的、人的環境を模したと聞いていた。その後も市との連携協定のもと、子育て支援についての情報交流や、授業として学生が市内で実施している地域子育てサロンへ出向いて参加することを継続して行っていた。そこで、今回の再開を考えるにあたり、大垣市が実施している子育てサロンの状況について聞き取りするとともに、視察も行った。

##### ① 大垣市の状況報告

筆者は2020（令和2）年7月9日、大垣市子育て総合支援センターへ訪問して、所長、主幹、担当職員3名から聞き取り調査をし、7月17日南部子育て総合支援センター内で実施しているサロンの様子を視察して、状況を子育てサロン委員会に報告した。

- ・開催日は前日に予約をした人に限っており、同時参加は4組、午前10時から午後5時までの間に3クール（10：00～11：40、13：00～14：40、15：00～16：40）、1日で12組が利用可能で、1回1組100分の利用時間となっている。間の20分間でおもちゃなどの消毒や場所の清掃をする。
- ・遊ぶ部屋は1組が2畳用カーペットだけを使用することで、スペースを区切っている。おもちゃは小さい子向け、大きい子向けのセットを作ってカゴに入れ、子ども一人が1つを選んで使うようにして共有を避けている。
- ・現在は「南部総合子育て支援センター」（視察場所）と「キッズピアおおがき」の2か所が支援場所として開設している他、

10か所以上あったサロンは南地区センターの1か所のみとしており、コーディネーター（有償ボランティア）6名が毎回交替で担当している。

- ・絵本は市立図書館のやり方を習って、手に取った本は返却用箱へ入れて再度触れない。3日放置してその後もとの場所へ戻している。
- ・利用者に対して注意していることは、入るときには検温、手指の消毒、マスクの着用をお願いする。共有を避ける（おもちゃ、場所）、離れて遊ぶ、である。
- ・支援者の注意事項は、検温、健康チェック表を使つての自身の健康確認、マスク着用、エプロン、シャツ（着衣）、靴下を新しくすることである。

## ② 実施した感染対策

大垣市のサロン開設実施方法は感染予防を徹底するため、事前予約制、参加組数制限、おもちゃや場所の共有を避ける、支援者は検温し健康チェックをする、手指の消毒、マスクの着用を行うことを実行していた。再開にあたりこれを参考にして、以下、a)～k)の11項目を示し、令和2年度第2回子育てサロン委員会メール会議で審議後、了承を得た。

- a) 参加者は事前予約制とし、組数は10組に限定する。開催日1週間前から募集し前日に締め切る。電話の予約とするが、今後メール受付もできるように努力する。
- b) 開催時間は、10:30～11:30の1時間とし、前後には消毒清掃の時間を設ける。
- c) 学生、職員のマスク着用、咳エチケットの徹底。当日朝の検温と学校様式にそつた健康観察の確認。手洗い、手指消毒の徹底。
- d) 三密（密閉、密接、密着）の回避。
- e) 定期的な換気。
- f) 参加者大人（保護者）はマスク着用と手指のアルコール消毒をお願いする。
- g) 参加当日の受付で親子とも検温、学校

の様式に示された内容の健康状態確認チェック表を記入する。

- h) 連絡先を出席カードに記入する。
- i) 部屋では場所を指定し、話を聞いたり遊んだりするときは他の親子と距離を空ける。（三密回避のため）。
- j) 食事は禁止。水分補給は、区切った場所なら可。
- k) オムツ替えは持参したシートを使用。

以上の内容を明記して2020（令和2）年9月30日から本学ホームページに掲載した。

## （2）活動内容の変更

再開の準備を進めていく中、この時期の大きな変更点が二点あった。まず、子育て支援者（コーディネーター、有償ボランティア）が不在になったことである。これは活動の縮小に伴う人員の削減が理由であった。これにより、運営は幼児教育学科担当教員ですべて行わなければならなくなった。

二つ目は、活動内容をすべて固定のプログラムにしたことである。コロナ禍以前、開設から充実期までの「ぷっぷあ」はゆるやかなノンプログラムでいつでも出入りしてよい、子どもの好きな遊びや場所を見つけて遊ぶことができるという自由度が、一つの特徴だった。これは子育てひろばの理想形で、子育て支援の場は、自由な時間や空間が保障された中で子どもを遊ばせながら、子育てする保護者同士が話をしたり、知り合って仲間になったりすることを手助けしたりすることが役割であった。それを変更して決められた活動のスケジュールを行う、プログラム型の60分にすることにした。この決定は担当教員で議論を重ねた部分であった。未就園児童を持つ保護者にとって、場所の自由度は子どもを見守るために必要なものである。なぜなら、0、1、2歳児は自己中心的な行動が多く、制限された行動場所や統一された内容には子どもの発達からみて馴染めないからである。決まった内容を提示して一斉に行うことは、子育て

支援の内容として不適切であるのではないかと悩んだ。しかし、この時に何よりも優先したかったことは、学生の子育て支援の学びの場を無くしてはならないという強い思いであった。固定プログラム型にして、活動項目内容の保育技術を披露することが、今できる最善の学びの保障であるとの思いに至った。つまり、優先したことは保育者養成校としての使命で、参加親子への子育て支援の意義は第二とする判断となった。

制限のある状況下で他の親子との密着や密接を防ぐ支援を展開する内容を考えてみると、一組ずつの親子がその場で楽しめる活動しか考えられなかった。その中で、少しでも手厚い支援ができるように、参加親子に対して学生が一对一で接する支援体制を整えることで参加者の満足感を得られるように努めた。

#### ① 活動内容と学生参加の様子

再開された「ぶっぶあ」は毎回希望者の参加があった。参加親子は入室したら場所を指定した。開催時間 60 分のプログラム内容は以下のようである。

表 3 再開された「ぶっぶあ」のプログラム

時間	活動内容
10:30	受付、健康チェック
10:50	入室。朝の会
10:55	親子制作
11:15	絵本の読み聞かせや紙芝居
11:20	帰りの会
11:30	終了

後期は授業「子育て支援演習」で 3 年次生が担当である。活動項目ごとに担当した学生が、前に出て指導的な役割を果たした。また、親子一組に対して学生 1, 2 人が対応する親子担当の学生を配置し、距離をとって消毒を繰り返しながら一緒にいて、子どもと遊んだり保護者と話したりした。事前準備では部屋の清掃、おもちゃの消毒（一つずつ塩素水で拭く）を行い、事後も使用物の消毒や場所を

清掃した。特に親子制作の準備では、道具や材料の共有ができないため、参加予定数 10 組分を一つずつカゴに用意しなければならず、のり、はさみ、ペン、クレパスなどの必要数の確保が大変だった。

#### ② 親子の参加実績

2020（令和 2）年度後期は 10 月～12 月まで第 2、4 週木曜日に 6 回実施した。参加親子のべ数は 29 組だった。参加者が作る出席カード数は 13 組であった。冬場だったこともあり、多い時で 8 組、その他は 4, 5 組で、平均組数は 4.8 組だった。

### 5 2021（令和 3）年度から 2022（令和 4）年度の活動状況について

#### ① 内容のさらなる変更

2021（令和 3）年度から運営は子育てサロン委員会から幼児教育学科の管轄に変わった。筆者は委員長から世話係になった。制限下の状況は変わらない中、担当教員で「ぶっぶあ」開催の時期や内容の検討が続いた。前回実施の内容を踏まえて、さらに次の二点を変更した。

一つは、プレスクール形式のように参加親子のメンバーを固定することである。参加組数が毎回 10 組あれば、学生数とのバランスがとれる。前期実績数約 5 組では、担当学生数が多すぎて、観察参加や準備のみになる学生が出ていた。そこで、学生が一对一で対応できる親子数の確実な確保を目指すために変更を考えた。これは、幼稚園で行われている入園前のプレ教室のような方法で、地域子育て支援の場の自由度からはかけ離れることになるのではないかと実施に迷いがあった。それでも、長引くコロナ禍の中で、学生の学びを確実なものにする効果を考えたの決断だった。場所（本学 H103 教室）の確保も考慮して、募集組数を 12 組とした。2021（令和 3）年度は前期 5 月から 7 月、後期 10 月から 12 月の 2 期、原則第 2、第 4 木曜日開催、

各6回を継続参加として、1カ月前から本学HPで募集した。参加親子数を確実に確保できれば、学生の授業参加による学びの保障ができるということである。また、参加親子が継続して6回参加することになれば、学生が参加する子どもの成長発達を見る機会になる効果も予想された。一方、参加する親子にとっては、申し込みの手間が1回で簡便になることや、繰り返し参加することで、場所や人に慣れる利点があると考えた。

二つ目の変更は、活動プログラムをさらに細分化して、内容をより具体的に計画したことである。活動する学生が、参加親子と関わりを持つ時間と内容を明確にして、制限下でも子育て支援の学びがより保障できるように考えた。内容変更の二点は、2022（令和4）年度も同様に実施した。

## ② 細分化した活動プログラムの詳細

表4 細分化した活動プログラム

時間	活動内容
10:15	受付開始（検温、健康チェック）
10:30	受け入れの時間
10:40	朝の会（挨拶、手遊び、体操）
10:50	親子制作
11:00	絵本の読み聞かせ
11:15	親子で身体遊びの時間
11:20	帰りの会
11:25	ふれあいトーク
11:30	終了

手直しして細分化した活動は3つある。

### a) 受け入れの時間

一組ずつ受付を済ませた後に、受け入れの時間を作った。参加者は10:30までに集合して、その後10分ほど、学生と一緒に親子遊びをする時間を作った。親子が来室すると、担当学生は個人の出席カードをもって親子に出会い、最初の挨拶をして、カードに好きなシールを選んで貼るよう促す。来られた方が

ゆっくりと場所になじめるよう学生から「前は楽しかったですか？」など話しかけながら、カゴに用意したおもちゃなどで、子どもと遊び始める。今日の出会いを楽しみながら活動を待つこの短い時間が、よい空気を感じるひと時となり、丁寧な出会いの時間を持つことによって学生の緊張も、参加者の気持ちも和らいでいった。

### b) 親子で身体遊びの時間

親子体操をする時間を毎回作った。令和3年度はひろみちお兄さんの体操<sup>注1)</sup>を毎回変えて行っていたが、令和4年度は「めっちゃ元気体操」の一曲に決めて、毎回定番に行行った。馴染みの曲ができ、同じ曲で身体を動かす遊びをすることで、参加者は場所や人への親密度が上がり、動きの予測できるので安心感につながる。学生は他の授業でもこの体操曲を使っているの、動きが軽快で場を盛り上げる役割も果たしていた。

### c) 学生とトークする時間を作る

「さようなら」の挨拶をした後、「学生とのふれあいトークの時間です」と呼びかけ、会話する時間を設けた。親子担当の学生が保護者と今日の活動やお子さんの姿についてなど、5分間ほど話をする時間を設けた。これにより、学生が保護者と関わる時間を意図的に作ったことで、よりしっかりと保護者と交流体験をすることができた。

### ③ 学生の関わりについて

前期2年次生は「ぶっぷあ」を初めて体験する。そのため1回に参加する学生は20名程度として、活動担当と親子担当に分け、参加2回目は担当を交替してどちらも体験できるようにした。後期3年次生は1回12名程度で活動担当をしながら、同時に親子担当もした。実習や研修を重ねた学年なので状況を判断して臨機応援に、仲間同士交替しながら進めることができていた。

### ④ 親子の参加実績

固定メンバーでの開催は、2年間で、6回



コースを4回実施した。平均10組程度の参加組数だった。

表5 2021 (R3) ～ 2022 (R4) 参加者実績

年	期・回数	募集組数	参加総組数	平均組数
R3	前期 6 回	13	57	9.5
	後期 6 回	13	63	10.5
R4	前期 6 回	12	59	9.8
	後期 6 回	12	61	10.1

## 6 考察

コロナ禍の3年間、迷いながら手探りしながらの「ぷっぷあ」開催だった。内容の変更点をまとめると、再開した初回期に2点、次の期に2点の4点である。項目をあげると1. 子育て支援者の不在、2. 活動の固定プログラム化、3. 参加親子組数の固定化、4. プログラム内容の細分化、である。この変更について、「ぷっぷあ」の存在意義である2つの視点、参加親子からみた地域子育て支援の視点と、学生における子育て支援の学びの成果の視点から今後に向けて考察したい。

### (1) 地域子育て支援の視点からの考察

#### ① 固定プログラムでも親子支援に有効

変更点2. 活動の固定プログラム化、つまり、決められたプログラムに親子を参加させる形をとったことは、地域子育て支援の場として適正であるのか、実施しながら逡巡する間이었다。

岐阜県大垣市を含む西濃地域で展開されている子育てサロンの内容は、全くの自由な遊び場となっているわけではなく、最初と最後(朝の会と終わりの会)に参加親子全員が集まって同じ活動をする、ゆるやかなプログラムがある内容で行われている。「ぷっぷあ」の活動内容もコロナ禍以前には、自由遊びの時間が中心であるが、始まりの朝の会、終わりのお楽しみ会、帰りの会があって、参加親子全員が同じ活動をする時間を設けていた。そ

れが、コロナ禍により自由遊びの時間ができなくなって、代わりに項目を決めた活動内容に固定しなければならなかったのである。

しかし、実際に開催を重ねてみると、参加保護者(ほとんどがお母さん)から評判がよく、「楽しかったです」「また来ます」と帰り際に声をかけてくださることが多かった。

「ぷっぷあ」は旧「子育てひろば」を模していることから現在の地域子育て支援事業(一般型)に近いと考えられる。その基本事業は、①交流の場の提供と交流促進、②子育てに関する相談・援助、③地域子育て関連情報の提供、④子育て支援に関する講習等の4つ<sup>8)</sup>で「ぷっぷあ」も同様の役割を担う場である。つまり、子育て支援の場所で重要な役割は、地域子育て家庭における子育ての大変さを解消することであり、それが一番の目的なのであるということが、ここで再認識できる。そうした意義から考えると、固定プログラムで自由遊びの時間を設けない、という活動内容形態にこだわる必要はない。プログラム一つ一つの活動の中で、保護者と学生との交流が生まれ、制作物の作り方や遊び方、手遊び、歌遊び、身体遊びなどの情報を提供することが、日頃の子育ての手助けになると認識すれば、固定のプログラムであっても、子育て支援の場として効果を十分に上げていると言えるのではないだろうか。

#### ② やむを得ない参加メンバーの固定

変更点3. 参加親子組数の固定化では、「ぷっぷあ」を開催するH103教室を約3m四方に仕切ってレイアウトして、12組の参加を確保し、6回コースとした(図2)。メンバーを固定して実施した参加組数実績をみると、毎回約10組の参加が確保できており、内訳では保護者が10人でほぼ母親、子どもは兄弟参加があるので、13～14人の参加であった。この数は親子と学生が一对一で対応するためのバランスもよく、手厚い支援をすることができた。

このようにみると、「ぷっぷあ」は、コロナ禍でも、地域への開放の努力を怠らず、支援の場として効果を上げていていると言える。実は、中断期間中の子育てサロン委員会では、再開は不可能という意見もあった。しかし、規模縮小とはなったが、辞めることはしなかった。こうした姿勢は、開設から14年、2020（令和2）年度前期の中止期間はあったものの、それ以外ずっと継続できている。近隣の住民、特に未就園児を家庭で育てる保護者が本学へ足を運ぶ時間があることは、地域に開かれた大学として十分な価値を見出すことができる。

変更を考える時点では、学生の学びの保障を優先したが、振り返ってみれば、本学が施設開放や財政的な援助を続けていることは、地域子育て支援の場を存続することで地域貢献できているのである。

今後の課題として、実施回数や参加親子組数を以前の数にまで増やすことをあげておく。参加者が自由に出入りしていた以前のようにするには、しばらくは難しく、前期、後期の6回ずつ12組の募集の形が継続することは、やむを得ないことであろうが、前に向いていく姿勢は必要である。



（図2 場所は12に仕切られ、親子と学生が距離をとっていっしょにいる）

## （2）子育て支援の学びの成果の視点から

### ① 学生が主体者となる活動の運営

変更点1. 子育て支援者の不在、つまり専属の子育て支援者（子育てコーディネーター）が不在となって、「ぷっぷあ」の管理運営は幼児教育学科担当教員が担うことになっ

た。これは、確かに人材不足を感じる点だった。しかしながら、人材不足を補ったのは学生だった。学生が活動の主体者となってすべてを進めていった。コロナ禍以前はボランティア支援者が担っていた作業、例えば部屋環境構成や壁面制作は、準備期間で時間の余裕がある学生たちが行った。また、親子制作物の計画を立てて、使用する用具や材料を用意することも、すべて学生が進めていった。充実期の第3週には、学生が主体で運営する「ぷっぷあ」として、2013（平成25）年度から「おねえさんといっしょの日」を始めた。この目的は学生主体の「ぷっぷあ」を作り上げたいという思いからだった。顧みればこの急務の時期に、学生主体の運営が、出来上がっていったということである。もちろん、学生が急にすべてできるようになったわけではない。「ぷっぷあ」に蓄積された財産は、長年在籍していた子育て支援コーディネーターが、開設から役目を終えるまでずっと、丁寧に整頓して保管していた。そうした保育素材や制作物資料などを見本として、学生が具体的な内容を考えることができた。また、学生主体の活動となるためには、黒子となって学生指導にあたる担当教員の力量が十分に必要なこととも、忘れてはならない。

コロナ禍により開催回数を限ったことで、学生一人が「ぷっぷあ」に参加する時間数は、それ以前に比べて少なくなってしまったが、その分、計画・準備や反省記録の時間が多くなった。これをむしろチャンスとして、学生が思考し、探索し、共同制作する作業時間となったことで、学生が運営の主体者として積極的に活動できたことは成果であろう。

しかしながら、今後に向けて子育て支援者の補充は必要である。学生主体の運営が中心になっていくとしても、開催回数や参加者数を、コロナ禍以前に戻すことを目指すならば、専任の担当者不在では、活動に支障をきたす。今後の課題として、本学の「ぷっぷあ」管理

担当部署には、専任の人材確保をぜひ、お願いしたい。

## ② 学生の動きを明確にした内容の細分化

変更点 4. プログラム内容の細分化は、学生の動きを明確にしたことが、一つ目の成果である。コロナ禍により、開催時間は以前より 30 分短縮して 60 分間になった。この状況でも学生の学び保障するために、短時間でしっかりと活動をやりきることが必要だと考えた。そのために、細分化した活動内容項目について、担当学生同士で誰が何をどのように行動するのかを明確にした。これにより学生は、流れが理解しやすくなり、イメージを持って計画準備ができたという効果があった。

例えば、朝の会、帰りの会など毎回決まった内容の担当学生は、挨拶の内容を数例考えて文章にして話す練習したり、定番の体操、手遊びの練習に、すぐ取りかかることができていた。また、読み聞かせや紙芝居担当は、文化財を探して練習に取りかかる。親子身体遊び担当は、楽曲を決めて動きを繰り返し練習しながら、さらに未就園児親子が動きやすい動きを考える。親子制作担当は、資料の中から制作物を考えて試作品を作って改良を重ねた後、見本品を作り、材料と用具を参加者数分用意する。というように、準備時間において、無駄のない動きができていた。朝の受け入れ時間に使うおもちゃ選びも、参加幼児の年齢を確認して、遊びを予測しながらカゴに入れることができていた。保育現場では、仲間で要領よく準備や段取りをすることが求められる。「ぷっぷぁ」の体験授業で保育者に必要な協同作業の力が育つ場になっていた。

## ③ 親子と親密に関わる一对一の時間の確保

変更点 4. については、さらにもう一つの効果があった。それは、プログラムの最初と最後に、より親密に学生が保護者や子どもと関わる時間を確保したことが、子育て支援の学びにとっても効果的であった。再開当初は

感染予防のため、保護者や子どもと、どの程度接してよいのか、距離の取り方や接し方がわからず、学生から不満や戸惑いの声があった。事後記録も客観的に観たことしか書けない、と嘆いた。活動を細分化して、最初の受け入れ時間と最後のトークの時間を設けると、話した内容や子どもの姿をより具体的に示す記録が増えてきた。保護者と話す体験は「ぷっぷぁ」ならではの子育て支援体験となった。

大日向雅美は地域子育て支援の場において「“子育て・家族支援者”さんの役割は基本的に指導でも助言でもありません。“傾聴”に徹して、寄り添うことです。(中略)“問題解決型”というよりは、むしろ“伴走型支援”の必要性<sup>9)</sup>があると述べている。学生が目指すのは、専門職の立場で支援することであるが、こうした保護者支援の基本を忘れてはならない。学生の立場だからこそその体験的な学びは、今後、保育者として活躍する際の保護者理解に、必ず繋がるはずである。

コロナ禍の3年間、内容を変更しながらも活動を続けた子育てサロン「ぷっぷぁ」の取り組みについて、本稿で確認できた成果をみることにしよう。まず地域子育て支援の視点から2点示す。1. 「ぷっぷぁ」の存在目的は、地域子育て家庭における子育ての負担の軽減なので、活動形態にこだわる必要はない。固定プログラムの活動の中で、保護者と学生、保護者と教員が交流する内容を仕組むことが、子育ての一助になり、子育て支援の場として十分な効果を上げている。2. コロナ禍により、規模を縮小して実施回数とメンバーを固定したが、それでも継続してきた価値は大きく、本学の地域貢献の場は保たれている。次に子育て支援の学びの成果の視点から3点示す。1. 専属の子育て支援者不在を補ったのは学生の力で、学生が運営の主体者として思考・探索して、積極的に活動することができた。2. 活動を細分化したことで学生の動きが明確になり、短時間でしっかりと活動する

ことができ、保育学生に必要な共同作業能力が身に着いた。3.活動の始めと終わりに一対一で親子と学生が関わる時間を確保したことで、保護者支援の基本を学ぶ貴重な体験ができた。以上の計5点を成果とする。今後の課題として、実施回数、参加組数を増やすことを目指すことと、そのために必要な子育て支援専属の人材の確保である。

コロナ禍の3年間は、保育、教育実習の実施にもかなりの困難を期し、確かに大変なことばかりで、それは今でも続いている。しかしその中でもピンチをチャンスにして、学生の主体性が育つ場を広げ、より細やかな活動によって学びを保障し続ける努力が、この先に繋がっていくはずである。幼児教育学科カリキュラムの特色である体験授業の場「ぶっぷあ」が、どのように形を変えていこうとも、本学学生が生き生きと活躍する地域貢献の場であることは、この先も忘れてはならない。

## 謝辞

子育てサロン「ぶっぷあ」の運営は、学校法人大垣総合学園大垣女子短期大学の地域貢献に対する姿勢があるからこそ実施できている。そのことについて心から感謝申し上げます。

また、本学幼児教育学科全教員の皆様の日頃のご協力に、深く感謝の意を表します。

最後になりましたが、准教授大橋淳子先生には子育てサロン、授業の共同担当者としてご協力、ご助言いただきました。ここに改めて深く感謝申し上げます。

## 参考・引用文献

- 1) 岐阜県：新型コロナウイルス感染症【県内の感染動向】（感染症対策推進課）、[gifu.lg.jp/site/covid19/](http://gifu.lg.jp/site/covid19/)、2022.11.1.
- 2) 瀬々倉玉奈・清水文：オンラインによる子ども・子育て支援の可能性、京都女子大学教職支援センター研究紀要、第4号：

135-142、2022.

- 3) 和田幸子・下口美帆・山崎玲奈：コロナ禍において保育者養成校が地域子育て支援事業を行う意義～2020年度「花華こどもひろば」の実践から～、京都花華女子大学京都花華女子大学短期大学部研究紀要、59号：223-241、2022.
- 4) 岡田朱世・加藤三保・鶴宏史・青木史子・森田美香：コロナ禍における武庫川女子大学子育てひろばの取り組み、武庫川女子大学大学院教育学研究論文集、第17号：60-68、2022.
- 5) 大垣女子短期大学教育GP専門部会：地域の子育て施策を活用したこういく方法の改善取組報告書－大垣市との連携による子育てサロンの運営を通じた体験学習－：7-9、平成23年度発行.
- 6) 今村民子：保育者養成校における子育て支援の演習授業の現状と課題－子育てサロン“ぶっぷあ”の実践例を手がかりとして－、大垣女子短期大学紀要、No.57：31-40、2017.
- 7) 松本園子、永田陽子、福川須美、森和子：実践子ども家庭支援論、ななみ書房、神奈川県、2019、pp59.
- 8) 厚生労働省：地域子育て支援拠点事業、<https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/dl/>、2022.12.12.
- 9) 大日向雅美+NPO法人あい・ぼーとステーション：共生社会をひらく シニア世代の子育て支援、日本評論社、東京都、2021、pp29.

注1) 本学客員教授佐藤弘道氏が制作した幼児体操CDを活用して親子体操を行った。「めっちゃげんき体操」もその一つである。



## 2022 年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告 ～メンタルヘルス教育の導入と学生相談室イベントの開催～

### Activity Report 2022 - Student Counseling Room

茂 木 七 香<sup>1)</sup>  
Nanaka MOGI

松 下 智 子<sup>2)</sup>  
Tomoko MATSUSHITA

#### 1 はじめに

2020 年 4 月から広がった COVID-19 の影響を受けた大学生活は 3 年目を終えようとしている。コロナ禍で学ぶ大学生については 2020 年初頭からの事態を踏まえて様々な立場から議論され<sup>1), 2)</sup>、大学生の心のケアについての特集記事や研究論文も出されている<sup>3~8)</sup>。その多くはオンライン授業が中心となった大学生活を前提としており、人と直接関わる機会が皆無になったことの影響が論じられている。

本学の COVID-19 感染拡大防止対応を振り返ると、2020 年度は 4 月に開始予定だった前期授業を延期し、5 月から一部オンラインやオンデマンドで授業を開始し、6 月からは対面授業を開始した。2021 年度は 5～6 月に居住地域や通学手段に基づき一部学生の受講をオンラインとした他、実習形式の授業を一時休講し夏休み期間に補講を行った。後期は感染拡大状況を鑑みて授業開始を 1 週間遅らせたが、それ以降は通常通りの対面授業を 2022 年 12 月現在まで継続している。このように、世間一般で問題視されているようなオンラインばかりの大学生活とは多少異なっていたものの、常時マスクを着用

し、手指消毒や黙食、他者とは距離を取った行動を強いられるなど、従来と比べると制限の多い大学生活であったことは否めない。長期化し慢性的なものとなったコロナストレスは、学生だけでなく大学に所属する全ての構成員にとって避けられないものとなり、様々な所に影響を及ぼした。以下、コロナ禍 3 年目の 2022 年度を学生相談室の取り組みとともに振り返る。

#### 2. 2022 年度の学生相談室の取り組み

##### (1) 学生相談室のオリエンテーション

学生相談室のオリエンテーションは、2020 年度は中止、2021 年度には資料配付とパワーポイント動画視聴による説明のみであった。2022 年は COVID-19 の感染拡大状況を考慮しつつ、学内の大ホールを会場として学生が一堂に会する従来通りの実施となった。学生相談室担当者(筆頭著者)が壇上に上がり、配付資料を参照しながらパワーポイントを用いた説明を行い、学生相談室へ行くための学内各所からの道順や学生相談室内の様子、相談風景(デモ)、主な相談内容や利用方法などを写真とともに提示した。配付資料には学生相談室の利用方法と連絡先を書いた A7 サイズのカードを例年通り添付した。

##### (2) UPI (University Personality

Inventory、学生精神的健康調査)の実施

UPI は全国学生保健管理協会によって 1968 年に開発された心理検査で、大学生の

1) 大垣女子短期大学総合教育センター教員  
／学生相談室カウンセラー(臨床心理士・  
公認心理師)

2) 大垣女子短期大学学生相談室 非常勤カ  
ウンセラー(臨床心理士・公認心理師)

心身の健康状態を把握して早期対応に活かすために多くの大学で用いられている<sup>9)</sup>(項目内容は付表1を参照)。本学では2008年度から4月のオリエンテーション時に全学生を対象として実施しており、コロナ前には質問用紙を配付しその場で記入させて回収していた。2020年度にオリエンテーションが中止となったためGoogleフォームから入力する方法に変更し、2022年度も同様に学内LMSを通じて学生それぞれに調査実施の趣旨と質問用紙のリンク先を送信し、各自で入力してもらう形をとった。学生相談室のオリエンテーションで調査の目的と概要を説明して入力を促し、2022年4月1日～4月22日を入力期間とした。期日を過ぎても未回答者が多数あったため学生相談室担当者の授業で再度呼びかけるなどした結果、4月27日までに回答のあったものを集計対象とした。回答者は309名、回答率は61.2%であった(2021年度は回答者337名、回答率66.7%)。全回答のうち、研究目的の分析や発表へのデータ使用に同意のあった276名分を集計・分析の対象とした。なお、2021年度と2022年度のUPI結果と後述するCOVID-19の心身への影響についての項目とストレス対処項目への回答の研究利用については、所定の手続きを経て本学研究委員会の審査を受け、承認されている(承認番号R3-1、R3-13)。

UPIは、ライスケール4項目を除いた56項目の合計得点の他、身体症状項目(以下、身体)、抑うつ項目、対人不安項目(以下、不安)、強迫・関係念慮項目(以下、強迫)の4つの下位項目の得点傾向で結果が判断される(各回項目の構成内容は付表1参照)。2022年度のこれらの項目得点と2021年度の項目得点についてStudentのt検定を実施したところ、図1のような結果となった。抑うつと強迫の各項目で2021年度に比べて2022年度の得点が有意に高く、精神的な不調が強いという傾向が見られた(抑

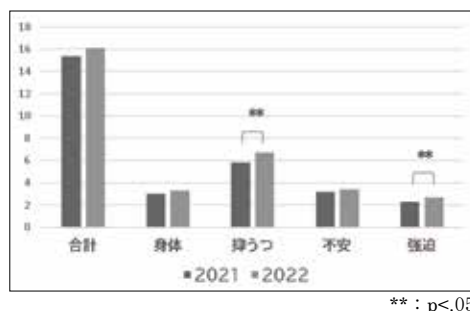


図1 UPI 結果得点 (2021年度と2022年度)

うつ: 2021年度5.8点、2022年度6.7点、 $p=0.04$ (強迫: 2021年度2.3点、2022年度2.7点、 $p=0.03$ )。

UPI項目と共に、今困っていることや相談したいことを記入する自由記述欄を設けたところ、38件の記述があった(2021年度34件、2020年度24件)。このうち学生相談室での対応が必要だと判断された6名にメールを送って来談を促したところ、その後2名が面接に訪れた。来談に繋がらなかったケースも、今は大丈夫・とりあえず頑張ってみるなどの返答があった。また、この時にはメールの返信がなかったが1か月後に学生相談室にメールで相談予約をしたケースもあり、援助の必要な学生に相談窓口としての学生相談室を認識してもらうための働きかけができた。

### (3) COVID-19の影響とストレス対処に関する調査の実施

#### 1) COVID-19の身体的健康と心の健康への影響

UPI項目に併せてCOVID-19が身体的健康に与えた悪い影響について尋ねると、「かなりあった」「まあまああった」を合わせると28%が感じていたが、(図2)。2021年度の32%よりはやや減少していた。具体的な内容としては運動不足が一番挙げられていた。本学では対面授業を行っており通学面での運動量は確保できていると思われるが、休日等に出かける機会が減少したことが推測される。2022年度には行動制限は出されていないがここ数年で外出を控えることが習慣化し学生た

ちの生活スタイルが変化したものと思われる。

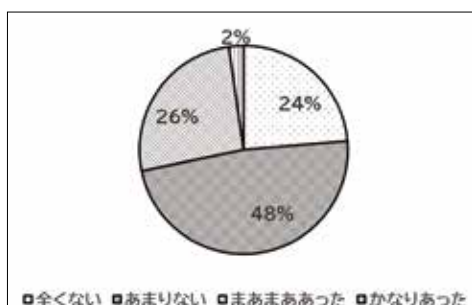


図2 COVID-19の身体的健康への悪い影響

COVID-19 がこころの健康に与えた悪い影響について尋ねると「かなりあった」「まあまああった」を合わせると37%が感じていたが、2021年度の44%からはやや減少していた。また、2021年度と同様、身体への健康より悪い影響を感じた割合は多かった（図3）。

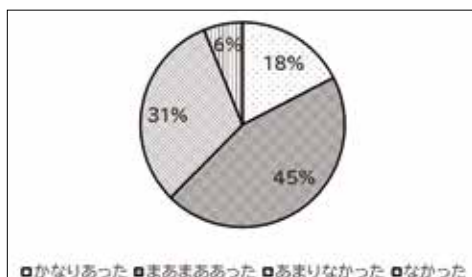


図3 COVID-19のこころの健康への悪い影響

具体的な内容としては、やる気のなさが一番に挙げられていた。コロナ禍では今までで来ていたことが制限されることが続いたため、何かやりたいことがあってもどうせ無理だろうという諦めの気持ちが先に起こってしまい、やる気が出ないという気持ちに繋がってしまうのではないと思われる。

## 2) コロナ禍でのストレス対処に関する調査

学生たちが長引くコロナ禍でのストレスにどのように対処しているか、質問項目を作成して尋ねた。項目の内容は、2021年3月に学生を対象として行った自由記述形式のコロナへの対処方法を探るアンケート（未発表）の回答内容を、日本語版 WCCL コーピングスケール<sup>10)</sup>の方略や項目内容を参考に分類し、以下の4つの下位項目の計10項目で構

成した。

問題解決的対処2項目「マスクや手洗い、消毒、外出自粛などの対策」「自由に行動できるためには今は頑張る時だと考える」

積極的認知対処2項目「今の状況を前向きにとらえる」「良い機会だと捉え、好きなことや楽しいことをする」

ソーシャルサポート2項目「友達や家族と電話やライン、対面で話す」「信頼できる人に話してアドバイスをもらう」

希望的観測2項目「コロナが終わったらできる、楽しいことを考える」「そのうちきっと終わるだろうと考える」

回避的対処2項目「嫌なことや不安なことは考えないようにする」「あきらめて我慢し、切り抜けようとする」

質問項目への回答方法は、項目内容のような対処を「しなかった・あまりしなかった・少しした・した」の4件法で回答してもらった。

各下位項目の得点を合計し、平均点を求めた所、図4のようになった（得点範囲は2点～8点）。これらのストレス対処はどれもストレス軽減のために効果的なものであるが、学生たちがもっとも良く取り組んでいたのは問題解決的対処であった。一方でネガティブな意味合いに受け止められがちな回避的対処を行った者は一番少なかった。

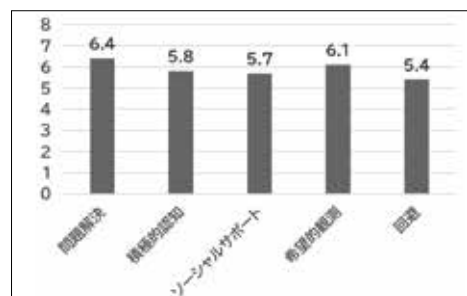


図4 ストレス対処下位項目ごとの平均点

## (4) 学生へのメンタルヘルス教育

### 1) 授業の内容

UPI 調査と COVID-19 の心身への影響、ストレス対処への回答結果をもとに、全1年



次生を対象とした初年次教育の授業（令和4年6月27日教養キャリア基礎演習Ⅰ「心身の健康について」）でメンタルヘルス教育を行った。この授業は4月に行われた健康診断とUPI等の結果を説明し学生たちの今後の心身の健康に役立てるために行われたもので、学生相談室担当者が学生相談室のオリエンテーション時と同様に壇上に上がり、配付資料とパワーポイントを使用しながら実施した。UPI等の項目内容を説明し、回答の全体的な傾向を示すとともに、sli.doという、インターネットを介して匿名で入力できるツールを用いて、授業に参加した学生に質問し、今の心の状態を投票してもらったり、どのようなストレス対処をしているかをテキスト入力で投稿してもらったりした。学生は各自の携帯電話からその場で回答を入力し、その結果は即時に前方スクリーンに映し出し、解説やコメントを加えた。この授業では、ストレスの意味やストレスモデルの説明、各種ストレス対処方法の効果なども記入式の配付資料を使用して説明した。また、UPI調査については希望者を対象に個別の結果説明を行うことも周知した（学生相談室だよりの紙面上にも掲載）。

## 2) 授業後の感想から

授業後、Google フォームに寄せられた感想から、学生たちがこの授業から得たこととして以下のようなものが挙げられる。

ストレスへの理解：

「ストレスは全てが悪い訳ではなく、適度なストレスは達成感が得られたり、成長に繋がれることがわかったので自分の中できちんと区別できるようにしたい」「ストレスには悪い影響を与えるものだけでなく良いストレスというものもあることが分かりました」

ストレス対処への意識：

「ストレスの対処法はそれぞれ人によって違うし対処法はもっと沢山あると思うので寝る以外にもどれが自分にあうのか色々挑戦したい」「ストレスを感じた時のために、自分な

りの対処法をいくつか考えておき、豊かに生活していきたいと思いました」「ストレスの対処法は『ただ発散させる』というイメージが強かったけれど、何为中心にあるかで対処法が違っていて驚きました」

相談することへの理解：

「あまり相談することをしてこなかったのに、話すことをしてみようと思う」「誰にも話にくいことがあったときは学生相談室を利用したいと思った」「今のところ心の健康に異常はないと思うのでこれからは異常や不調を感じたら学生相談を利用していきたいと思う」

他者との意見交流の効果：

「匿名で話すことが出来るのを使って色々な人とコミュニケーションを取れたので良かった」「色々勉強になったし、他の意見もきけて新鮮でした！」「みんな好きなことをしたり寝たりすることでストレスとうまく向き合っているんだなと感じた」

ストレスやメンタルヘルスについての基本的な知識を習得したりそれについて周囲の学生と話し合ったりする機会は他の授業ではなく、またプライベートで話し合われるような内容でもないため、このような場で他者との交流を交えながら学ぶ機会を設けたことは一年次生がその後の学生生活を送る上でも有意義であったことが窺えた。また、sli.doの授業利用については1クラス規模では行っていたものの<sup>11, 12)</sup>、今回のように200名近くの大人数を対象として行うのは初めてであったが、特に支障もなく多くの学生が参加し、効果的に用いることができた。

## (5) 学生相談室の通常業務

### 1) 学生相談室だよりの発行

2022年度は夏休み中の利用方法の号外を含めて5回の学生相談室だよりを発行し、学生相談室前とカフェテリア、各学科掲示板の学内6か所に掲示した。記事の中で、COVID-19の影響が長期にわたり慢性ストレスになっていることを示し、自らの心身の状

態に意識を向け労わるよう注意を促した。

## 2) 個別の学生相談件数

2022 年 12 月末時点での相談件数は新新規 27 名、前年度からの継続 4 名、相談延べ件数は 89 件である。コロナ禍が始まった 2020 年度の新規 9 件、継続 3 名、延べ件数 28 件、2021 年度の新規 24 名、継続 4 名、延べ件数 74 件と比較するとやや増加しているが、全体の傾向は似たようなものであった。相談内容は、学業や進路、対人関係など、例年通りのものが多く、特に COVID-19 の影響を思わせるものはなかった。

## (6) 学生相談室主催イベントの実施と振り返り

学生相談機関の活動は「援助活動」「教育活動」「コミュニティ活動」「研究活動」の 4 つに大別され<sup>13)</sup>、ここまでの活動は学生に対して学生相談室発信で一方向的に実施した援助活動及び教育活動、あるいは一部の来談学生を対象とした援助活動である。ここ数年学生相談分野で課題となっている「心理的問題を抱えているが自ら相談に来ない学生への支援の実現」については様々な取組があるが<sup>14, 15)</sup>、本学でもこれらの学生の来談に繋げるために 2021 年 12 月から学生相談室主催のイベントを始めた。以下に開始の経緯と実施状況、振り返りを記す。

木村・水野<sup>16)</sup>によると、学生の援助要請行動は相談相手を学生相談よりも友人や家族に求めることが特徴であり、「カウンセラーが自分の問題を理解してくれるのか」「相談したことを解決してくれるのだろうか」といった呼応性への心配があるため、学生相談への被援助志向性を高めるには学生相談の認知度を高めるとともに呼応性の心配を低減させるアプローチが必要だと指摘している。学生相談が相談対象として認識され早期介入ができる下地を作る為には場所やカウンセラーの人物像など相談室の認知度を高めて利用のハードルを下げるが必要であり<sup>17)</sup>、学生相談室主催イベントはそれらに適した場であると

考えられる。また学生相談のメリットを認識することで自らの利用のみならず専門的な援助を必要とする周囲の友人への利用を勧めることにも繋がる<sup>14)</sup>ことから、この活動を通じてカウンセラーの見守る中で居場所を確保し安全な他者交流の経験をしたり、対人関係を広げながら相談室の雰囲気を知ることでの悩みを持つが相談できない学生の利用を促進したり出来ることも期待される。

## 1) 2021 年度～ 2022 年度のイベントの概要

イベントについては非常勤カウンセラーが学生相談室担当者と相談しながら計画し、当日は非常勤カウンセラーのみで実施した。2021 年度と 2022 年度のイベントの内容を表 1 に示す。非常勤カウンセラーの勤務日に合わせて毎月 1 回木曜日の 15:20～17:00 に開催し、枠設定や参加条件を緩くすることで学生が気軽に参加できるのではないかと考えてこの時間帯内ならば予約なしで参加できることとした。内容については学生の興味関心を踏まえて決定し、2021 年度には「日常生活でも使用できて参加への負担の無いもの」をテーマに計画したところ参加した学生から好評を得ることができた。

表 1 学生相談室イベントの内容

日時	内容	会場	参加人数
2021年 12月16日	アロマソープを作ろう	学生相談室	14
2022年 1月13日	シュシュを作ろう	学生相談室	8
4月21日 4月28日	石粉粘土で小物を作ろう	学生相談室	1
5月26日	ゼンタングルを描いてみよう	学生相談室	2
6月3日	匂い袋を作ろう	学生相談室	4
7月21日	ビーズアクセサリを作ろう	学生相談室	0
10月2日	上手に気持ちを伝えてみよう	学生相談室	0
11月24日	シュシュを作ろう	みずき サロン	0

2022 度は月 1 回の頻度とし、前期は「その時期に予測され得る学生のストレスを軽減する」ことを目的に 2021 年度と同様の物作りを中心に計画したが参加人数が減少した。後期には先述した目的に「トラブルを回避、予防する」ことを新たに加え、簡単なアサーショントレーニングを計画した。これはグループワークであり従来の緩い枠組みではなく時間を決める必要があったため 16:20～16:50 の 30 分間に設定したが、参加者は無かった。

2022 年度後期の参加者が少なかったため、ピアサポーター（学校認定のスケジュールアシスタント、ピアヘルパー資格取得者）にアンケートを実施したところ、表 2 のような回答が寄せられた。「相談室に入りにくい」「みずきサロンで開催するのはどうか」というコメントを受けて 11 月にはみずきサロンで開催したが参加者は無かった。12 月は COVID-19 の感染拡大防止を考慮し中止した。

## 2) イベントの振り返りと次年度への課題

2021 年度に比べて 2022 年度の参加者が少ないが、原因としては毎月実施したことによる準備期間の不足や学生のニーズに沿う企画を模索していたことなどが考えられる。表 1 からはアロマオイルなど日常生活ではあまり触れない物をテーマとした回で参加者が多いようでもあり、「創造を通した自己表現、

他者交流は女子大学に多く、各々の個性の表現を知り共有する以外にも物の貸し借りなどで他者交流が生まれる」<sup>18)</sup>との知見からも、今後は五感を刺激し非日常感を出す物作りを中心に検討するのも良いかと思う。また、10 月に実施したアサーションは参加者が無かったが、近年、企業が学生に期待する資質には「主体性」「チームワーク・リーダーシップ・協調性」が挙げられており<sup>19)</sup>、アサーショントレーニングで得られる自己理解やコミュニケーションスキルの必要性は高い。最近の学生は未知のもの、失敗する恐れが高いものを避けるという傾向<sup>20)</sup>があると言われるため、今回のように何をするのが分かりにくい抽象的な内容ではなく、すごろく等ゲーム感覚で楽しみながらコミュニケーションの練習ができるものに変更して今後も継続したい。

イベント参加者の少なさについて、学生からは忙しく日程が合わないことが挙げられた（表 2）。短期大学の特徴として「短い修学期間で資格取得を目指す学科も多く学習スケジュールが過密となりやすいこと」があり<sup>21)</sup>、夕方まで授業があったり実技の練習を行ったりする場合もある。次年度は各期の始めに実施計画を伝えるなど早めの周知を行い、参加したい学生が予定を立てられるようにするなどの工夫をしたい。

表 2 学生相談室イベントについてのピアサポーターへのアンケート調査結果

	認知度・参加	参加者が少ない理由	イベント内容への要望	イベントへの意見やアイデアなど
1	知っていたが、参加したことはない。	日程が合わない	アクセサリーなど身につけられるもの オイルストーンづくり ドライフラワーづくりなど飾られるもの	相談室ではなく、教室にすることで行きやすい雰囲気を作りをする。また、スタンブラリーみたいに 3 回参加したら豪華賞品プレゼントにすることで参加率をあげられると思う。日時や時間は、夏場なら 5 限目でもいいが、冬場は暗いので嫌な人が多いと思う。そのため、お昼の時間だったりの工夫がいると思う。
2	知っていたが、参加したことはない。	日程が合わない、忙しくて余裕がない、他にやりたいことがある、学生相談室には行きづらい	・ビーズで指輪やキーホルダー作り(可愛い) ・ヨガやピラティス(体育館でやる！)	・みずきサロンやカフェテリアで行うのはいかがでしょうか。相談室に入ったことがなくて行きにくい子もいると思います。みんなが気軽に参加出来ると良いと思うので、目につくところで行えばバスを待っている子なども参加してくれると思います。 ・参加したくても曜日が合わない子もいると思うので 1 週間行ってみる。 ・学生が企画側に入る→友達を誘うと思うので参加人数が増えると思います。
3	知っていたし、参加したことがある。	日程が合わない、忙しくて余裕がない	季節行事などに関わるもの	宣伝をわかりやすく(文字を大きくする)、みずきサロンでの開催

また、相談室に入りにくいという意見を参考に11月のイベントを学内のオープンスペースであるみずきサロンで開催したが、イベント内容の掲示など設営準備が十分出来ず、学生にとって分かりにくかったと同時に実施者にとっても管理しづらい空間となってしまった。次回ここで実施する際には双方にとって「適度に守られる空間」を意識して事前準備を行い場の設営に臨む必要があると考えられる。

今回、ピアサポーターへの意見聴取により学生相談室イベントに関する学生の現状や要望を知ることができたので、次年度からは案内文に企画の目的や効果を明記して内容が具体的にイメージできるようにし、事前の周知を徹底することで学生たちに本イベントの存在を知ってもらえるようにしたい。また、毎回の参加者に振り返りアンケートなどを実施して学生の要望や感想を聞きながら、学生たちのニーズに合った内容を考えていく。

#### (7) 今後の取り組みについて

2022年12月現在COVID-19は第8波の只中にあり、重症化リスクは低くなったものの、感染者数は過去最高とも言われている。しかし却って感染が身近なものとなったため、学内にも多くの感染経験者が居り当初の恐怖感は薄れてきたようでもある。3年目を経過してコロナ禍の行動様式が当たり前になってきてはいるが、COVID-19が私たちの心身を慢性的ストレスとして蝕んでいることはUPI等の結果からも明らかである。このストレスの特徴は皆が当事者だということで、それによる不調を感じても自分だけではないのだからと援助を求めることを諦めてしまう恐れがある。今後もUPI等調査を継続して学生たちが自らの心身の状態に目を向ける機会を作るとともに、メンタルヘルス教育や学生相談室イベントを行うことで必要な時には援助行動や対処行動が取れる力をつけていきたい。

#### 引用文献

- 1) 中央公論特集：これでいいのか？日本の大学、中央公論、1647号第135巻第2号：20-120、2021.
- 2) 大学教育学会課題研究「大学教育における質的研究の可能性」グループ：コロナ禍で学生はどう学んでいたのか、ジエース大学教育新社、東京、2021.
- 3) 大学時報小特集座談会連動企画：コロナ禍における学生の心のケア、大学時報、69(395)：66-85、2020.
- 4) 池田忠義、長友周悟、松川春樹、中島正雄、小島奈々恵、中岡千幸、榊原佐和子、佐藤静香：新型コロナウイルス感染拡大状況下における新入生の不安とその支援、学生相談研究、42(2)：91-104、2021.
- 5) 山田裕子、守屋達美：大学における遠隔形式でのこころの健康調査とアウトリーチ支援の実践的検討、学生相談研究、42(2)：127-137、2021.
- 6) 和田竜太：一学生相談カウンセラーから見た新型コロナウイルス感染拡大をめぐる動向について ―国内外の動きと本学・カウンセリングルームの対応を振り返って― (第2報)、京都大学学生総合支援センター紀要、50：35-46、2021.
- 7) 佐藤枝里、渡邊素子、北岡智子、鈴木雅子、谷口洋子、和合香織、他：学生相談室におけるコロナ禍での学生支援、中部大学教育研究、21：41-49、2021.
- 8) 池田忠義、長友周悟、松川春樹、中島正雄、小島奈々恵、中岡千幸、榊原佐和子、佐藤静香：新型コロナウイルス感染拡大状況下における新入生の不安とその支援、学生相談研究、42(2)：91-104、2021.
- 9) 平山 皓、全国大学メンタルヘルス研究会：大学生のメンタルヘルス管理 UPI 利用の手引き、創造出版、東京、2011、pp.10-11.
- 10) 中野敬子：ストレス・マネジメント入門、

- 金剛出版、東京、2005、43-50. 33-44、2022.
- 11) 茂木七香：大学の授業における匿名発言の有用性について ～「sli.do」の利用を通して～、大垣女子短期大学紀要、62：51-60、2021.
  - 12) 茂木七香：学生の演習授業時の発言抑制と発言の匿名性との関連、大垣女子短期大学紀要、63：69-76、2022.
  - 13) 齋藤憲司、日本学生相談学会 50 周年記念誌編集委員会：学生相談ハンドブック、学苑社、東京、2010、10-26.
  - 14) 木村真人：悩みを抱えていながら相談に来ない学生の理解と支援－援助要請研究の視座から－、教育心理学年報、56：186-201、2017.
  - 15) 岡伊織、鉾谷路、山崖俊子：University Personality Inventory (UPI) 高得点者が抱える潜在的ニーズ、学生相談研究、31(2)：146-156、2010.
  - 16) 木村真人・水野治久：大学生の被援助志向性と心理的変数との関連について－学生相談・友達・家族に焦点をあてて－、カウンセリング研究、37 (3)：260-269、2004.
  - 17) 木村真人・水野治久：学生相談の利用を勧める意識に関連する要因の検討、心理臨床学研究、28 (2)：238-243、2010.
  - 18) 貝谷智子：学生相談におけるグループワーク－活動内容の分類から見える機能－、一橋大学学生相談室年報、1：14-20、2019.
  - 19) 一般社団法人 日本経済団体連合会：採用と大学改革への期待に関するアンケート結果、2022.
  - 20) 友久茂子、渡里千賀、松本知子：学生相談室における「グループ活動」検証の試み、甲南大学学生相談室紀要、22：56-76、2015.
  - 21) 森田裕子：短期大学における学生相談・支援の現状 (1)、学生相談研究、43(1)：

＜付表 1 UPI 学生精神的健康調査の項目＞

1 食欲がない	16 不眠がちである	31 赤面して困る	46 体がだるい
2 吐き気、胸やけ、腹痛がある	17 頭痛がする	32 どもったり、声がふるえる	47 気にすると冷や汗がでやすい
3 わけもなく便秘や下痢をしやすい	18 首すじや肩がこる	33 体がもてったり、冷えたりする	48 めまいや立ちくらみをする
4 動悸や脈が気になる	19 胸が痛んだり、しめつけられる	34 排尿や性器のことが気になる	49 気を失ったり、ひきつけたりする
5 いつも体の調子がよい	20 いつも活動的である	35 気分が明るい	50 よく他人に好かれる
6 不平や不満が多い	21 気が小さすぎる	36 なんとなく不安である	51 こだわりすぎる
7 親が期待しすぎる	22 気疲れする	37 独りでいると落ち着かない	52 くり返し、確かめないと苦しい
8 自分の過去や家庭は不幸である	23 いらいらしやすい	38 ものごとに自信がもてない	53 汚れが気になって困る
9 将来のことを心配しすぎる	24 怒りっぽい	39 何事もためらいがちである	54 つまらぬ考えがとれない
10 人に会いたくない	25 死にたくなる	40 他人に悪くとられやすい	55 自分のへんな匂いが気になる
11 自分が自分でない感じがする	26 何事も生き生きと感じられない	41 他人が信じられない	56 他人に陰口をいわれる
12 やる気が出てこない	27 記憶力が低下している	42 気をまわしすぎる	57 周囲の人が気になって困る
13 悲観的になる	28 根気が続かない	43 つきあいが嫌いだである	58 他人の視線が気になる
14 考えがまとまらない	29 決断力がない	44 ひけ目を感じる	59 他人に相手にされない
15 気分が波がめりすぎる	30 人に頼りすぎる	45 とりこし苦労をする	60 気持ちが傷つけられやすい

＜ ライ・スケール 5、20、35、50 ＞ ＜ 身体的症状項目 1-4、16-19、31-34、46-49 ＞ ＜ 抑うつ項目 6-15、21-30 ＞

＜ 対人不安項目 36-45 ＞ ＜ 強迫・関係念慮項目 51-60 ＞



黒田 皇

KURODA koh

准教授／デザイン美術学科

## 第 96 回国展 出品

会場

国立新美術館（東京・六本木）

2022.5/4（水）～16（月）

巡回展

名古屋展（愛知県美術館ギャラリー）

5/24（火）～29（日）

福岡展（福岡県立美術館）

6/21（火）～6/26（日）

主催 国画会

後援 NHK 厚生文化事業団

公益財団法人 日本自然保護協会



『Humanity - 未熟 -』 180×330cm CG



黒田 皇

KURODA koh

准教授／デザイン美術学科

二人の洋画家 黒田勝・皇 展 出品

会場 岐阜市歴史博物館分館

加藤栄三・東一記念美術館（岐阜市）

会期 2022.11/1（火）～12/18（日）

主催 加藤栄三・東一記念美術館



『意味の輪廻』 162×194cm CG

## 黒田皇 作品出品リスト

Humanity - 未熟 -	180×330cm	2022 年
風〜いぶき〜	122×227cm	2021 年
風 wind	122×227.3cm	2019 年
岐阜協立大学校章デザイン		2019 年
風	180x330cm	2017 年
再生の川ー合流ー	162×194cm	2013 年
意味の輪廻	162×194cm	2009 年

## 彙 報

### 学外における主な研究・教育並びに社会活動 (令和4年4月～令和5年3月)

#### A. 論文・著書、学会等研究活動、作品展・演奏活動

##### 論文・著書

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	横井 香織	ピアノグループ えすぷり 第37回 デュオ・コンサート	演奏	サラマンカホール	4.10.2
川島 民子	石倉健二他6名	神経発達症児童・生徒の運動困難に対する指導について③	自主シンポジウム	日本特殊教育学会	4.9.18
	遠直美他4名	これからの時代を生きる教員のキャリア発達	自主シンポジウム	キャリア発達支援研究会	4.12.10
名和 孝浩	立崎 博則	コロナ禍における保育・幼稚園実習に関する指導の方向性	原著	大垣女子短期大学紀要 第63号	4.5.31
	大橋 淳子				
	立崎 博則	お散歩マップを活用した保育理解の形成	原著	大垣女子短期大学紀要 第63号	4.5.31
黒田 皇		第96回国展 (東京・名古屋・福岡)	展覧会出品	国立新美術館 他	4.5.24～ 5.29
	黒田 勝	二人の洋画家 黒田勝・皇展	展覧会出品	加藤栄三・東一記念美術館	4.11.1～ 12.18
		第60回中部国展	展覧会出品	愛知県美術館ギャラリー	4.11.1～ 11.6
		ACT 展	展覧会企画 出品	岐阜県美術館県民ギャラリー	5.1.31～ 2.5
服部 篤典	大森石油株	オーモリウインドアンサンブル第11 回定期演奏会	指揮	一宮市民会館	4.6.5
	SPO・NPO・ YPO	ニューイヤーコンサート	指揮	サントリーホール	5.1.12
鈴木 孝育		大垣市少年団体交歓大会	指揮	大垣城ホール	4.10.9
		池田町音楽祭	指揮	池田温泉道の駅	4.11.12
		大垣市立荒崎小学校芸術鑑賞会	指揮	荒崎小学校体育館	4.11.28

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
鈴木 孝育		養老町立池辺小学校芸術鑑賞会	指揮	池辺小学校体育館	4.12.5
		第 26 回大垣女子短期大学音楽総合学 科ウインドアンサンブル定期演奏会	指揮	大垣市民会館	5.2.5
横井 香織	光井 恵子	ピアノグループ えすぷり 第 37 回 デュオ・コンサート	演奏	サラマンカホール	4.10.2
小原 勝		研究者と臨床医のはざまで！－臨床応 用可能な研究アイデア－	学術講演 Zoom	広島大学歯学部同窓会 岐阜支部会	4.10.29
大林 泰二	岡 広子 西 裕美 柴 秀樹 河口 浩之	災害歯科医学に対する教育の有無は 研修歯科医の意識に影響を与えている か？	研究報告	日本歯科医学教育学会 雑誌 2022 年 38 巻 1 号 p.43-51	4.4.28
海原 康孝	齋藤 一誠 野上有紀子 稲田 絵美	小児の口唇閉鎖不全：アップデート	総説	小児歯科臨床, 第 27 巻, 第 4 号, 13-23.	4.4.1
	永岑 光恵 稲田 絵美 村上 大輔 野上有紀子 加藤 智樹 松川 千夏 山崎 要一 齋藤 一誠	成長期終了後には口唇閉鎖不全症が減 少するか？	学会発表	幕張メッセ国際会議場 (ハイブリッド開催)	4.4.1
	仲井 雪絵 渥美 信子	「小児歯科に携わる歯科衛生士のため のワークショップ」講師	講演会	第 41 回日本小児歯科 学会中部地方会大会 (富山国際会議場)	4.10.9
	Inada E., Saitoh H., Murakami D. et al.	Factors related to mouth breathing syndrome in preschool children and the effects of incompetent lip seal: an exploratory study.	原著論文	Clinical and Experimental Dental Research, 8(1):209-221, 2022. <a href="https://doi.org/10.1002/cre2.661">https://doi.org/10.1002/ cre2.661</a>	4.9.22
	Sasahara H., Niizato N, K., Kozai K., et al.	Establishment of indicator for screening of child abuse and neglect in primary school-age children	原著論文	European Journal of Paediatric Dentistry, 23(4), 315-320, 2022. <a href="https://doi.org/10.1002/cre2.490">doi.org/10.1002/ cre2.490</a>	4.12.15
		査読者 (Acta Odontologica Scandinavica)	学術論文査読	学術雑誌 Acta Odontologica Scandinavica	5.3.26
松川 千夏	加藤 智樹 海原 康孝	可視光 / 近紫外光を用いた歯科用 X 線 撮影技術習得訓練装置の開発	外部資金獲得	公益財団法人小川科学 技術財団	4.12.7

氏 名	共同研究者	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
大谷 悦世	Yoji Saeki, Akane Takenouchi, Etsuyo Otani, Minji Kim, Yumi Aizawa, Yasuko Aita, Atsumi Tomita, Masahiro Sugimoto and Takashi Matsukubo,	Long-term mastication changed salivary metabolomic profiles	論文	Metabolites 2022, 12(7): 660, <a href="https://doi.org/10.3390/metabo12070660">https://doi.org/10.3390/metabo12070660</a>	4.7.18
	竹之内 茜 尾形 祐己 大森 智栄	歯科衛生学教育におけるアプリを用いた学習と配布資料を用いた学習の効果の比較～2大学での実施～	Web 開 催 (口演発表)	第13回 日本歯科衛生教育学会学術大会 日本歯科衛生教育学会雑誌 13(2) 98-98 2022年10月	4.12.2～ 12.16
	田口ななこ 小竹 瑞穂 竹之内 茜 松久保 隆	関東1都3県の入所型高齢者施設における電動歯ブラシ導入に関する実態調査	論文	目白大学短期大学部研究紀要第59号	5.2.28
茂木 七香		学生の演習授業時の発言抑制と発言の匿名性との関連	論文	大垣女子短期大学紀要第63号	4.5.31
		2021年度大垣女子短期大学学生相談室の活動報告	論文	大垣女子短期大学紀要第63号	4.5.31
伊藤 和典		「教育方法論」におけるグループワークや自己評価を活かした授業改善ー学生一人1台タブレット端末導入を見通した GoogleClassroom 活用をふまえてー	論文	大垣女子短期大学紀要第63号	4.5.31
小椋 博文		保育者養成課程「教育原理」のテキスト分析 ～ミニマム・エッセンシャルズの可視化による授業改善を目指して～	論文	大垣女子短期大学紀要第63号	4.5.31

## B. 社会的・啓発的活動

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	大垣市教育委員会	大垣市留守家庭運営委員会	会長	大垣市	4.4.19 4.10.25
	大垣市こども未来部子育て支援課	大垣市子育て支援会議	会長	大垣市	4.8.10
	岐阜県教育委員会学校支援課	幼保小の架け橋プログラム「岐阜県カリキュラム開発会議」	委員	岐阜県総合教育センター	4.9.12 5.2.13
	㈱ポピンズ	子育て支援員研修会 講師	講師	長良川国際会議場他	4.10.23 4.10.25 4.10.26
	大垣市こども未来部子育て総合支援センター	「子育てに音楽を～ふれあい遊びを通して」	講師	大垣市南部子育て支援センター	4.12.8
川島 民子	安八町学校教育課	安八町教育支援チーム会議	委員	安八町ハートピア	4.4.19 5.2.1
	滋賀県立野洲養護学校	第 61 回全国学校体育研究大会滋賀大会に係る授業検討会	講師	滋賀県立野洲養護学校	4.6.8 4.6.17
	滋賀県立長浜養護学校	夏季全校研修会	講師	滋賀県立長浜養護学校	4.7.22
	八幡ハチドリ会	講演会	講師	近江八幡市総合福祉センター	4.8.4
	滋賀県立野洲養護学校	全校たてわり研究会	講師	滋賀県立野洲養護学校	4.8.23
	草津市子ども未来課	特別支援教育研修	講師	草津市立市民総合交流センターキラリエ	4.8.26
	滋賀大学	教職実践演習（教育学部専門科目）	講師	滋賀大学	4.11.10
	滋賀県立長浜養護学校	キャリア教育推進に関して	講師	滋賀県立長浜養護学校	5.1.6
	滋賀県特別支援教育研究会通級指導教室部会	第 2 回全体研修会	講師	草津市立市民総合交流センターキラリエ	5.2.10
	草津市子ども未来課	第 4 回草津市放課後児童支援員キャリアアップ研修会	講師	草津市さわやか保健センター	5.2.20

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
今村 民子	笠松町	子育て応援教室たんぼぼ	講師	笠松町保健センター	4.4.18 4.5.16 4.6.20 4.7.25 4.8.29 4.9.20 4.10.18 4.11.22 4.12.20 5.1.24 5.2.21 5.3.28
	大垣市保育・ 幼児教育課題 研究会	第3回ミーティング「特別な配慮を要 する子どもへの保育について」	講師	大垣市役所	4.8.9
	大垣市子育て 総合支援セン ター	子育てまちなかキャンパス「心温まる ふれあい遊び」	講師	キッズピアおおがき	4.10.25
	笠松町地域振 興公社	笠松町親子サポート教室「学習会」テー マ「就学を見据えた、子どもとの向き 合い方」	講師	笠松町こども館	5.1.30
大橋 淳子	大垣ひかり保 育園	社会福祉法人大垣慈光福祉会 認定こ ども園 大垣ひかり保育園 理事会	理事、監事	大垣ひかり保育園	4.5.21 5.2.18
	大垣市子育て 支援課	大垣市墨俣児童館運営委員会	委員長	大垣市墨俣地域事務所	5.1.24
	岐阜県	子育て支援員研修	講義	オンデマンド講座	4.8～4.10
	ネットワーク 大学コンソー シアム岐阜	公開講座 子供の発達・成長を学ぶ「子 どもの育ちと環境について」	講義	岐阜サテライトキャン パス	4.11.10
	大垣市子育て 総合支援セン ター	子育てまちなかキャンパス「生活習慣 について考えてみよう」	講義・演習	キッズピアおおがき	5.2.21
垣添 忠厚	垂井町	垂井町子ども・子育て会議	会長	垂井町	4.4.1～
	岐 阜 県 キ ン ボ ー ル ス ポ ー ツ 連 盟	岐阜県キンボールスポーツ連盟役員会	副会長	岐阜県	4.4.1～
	大垣市教育委 員会	大垣市教育支援委員会	委員	大垣市	4.4.27～
	大垣市教育委 員会	大垣市留守家庭児童教室運営委員会	委員	大垣市	4.5.1～

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
垣添 忠厚	大垣市教育委員会	大垣市教育支援委員会小委員会	委員	スイトピアセンター	4.7.26 4.9.8 4.9.15 4.9.30
	岐阜県	令和4年度地域療育システム推進会議 (西濃圏域障がい者総合支援推進会議 療育・医療的ケア部会)	検討委員	ソフトピアジャパン	5.1.5
	大垣市レクリエーション協会	大垣市「クラブいちちゃれ」指導者研修会	講師	大垣市青年の家	4.4.30
	大垣市レクリエーション協会	大垣市「クラブいちちゃれ」第1回活動	講師	大垣市青年の家	4.5.28
	岐阜県	子育て支援員研修	講師	オンデマンド講座	4.8～
	岐阜県	保育士等キャリアアップ研修	講師	オンデマンド講座 長良川国際会議場 長良川スポーツプラザ	4.8～ 4.10.9 5.1.10
	岐阜県特別支援教育推進連盟	第39回岐阜県障がい児・者の教育と福祉振興大会第5分科会	助言者	関市文化会館	4.9.29
	岐阜県レクリエーション協会	レクリエーション・インストラクター養成講習会	講師	羽島市福祉ふれあい会館	4.11.6
	輪之内町教育委員会・輪之内町	輪之内町特別支援連携協議会及び輪之内町地域自立支援部会合同研修会	講師	輪之内町図書館	5.1.26
	岐阜県知的障害者支援協会	第2回日中活動支援部会	講師	オンライン	5.2.17
立崎 博則	大垣市子育て支援課	水都っ子ウィーク！親子で一緒にスタンプやシール、クレヨンであそぼう	講義・演習	大垣市役所8階大会議室	4.8.18
	岐阜県	大垣市自転車啓発イベント	講義・演習	イオンモール大垣	4.9.24
	守屋多々志美術館	子どもワークショップ「ダンボールでまちをつくろう」	講義・演習	守屋多々志美術館	5.2.25
名和 孝浩	大垣市教育委員会・大垣市こども未来部	大垣市保幼小連携協議会	委員	大垣市役所	5.2.3
	㈱ポピンズプロフェッショナル	岐阜県保育士等キャリアアップ研修【乳児保育】	講師	長良川スポーツプラザ 他	4.9.7 4.12.18
	㈱ポピンズプロフェッショナル	岐阜県子育て支援員研修	講師	長良川国際会議場 他	4.10.23 4.10.25 4.10.26 4.11.3

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
名和 孝浩	養老町公私立 保育園・こども園園長会	養老町乳幼児教育・保育研究会	講師	Zoom	5.2.18
田中 久志	岐阜新聞社	第 50 回岐阜広告協会賞	審査委員長	岐阜新聞社	4.5.27
	岐阜県図書館 企画課企画振興係	ぎふけん・おすすめの 1 冊コンクール 作品審査会（イラストPOP部門）	審査委員	岐阜県図書館	4.12.9
田中 久志 伊豫 治好 黒田 皇 長久保光弘	大垣女子短期 大学・岐阜県 図書館	「ASIAGRAPH 2022in Gifu CG Art Gallery」 作品展示部門	運営	岐阜県図書館	[会期] 4.12.15 ~ 12.18
田中 久志	岐阜県図書館 企画課企画振興係	ぎふけん・おすすめの 1 冊コンクール	審査委員	岐阜県図書館	5.1.28
伊豫 治好	大垣市商店街振 興組合連合会	まちなかスクエアガーデン	運営	大垣市役所前	4.6.5
	岐阜新聞社	キッズタウンぎふ 2022（マンガ・イ ラスト体験）	運営	OKB ぎふ清流アリーナ	4.8.27 ~ 28
	ドリーム・シ アター岐阜	プロに学ぶマンガの描き方	講義・演習	ドリーム・シアター岐阜	5.2.18
黒田 皇	公益社団法人 日本てんかん協 会 岐阜支部	ゆめぼつけコンサート in 波の会 イラスト制作	監修	ぎふ清流文化プラザ	[上映] 4.9.4
	大垣市・大垣 市教育委員会	令和 4 年度 大垣市美術展（一般の部）	審査	大垣市サイトピアセン ター文化会館	[審査] 4.10.2
	椋山女学園大 学・日進市	令和 4 年度提案型大学連携協働事業 （日進市） 理解啓発ポスター 3 部 デザイン制作	監修	日進市図書館	[会期] 4.12.3・ 12.4
	NHK 名古屋放送局	Uta-Tube HANDS FES オープニング・アーティスト紹介映像 制作	監修	ポートメッセなごや NHK ラジオ放送 NHK テレビ放送	[ライブ] 5.2.23 [ラジオ] 5.2.23 [テレビ] 5.3.17 (中部) 5.3.29 : 未公開 SP 5.4.2 : 再放送 BS (全国)
長久保光弘	ネットワーク 大学コンソー シアム岐阜	コンピュータグラフィックスをつくる 学生と地域連携の可能性	公開講座	岐阜大学サテライト キャンパス	4.9.15
服部 篤典	福井県吹奏楽連盟	福井県吹奏楽コンクール	審査	福井県立音楽堂	4.7.30



氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
服部 篤典	岐阜県吹奏楽連盟	岐阜県吹奏楽コンクール	審査	不二羽島文化センター	4.8.4～7
菅田 文子	ぎふ音楽療法 協会中濃支部	事例検討会	講演	可児市広見東地区セン ター	4.12.5
鈴木 孝育	大垣市	大垣市行政不服審査会	委員	大垣市	3.4.1～
	大垣市	大垣市情報公開審査会	委員	大垣市	3.4.1～
	大垣市	大垣市個人情報保護審査会	委員	大垣市	3.4.1～
	岐阜県	岐阜県後期高齢者医療広域連合情報公 開・個人情報保護審査会	委員	岐阜県	3.4.1～
	「管楽器ソロコ ンテスト in 東 海」実行委員会	第9回管楽器ソロコンテスト in 東海	審査員	木曽川文化会館	5.3.29～ 5.3.30
	愛知県吹奏楽連盟	西三河南コンテスト・クリニック	講師	西尾市文化会館	4.5.1
	岐阜県吹奏楽連盟	岐阜県高等学校吹奏楽発表会	講師	不二羽島文化センター	4.11.5～ 4.11.6
松永 幸宏		管楽器調整会	修理	松栄堂楽器本店	4.7.9
		全日本吹奏楽コンクール岐阜県大会会 場修理	修理	不二羽島文化センター	4.8.1
横井 香織	大垣市	大垣市環境 SDGs おおがき未来創造事 業実行委員会	委員・監事	オンライン会議	4.5.19
	大垣市教育委 員会	大垣市日本昭和音楽村運営協議会	委員	大垣市日本昭和音楽村	4.5.26
	公益財団法人 大垣国際交流協 会	公益財団法人 大垣国際交流協会 令和4年度 定時評議員会	評議員	大垣市サイトピアセン ター サイトピアホール	4.6.15
	大垣市	大垣市市民環境賞選考委員会	委員	大垣市	4.9.30～ 5.3.31
	大垣市	大垣市環境審議会	委員	大垣市	4.10.21
	カワイ音楽コン クール委員会	第56回カワイ音楽コンクール カワ イこどもピアノコンクール 名古屋地 区オーディション	審査員	中電ホール	4.12.18
	カワイ音楽コン クール委員会	第56回カワイ音楽コンクール カワ イこどもピアノコンクール 岐阜地区 オーディション	審査員	岐阜市文化センター 小劇場	4.12.27 5.1.9
小原 勝	大垣市	大垣市行政改革推進審議会	委員	大垣市行政改革推進審 議会	4.8.3
	大垣市	大垣市個人情報保護審議会	委員	大垣市個人情報保護審 議会	4.10.17

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
大林 泰二	全国歯科衛生士教育協議会	理事会、総会および教育・研究委員会	学術集会、会議	Web 開催	4.5.7 4.9.3
	東海地区歯科衛生士教育協議会	総会および研修会	学術集会	愛知県歯科医師会館	4.6.25
大林 泰二 水嶋 広美 川畠 智子	岐阜県歯科医師会	岐阜県歯科医師会への臨床実習説明会	会議	岐阜県歯科医師会館	4.8.3 4.8.25
	大垣歯科医師会	大垣歯科医師会への臨床実習説明会	会議	大垣歯科医師会館	4.8.25
大林 泰二 水嶋 広美	大垣女子短期大学・滋賀県歯科医師会	滋賀県歯科医師会と大垣女子短期大学との懇談会	会議	大垣女子短期大学	4.9.22
	千葉県立保健医療大学	第 4 回文部科学省高等教育局医学教育課と歯科衛生士教育にかかわる国公私立大学・短期大学との情報交換会	会議	Web 開催	5.1.28
大林 泰二 大谷 悦世	大垣歯科医師会	大垣女子短期大学と大垣歯科医師会との懇談会	会議	大垣歯科医師会館	5.3.9
海原 康孝	日本小児歯科学会中部地方会	2022・2023 年度日本小児歯科学会中部地方会 岐阜県代表	委員	日本小児歯科学会中部地方会	
	大垣市廃棄物減量等推進審議会	大垣市廃棄物減量等推進審議会	副委員長	大垣市役所	2.12.24 ～ 5.12.23
	日本小児歯科学会	日本小児歯科学会研究倫理審査委員会委員	委員	日本小児歯科学会	4.6.1 ～ 6.3.31
	日本小児歯科学会研究倫理審査委員会	日本小児歯科学会研究倫理審査委員会	委員	オンライン会議	4.7.20
	日本小児歯科学会中部地方会	2022 年度日本小児歯科学会中部地方会役員会	役員	富山国際会議場	4.10.8
	KBS 京都	ほっかほか・今朝の聞くサブリ子どもの『お口ばかん』に注意	インタビュー	KBS 京都 Radio 笑福亭見瓶のほっかほかラジオ	4.4.13
	東海地区歯科衛生士教育協議会	第 28 回東海地区歯科衛生士教育協議会	協議会・講演会	愛知県歯科医師会館	4.6.25
	羽島市教育委員会	令和 4 年度 羽島市学校保健会総会講演 歯科からの気になる子どもたちへの支援 ー児童虐待防止への取り組みと発達障がい児（者）のアプローチー	講演会	不二羽島文化センター	4.7.7

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
海原 康孝	全国大学歯科衛生士教育協議会理事 衛生士教育協議会	全国大学歯科衛生士教育協議会理事 会・臨時総会、教育・研究委員会、学 術集会	会議、学術 集会	オンライン開催	4.9.3
	大垣市クリー ンセンター	大垣市廃棄物減量等推進審議会	審議会	大垣市役所	4.10.31
	大垣市	まちなかスクエアガーデン（親子で作 ろう Let's 健口ライフ）	啓蒙活動	大垣市丸の内公園	4.11.6
	大垣女子短期 大学・大垣市	「大垣市連携講座・子育てママ大学」 講演 「子どもの口の機能の発達	講演会	大垣女子短期大学	4.11.10
	キッズピアお おがき子育て 支援センター	大垣女短まちなかキャンパス 「子ど もの歯・口の発達と健康づくり」	講座	キッズピアおおがき交 流サロン	5.3.7
	大垣歯科医師 会、大垣女子 短期大学	大垣歯科医師会と大垣女子短期大学と の懇談会	意見交換会	大垣女子短期大学 (WEB)	5.3.9
加藤 智樹	大垣市	大垣市雇用戦略指針策定委員会	委員	大垣市役所	継続
	大垣市	大垣市観光戦略指針策定委員会	委員	大垣市役所	継続
	東海地区歯科 衛生士教育協 議会	2022 年度（第 28 回）東海地区歯科 衛生士教育協議会 総会および研修会	総会・研修会	愛知県歯科医師会館	4.6.25
	四国地区大学 教職員能力開 発ネットワー ク（SPOD）	SPOD フォーラム「変容する社会ニー ズに応じた学びのあり方」	研修会	愛媛大学（Web 開催）	4.8.24 - 4.8.26
	岐阜県歯科医 師会、岐阜県、 大垣女子短期 大学	第 9 回岐阜県歯科医学大会	研修会	ホテルグランヴェール 岐山（岐阜市）	4.11.3
	大垣市商店街振 興組合連合会	まちなかスクエアガーデン「親子で作 ろう Let's 健口ライフ」	講師	大垣公園・丸の内公園 (大垣市)	4.11.6
	大垣市歯科医 師会・大垣女 子短期大学	大垣歯科医師会と大垣女子短期大学と の懇談会	意見交換会	大垣市歯科医師会館	5.3.9
松川 千夏	岐阜県歯科衛 生士会	令和 4 年度 第 1 回西濃支部役員会	役員	岐阜県	4.5.1 ~ 6.5.1
	大垣市都市計 画課	第 31 回大垣市都市計画景観審議会	委員	大垣市役所 4 階 情 報会議室 (web)	4.11.2
	大垣市商店街振 興組合連合会	まちなかスクエアガーデン「親子で作 ろう Let's 健口ライフ」	啓蒙活動	大垣公園・丸の内公園 (大垣市)	4.11.6

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
松川 千夏	大垣歯科医師会・大垣女子短期大学	大垣歯科医師会と大垣女子短期大学との懇談会	意見交換会	大垣市歯科医師会	5.3.9
水嶋 広美	日本口腔ケア学会	第19回口腔ケア学会 総会	評議員	オンデマンド	2.4.～
水嶋 広美 川島 智子	岐阜県歯科医師会・大垣女子短期大学	岐阜県歯科医師会との臨床実習説明会	会議	岐阜県歯科医師会館	4.8.4
今井 藍子	岐阜県歯科衛生士会	岐阜県歯科衛生士会西濃支部 役員会	支部長	岐阜県	4.5.1～ 6.5.1
大谷 悦世	歯科衛生教育協議会	東海地区歯科衛生教育協議会	会議	愛知県歯科医師会館	4.6.25
	日本歯科衛生教育学会 教育活動委員会	ともに学び考えよう！ 歯科衛生士の倫理綱領 ～プロフェッショナリズムの教育～	講演、意見交換会	zoom 開催	5.1.27
茂木 七香	大垣市地域創生戦略課	大垣市地域創生総合戦略推進委員会	委員	大垣市役所	
	大垣市男女共同参画推進室	大垣市男女共同参画推進審議会	委員	大垣市役所	
	大垣市役所企画部人事課	大垣市メンタルヘルス事業	講義・個別相談員	大垣市役所	4.4.1－ 5.3.31
	ぎふ国際高等学校	教員研修会『『高校生』を理解するために ～カウンセリングの現場から～』	講演	ぎふ国際高等学校	4.4.22
	ぎふ国際高等学校	保護者会講演「高校生が抱える精神的な発達課題と親子関係におけるコミュニケーションの取り方」	講演	ぎふ国際高等学校	4.5.21
茂木 七香 買輩革盟(バイヤーカクメイ) プロジェクト	大垣市まちづくり推進課	消費者啓発イベント「楽しく知ろうよ！消費者生活」	イベント	アクアウォーク大垣	4.9.3
茂木 七香	大垣女子短期大学・大垣市子育て総合支援センター	子育てママ大学 「子育て中の『なぜ？』を解き明かす ～知っていると役に立つ発達心理学～」	講義	大垣女子短期大学	4.10.6
	大垣市子育て総合支援センター	子育てまちなかキャンパス 「ストレスと折り合って楽しく暮らそう！」	講義	キッズピアおおがき	5.1.17

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
茂木 七香 TuLiP（大垣女短ジェンダーについて考えるサークル）	大垣市男女共同参画推進室、大垣市図書館	「このウサギ、女の子？男の子？」（国際女性デーにちなんだ絵本とジェンダーに関する展示）	展示	大垣市図書館	5.3.1～ 5.3.31
伊藤 和典	海津市教育委員会	海津市社会教育委員会	委員	海津市	4.7.5

## C. 出 前 講 義

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
光井 恵子	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス	分野別・学 校説明会	岐阜県立池田高等学校	4.5.11
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス	分野別説明 会・個人相談	岐阜市立岐阜商業高等 学校	4.12.20
川島 民子	㈱ライセンス アカデミー	高校進路ガイダンス（保育・幼児教育・ 教員）	職業別体験 授業	岐阜県立揖斐高等学校	4.10.6
	㈱昭栄広報	高校進路ガイダンス（幼児教育系）	職業別説明会	富田高等学校	4.10.20
	㈱日本ドリコム	高校進路ガイダンス（子ども・保育）	分野別説明会	岐阜県立池田高等学校	4.10.26
今村 民子	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	講義	岐阜県立大垣養老高等 学校	4.10.12
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス	講義	岐阜県立大垣商業高等 学校	4.12.2.
大橋 淳子	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育・幼児教育）	系統別説明会	岐阜県岐阜総合学園高 等学校	4.5.19
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育）	職業別説明会	岐阜県立大垣桜高等学校	4.6.22
	㈱ライセンス アカデミー	進路ガイダンス（保育・幼児教育）	職業別体験 授業	岐阜県立大垣商業高等 学校定時制	4.6.30
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別模擬 授業	岐阜県立武儀高等学校	4.10.6
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育・幼児教育）	系統別説明会	岐阜県立岐阜総合学園 高等学校	4.10.24
	㈱キッズコー ポレーション	高校進路ガイダンス（保育）	学校別説明会	岐阜県立大垣養老高等 学校	4.12.19
垣添 忠厚	㈱日本ドリコム	高校進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会	岐阜県立不破高等学校	4.5.17
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育・幼児教育）	職業別体験 授業	岐阜県立大垣養老高等 学校	4.11.9
	㈱キッズコー ポレーション	高校進路ガイダンス（保育）	学校別説明会	岐阜県立大垣養老高等 学校	4.12.20
	㈱ライセンス アカデミー	高校進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別オンラ イン説明会	高山西高等学校	5.1.17
	（㈱昭栄広報）	高校進路ガイダンス（幼児教育系）	職業別説明会	岐阜県立岐阜農林高等 学校	5.2.8
立崎 博則	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	講義・演習	岐阜県立不破高等学校	4.10.25
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	講義・演習	岐阜県立大垣養老高等 学校	4.12.14

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
立崎 博則	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	講義・演習	岐阜県立羽島高等学校	5.1.11
名和 孝浩	㈱キッズコーポレーション	高校進路ガイダンス（保育・幼児教育）	分野別説明会	岐阜県立羽島北高等学校	4.5.30
	㈱日本ドリコム	高校体験型進路ガイダンス（保育）	分野別職業体験授業	岐阜県立不破高等学校	4.10.18
	㈱さんぼう	高校内ガイダンス（保育・幼児教育）	模擬授業	岐阜県立揖斐高等学校	4.10.20
	㈱ライセンスアカデミー	高校進路ガイダンス（幼児教育・保育系）	分野別分科会	岐阜県立大垣商業高等学校	4.12.16
田中 久志	岐阜県立飛騨神岡高等学校	職業別体験授業（デザイン・アニメ・マンガ）	講義・演習	岐阜県立飛騨神岡高等学校	4.10.25
	愛知県立一宮起工科高等学校	マンガ体験授業「キャラクター制作とその展開」	講義・演習	愛知県立一宮起工科高等学校	4.12.5
伊豫 治好	岐阜県立岐阜商業高等学校	職業別体験授業（イラスト・アニメ・マンガ）	講義・演習	岐阜県立岐阜商業高等学校	4.5.26
	岐阜県立大垣桜高等学校	マンガ・イラスト出前体験授業	講義・演習	岐阜県立大垣桜高等学校	4.6.15
	愛知県立稲沢東高等学校	マンガ・イラスト出前体験授業	講義・演習	愛知県立稲沢東高等学校	4.9.17
	㈱ライセンスアカデミー	オンライン模擬授業	講義・演習	中京高等学校	4.11.2
黒田 皇	岐阜県立岐阜工業高等学校	進路ガイダンス：アニメーター	進路ガイダンス	岐阜県立岐阜工業高等学校	4.6.21
	岐阜県立揖斐高等学校	体験授業：インフォグラフィック	体験授業	岐阜県立揖斐高等学校	4.11.24
	岐阜県立益田清風高等学校	進路ガイダンス：美術・デザイン	進路ガイダンス	岐阜県立益田清風高等学校	5.2.8
	三重県立四日市商業高等学校	進路ガイダンス：美術、デザイン、マンガ、アニメーション、イラスト	進路ガイダンス	三重県立四日市商業高等学校	5.2.15
	滋賀県立守山北高等学校	進路ガイダンス：美術・デザイン	進路ガイダンス	滋賀県立守山北高等学校	5.3.16
長久保光弘	㈱ライセンスアカデミー	アニメ☆新たな進路「キャラクターメイキング」	職業別体験授業	愛知県立一宮高等学校（定時制）	5.3.7
鈴木 孝育	海津リーベラ音楽隊	一般バンドの立ち上げについて	合奏指導	みかげの森「ブラザしもたど」	4.11.13
松永 幸宏	大垣女子短期大学	進学相談会	個別相談・リペア体験	福岡県博多市	4.4.24
	大垣女子短期大学	進学相談会	個別相談・リペア体験	北海道札幌市	4.5.15

氏 名	主催・共催	題 目	形 式	発表の場	発表年月日
横井 香織	大垣市子育て総合支援センター	子育てまちなかキャンパス『リトミックであそぼう』	講師	キッズピアおおがき子育て支援センター	4.12.20
大林 泰二 水嶋 広美	㈱さんぼう	高校内ガイダンス	職業別体験授業	岐阜県立山県高等学校	5.1.16
海原 康孝		進路ガイダンス	高校ガイダンス	福井県立若狭高等学校	4.6.20
加藤 智樹	㈱さんぼう	進路ガイダンス（歯科分野）	プレゼンテーション	愛知県立瀬戸北総合高等学校	5.3.17
松川 千夏	㈱さんぼう	進路ガイダンス	高校ガイダンス	愛知県立瀬戸北総合高等学校	5.3.17
今井 藍子	㈱さんぼう	職業別体験授業	分野別ガイダンス	敦賀気比高等学校	5.3.9
大谷 悦世	㈱昭栄広報	進路ガイダンス	高校ガイダンス	岐阜県立大垣桜高等学校	4.7.13
川畠 智子	㈱ライセンスアカデミー	歯科衛生士の仕事内容を知ろう	職業別体験授業	岐阜県立大垣商業高等学校	4.5.16
藤塚 未子	㈱ライセンスアカデミー	進路ガイダンス	模擬授業	愛知みずほ大学瑞穂高等学校	5.3.9
小椋 博文	岐阜県立岐山高等学校	大学入試に関する指導講座	講義	岐阜県立岐山高等学校	4.11.14



大垣女子短期大学 紀 要

第 64 号

(非売品)

印刷日 令 和 5 年 5 月 31 日

発行日 令 和 5 年 5 月 31 日

編 集 図書・生涯学習委員会

発 行 大 垣 女 子 短 期 大 学

大垣市西之川町 1-109

TEL 〈0584〉 81-6811

印 刷 ニホン美術印刷株式会社

大垣市西外側町 2-15

TEL 〈0584〉 78-2171